



朝陽



No.66

2017 May

東京都立新宿高等学校(旧府立第六中学校)朝陽同窓会

CHEZ MATSUO

シェ松尾のお食事・ご宴会・ご婚礼



シェ松尾・青山サロン

東京都渋谷区渋谷 1-2-5 アライブ美竹 B1F

シェ松尾・松濤レストラン

東京都渋谷区松濤 1-23-15



グランファミーユ・シェ松尾

東京都世田谷区成城 6-5-34 成城コルティ4F

シェ松尾のご予約承ります。

朝陽同窓会の会員並びにご家族には優待制度がございます。

(但し、直接店舗にご予約された場合を除きます。)

株式会社ボンサンテ

代表取締役 梅澤博 (23 回)

TEL : 03(6868)6759 FAX : 03(6868)6021

E-mail : umezawa@bonnesante.co.jp

朝陽六六号 目次

会長ご挨拶……………	17 田中俊郎……………	2
周年記念特集記事……………		
卒業二十周年……………	四九回生……………	3
卒業三十周年……………	三九回生……………	9
卒業四十周年……………	二九回生……………	15
卒業五十周年……………	一九回生……………	21
卒業六十周年……………	九回生……………	29
寄稿随筆……………		
五輪、会場の整備と選手強化も……………	9 齋藤 修……………	31
新宿高校器械体操部追分総会……………	18 満野喜介……………	33
軟式野球部の思い出……………	36 海老沢克則……………	35
カンボジアの大きな空の下……………	旧職員 笠原知子……………	36
「母校をたずねる」(新宿高校シリーズ)……………	旧職員 賀川智子……………	38
同期会便り……………		
卒業五十周年同期会便り……………	18 柴田真樹……………	40
有能な同期達と楽しんだ「いちご会」……………	15 西出紀久……………	40
同期会便り十一回生「まるで宝の山だ」……………	11 堀江昭彦……………	41
喜寿の新樹会総会……………	10 石井 格……………	42
新樹会女子会開催のご報告……………	10 丹沢鈴代……………	42
八回生同期会卒業六十周年記念……………	8 小林曉生……………	43
七回生同期会便り……………	7 森田享・吉村悟……………	44
	</	

会長ご挨拶

皆様にとって朝陽同窓会とは

― 受身から自主参加へ ―

朝陽同窓会会長 田中俊郎（二七回）



昨年五月末の総会の議を経て、垂水尚志先輩（一五回）の後任とし朝陽同窓会会長に就任しました。

会員の皆様にとって朝陽同窓会とは何でしょうか。同窓会規約第三条によれば「本会は会員の親睦と向上を図り、母校と緊密な関係を保つことを目的とする」とあります。

では、具体的に何をしていますのでしょうか。同窓会の基礎は、同期会です。若い内から同期会を開催できるように立ち上げ支援金を給付すると共に、『朝陽』第六四号から卒業二〇年を周年記念特集記事に掲載するようにしました。横だけでは不十分で、縦のつながりを強化するため、九月初旬の学園祭（旧朝陽祭）での同窓会展示を依頼し、運動部、文化部、同好会等のOBORG会の組織化を推奨しています。縦の組織化

のもう一つは地域支部です、多摩、関西、九州、群馬、宮城、北海道、東海、朝陽USAです。

囲碁、ブリッジ、ゴルフなどにご興味がある方には、戸山対抗戦もあります。「朝陽ヨット部」、「朝陽バラ会」もあり、「六声会」に加えて、混声合唱の「朝陽合唱団」も創設されました。「耳学問」をご希望の方には、総会時の卒業五〇周年記念生の特別講演、年三回の「朝陽クラブ」、さらに「ホームカミングデー」も十一月に始めました。

同期の緊密な横のつながりと多様な縦のつながりを育て、かつては「大家族主義」、最近では「チーム新宿」と言われる、「自由で」、「暖かな」校風をさらに発展させていきたいと思います。

母校支援のために、二〇二二年の創立百周年記念事業の一環として、給付型の朝陽奨学金の支給を開始し、館山寮（旧塩見寮）の改修を一部補助しました。後輩たちを支援し、育てていただけないでしょうか。そのため、寄付文化を育て、根づかせたいと思っています。創立百周年はそのきっかけです。

これらの活動の情報は、定期的に更新される朝陽同窓会のホームページでご覧下さい。

事務局より会費納入のお願い

☆会費の種類

- ① 年会費… 2,000円
- ② 長期会費… 10,000円（6年間有効）

①、②のいずれかをお選びいただけます。毎年の納入が煩わしい方には長期会費をお勧めいたします。いずれも本誌に同封の振込用紙をご利用下さい。

☆会費納入の免除

- ・卒業時に入会された会員は入会金を納めていますので、卒業後5年間は納入免除です。今年は65～69回生の方々が該当いたします。
- ・現・旧職員[名誉会員]と80歳以上[寿

会員]は納入免除です。今年の寿会員は中1～新8回生の方々です。

☆期間

- ・会計年度は4月～翌年3月で、会費は納入した年度から起算いたします。
- ・重複した期間があった場合には、有効期間が重ならないよう連続期間として扱います。
- ・寿会員から会費納入された場合は、寄付扱いとさせていただきます。

☆寄付金

- ・昨年も寿会員はじめ多くの方々からご寄付を頂きました。今後ともよろしくお願いいたします。

（事務局長 15 西出 紀久）

卒業二十周年 …… 再会（再開）

49回

二〇一七年二月四日（土）に四九回生の卒業二十周年同窓会を行いました。

きっかけは、朝陽会の集まりに私が参加し学年代表幹事に指名していただき、企画が始まりました。

そして、同級生の元G組・桜井君に同窓会の実施を相談したところ、全面的な協力をもらい企画が本格スタート。そこから多くの同級生のご協力をいただけたため、実施ができました。

皆様に心から感謝申し上げます。

新宿ヒルトンホテルの地下のパーティー会場に、先生方が五名と生徒が八十人程集まり大変盛り上がりしました。

学生時代には、お互いに話したことがなかった人同士が仲良くなったり、久しぶりにあった仲間と懐かし話をしたりと大変盛り上がりしました。

最終的には五次会（朝まで）までいったそうです。

二十年経った今でも強い絆があり、また、新しい絆が作れた事もすごい事です。

高校の同級生は特別な存在であることが証明できました。

終わりに感謝の言葉をたくさんいただき、本当にやって良かったです。

しかし、フェイスブックや口コミで情報を広げていったものの告知に苦戦し、アプローチができなかった同級生が約九十名いたことが唯一残念です。

今後も定期的な同窓会を行い、さらに同級生の繋がりを強めるつもりです。

卒業三十周年を迎えたとき、先生方を含めもっと多くの人がいつまでも元気に集まれることを楽しみにしています。

このような機会をいただいた朝陽会に改めて感謝いたします。

（代表幹事 B組 高木康之）

二月四日の同期会の写真を本周年記事末尾に掲載しております。



出発点

A組 小野 芳子

今回の同窓会の話が来たとき、すぐに参加を決めたものの二十年も会っていない友人をなかなか思い出せずアルバムを探した。見始めたら止まらなくなり、一人一人の顔と名前を照らし合わせ何時間も懐かしさに浸った。当日が待ち遠しい反面、自分のことを分かってもらえるか不安だった。

当日は、久しぶりの新宿に少し迷ったが会場には懐かしい顔がたくさんあった。素直に感じた印象・女子はみんな変わっていない。男子は面影あるけど…。二十年という時の長さを感じた。

高校生活は本当に毎日が楽しかった。自由な校風もあって、好きなことをして、好きな時を過ごしていた。でも、勉強は本当に嫌だった。授業をサボる事ばかり考えていたように思う。そんな私だったが、ずっと看護師になりたいと小さな頃から思っていた。高校の進路相談で、担任の先生にそのことを告げたところ、「看護師は向いている」と言ってくれた。その言葉で、目指す道がはっきり決まったことを良く覚えている。今、千葉市内の病院で看護師として働いている。自分でいうのもなんだが、看

護師という職業は私に向いていると思う。あの時の先生の言葉が今の自分の出発点だった。

今回、同窓会を企画・開催して頂いた幹事の方々ありがとうございました。久しぶりの友人達と貴重な時間を過ごすことができ、とても楽しかったです。



学生時代の価値

B組 高木 康之

私は、新宿高校に補欠で入学して学力も下の方だったし（勉強もしてなかったけど）、部活もやらず毎日学校が終わると仲間とだらだら会話したりゲームセンターに寄って帰る。それだけの毎日でした。

それから、20年が経って、あらためて周りを見回してみると、いつも遊んでいる仲間は新宿高校の同級生ばかり。20年も経っているのに、周りの環境は変わっていくのに相変わらずの馬鹿話を続けている。それだけでも幸せだ。

そして、卒業20周年を迎えるこの年に学

年代表幹事になって同窓会を行った。いつも遊んでいる仲間だけに限らず、「何かあったら手伝わしてくれ」と買って出る仲間からの連絡。

久しぶりに会うみんなが今、いろいろな仕事についていて、みんなそれぞれに頑張っている姿と輝いて見えた。

私も社会人になっていろいろな経験を積んで、いろいろな人に出会ってきたが、新宿高校の同級生は何か特別の存在に感じた。学生の頃から卒業してからというもの「ただの母校」という存在に思っていたが、あらためて仲間を見た時に、本当にこの学校を卒業したことが嬉しく誇りに思えた。

我々の世代は、長い新宿高校の歴史でいうと学力もスポーツも低迷期だったかもしれないが、人間性は歴代の先輩方に引けを取らない仲間だと思う。

これからも、新宿高校の卒業生として、恥の無い人生を送りたい。

今後も同窓会やって49回生がより一層盛り上がる事を目指して!!



紡ぐ、繋がる

C組 豊明 日美

皆が次々と進路が決まっていき卒業式を迎えた当日、私はまだ人生の岐路がどうなるか分からずにいた。

どういう運命のいたずらか、よりによって家業である雅楽の笙を勉強しようと決めたのは高校2年の3学期だった。元々進学を希望しており、更に雅楽が学べる所は東京藝大だけで滑り止めもなく単願での受験。センター試験後に3次試験まであった為、日程的に卒業式当日の午後にならないと合否が分からなかった。

幸い、奇跡的にストレートで合格し4年間雅楽を専攻した。その後自分がまさか20年近くずっと演奏を続けているとは。

近年、古典演奏はあまりせず、フリー活動を中心に和洋ユニットや様々な演奏家とのフリーセッション、気の合った仲間と好きなジャンルのライブを定期的に行い、やっと自分の「好き」が仕事になっている。昨年はNHK WORLDというNHKの海外向け配信番組に出演オファーをもらった。5分という短い番組だったが国内外含め非常に反響が大きく、同窓会後に急遽レコーディングが入り、夏前には海外含めCDが

一般販売されることが決定している。くじけそうになりながらも周りに支えられ、メジャーな仕事依頼も来るようになり結果に繋がってきている。

一般に思われているよりも意外と笙奏者は多い。その中で自分が選ばれて出す音、作る音楽には誰にも負けない、オンリーワンの奏者として活動していこうと決めて日々演奏している。

音楽はソロプレイも非常に大切だが、一緒に仕事をして初めてお互いの想いやスキルを図ることが出来る部分が大きい。それはプレイヤーでも製作会社の方でも同じだ。関わる人がいるから物が出来る。沢山の人と関わって自分の人生は出来ている。それは高校生活も同じだった。

卒業20周年という節目での同窓会は懐かしい顔ぶれ、クラスが離れすぎていて初めて話した人など実に色々であったという間に時間が過ぎてしまった。担任の前川先生があまりにも早くお亡くなりになられ、お会い出来なかったのは非常に残念だったが、1年時の担任だった太田先生が私の事を非常によく覚えていて下さったのが本当に嬉しかった。

高校は人生の経過点に過ぎない人もいるかもしれない。だが私にとっては新宿高校での生活があったからこそ今の自分がある

と
思
っ
て
い
る。
最
高
に
誇
れ
る
母
校
だ。



高校生活の夢の跡

E組 西山 健太郎

昨年の暮れの事だと思いますが、フェイスブックに見慣れない人からメッセージが入る。見れば新宿高校を卒業してから20年の月日が経っていて、それを記念した同窓会を開いてくれるとの事。誰が来るのか不安でしたが懐かしさが勝ってすぐに出席の返事を出しました。

高校を卒業して二十年……。同窓会当日までに、昔話のネタに学校生活の出来事のできるだけ思い出しておこうと脳内の記憶を手繰り寄せていると、勉強していた教室内のことは一切思い出せない！（先生方申し訳ありません。）

もう時効かと思われるので列举すると、校庭の隅の壁に空いた穴から新宿御苑に侵入して花見をしたり、運動会や学園祭の度に中央公園で大騒ぎをしてパトカーのサイレンが鳴るたび蜘蛛の子を散らすように逃げ回ったり、授業をサボってカラオケに行

くけど部活までには戻ってきたり、明け方の新宿で紀伊国屋のシャッターをよじ登ったり…。

ろくでもない事ばかりしていたけれど、今にして思えば新宿高校生は悪さもするけど、決して他人には迷惑をかけず自己責任で楽しんでいたように思う。校舎のガラスを割って回るとか盗んだバイクで走り出すのとは少し性質の違う感じというか。

そう、自主自律だ！（合ってますか？）

先生方にも、自己責任の範囲内で遊べるだけ遊べ！でも他人に迷惑はかけるな！そしてやるならバレるな！上手いことやれ！と暗に諭されていたと勝手に解釈している。

高校時代に培ったこの絶妙な世界観は後の自分にも大きく影響を与えている事は間違いない。今では社会人も十五年目を数え、家庭を持ち子供も持つ親の身ではありますが、久々に新宿高校魂を呼びこさせてくれた幹事の皆さんと出席いただいた先生方に本当に感謝です。

追記。今度、三十周年になる前には、バレー部の皆の所在を突き止めてバレーボールやりたいです！



A組担任
吉田先生からのご挨拶



先生の話を聞く先生方と生徒達





A組担任の吉田先生



B組担任の今泉先生と野村君



E組担任の野村先生



F組担任の田幡先生と橋本君



G組担任の太田先生と谷さん



A組集合写真





C組集合写真



B組集合写真



E組集合写真



D組集合写真



G組集合写真



F組集合写真



二次会の様子



卒業三十周年・バラ色のヨーロッパは愛校心から逃げられない?!

新39回『サンキュー会』(信田勇先生の命名による)

39回

平成28年12月、この前年が明けたと思っていたら、もう師走…

「どうしていつも新大久保なの?」「だってさ、新宿だと迷子になるでしょ」母校からほど近い新大久保にて39回生有志が締切り間近の宿題を片付けに集まりました。まずは模範解答から…。



省三氏からバラ色の糸に

絡め取られたあの日

F組 武内 俊介

新39回生として昭和59年に新宿高校に入學した私たち、高校の長い歴史の中の一期な訳だが、個人的にはメモリアルな年に入學したことに後から気づくことになる。

私は現在、京成バラ園芸という会社で新品種開発に従事している。植物を扱う世界では、交配という方法を用いて夢に向かって品種開発に勤しむ人を『育種家』と呼ぶらしく、おこがましくも京成バラ園芸の

『三代目育種家』などと名乗らせていただいている。その初代は、大先輩・旧5回生の鈴木省三氏である。初対面は、大学院に進み研究テーマを模索して、教授から「バラの系統分類をやってみないか、材料をもらえるバラの権威を知っているから一緒に挨拶に行こう」と京成バラ園を訪れた時だった。開口一番、その眼光鋭い老人は「おお! 君か!」とほくそ笑んだ。省三氏は母校の後輩たちに、バラの美しさやすばらしさを身近に感じさせることで、後進となる人間を育てようと思い、『朝陽バラ会』を立ち上げ、校内にバラ花壇を寄贈していた。それが昭和59年、まさに私たちが入學した年であり、私が運命のバラ色の糸に絡め取られた年である。省三氏にとっては、(してやったり!) だったのだろう。

当時はそんなことを知る由もなく、サッカーに打ち込んでいたわけだが、全くバラを意識していなかったわけではない。植物好きは物心ついた頃からのもので、中学生のときにはセントポーリアにのめり込み、京王デパート屋上の専門店に通いつめ、すでに育種も行なっていた。高校時代も、宿

根草、サボテン、果樹など幅広く園芸を楽しんでいたが、そんな趣味はひた隠しにしていたことは言うまでもない。

部活動として情熱を傾けたサッカーも息子がクラブに入団したのをきっかけに、気がつけば今年でもう9年目。指導者以外にも仲間内でフットサルやサッカーを楽しんでいる(昔も今も上手ではないが)。ライフワークである、バラとサッカーの両方が高校時代に端を発しているということである。

生業としているバラの育種、簡単に紹介すると、目星をつけた品種同士、片方の親のめしべに、もう一方の親の花粉をつけて種を取り、それを蒔いて芽をだした子供たちから良いものを選ぶ。理屈は理科の世界だが、世界中で人類が二百年の時をかけて改良を重ねてきたバラは、すでに奇形の行き着くところまでその姿形を変えてしまっているため、人類の飽くなき欲求を満たすに足る新品種獲得の確率は恐ろしく低い。

私の所では、毎年30万粒の種を蒔き、それを8~10年の歳月をかけ選抜し、最終的に名前をつけて発表できるのは5品種あればよい方だ。しかしこの数万分の一に込めた思いが、美しい花を開き世界中の人々に感動を与え、喜びや癒しとなり、時には愛の代弁者となることを想像すると、全ての

苦勞は報われる。二〇一〇年にはローマ国際コンクールで省三氏に次ぐ日本人2人目の金賞を受賞し、昨年はモナコ国際コンクールで、日本人初の受章者となったが、鈴木省三氏の功績には、まだ到底及ばない。彼の残した朝陽バラ会は今も元気に活動を継続し、校舎前の花壇に美しいバラの花を咲かせている。機会があれば一人でも多くの方に見て頂きたいし、興味があれば是非朝陽バラ会に参加して頂きたい。



東日本大震災、逃げたもの・逃げられないもの

C組 吉田 元

仙台の地でサラリーマンになって7年半。父の他界を機に福島県いわき市で祖母の幼稚園を手伝うことになり、成清先生はじめ友人たちに励まされて第二のスタートを切りました。同時に高校時代に断念（挫折）した剣道も再開しました。それから12年、まさか震災と原発事故の災禍に遭おうとは。地震の4日後、祖母を預けていた施設から「ガソリン不足で職員が出勤できません。

できれば引き取ってもらえませんか…」の電話。水道は止まり、食料も手に入らず、ないもののづくしの介護は想像をはるかに超えるものでした。ひと晩にトイレの世話が7回を数えると2時間続けて寝るのがやっと。その後、決死の覚悟で亀裂の入った常磐道を急行。一〇八歳で大往生するまで都内の施設で過ごすことになりました。

高校生当時、上級生以上に恐ろしく感じたOB、成績不振からくる進学への不安もあって、子どもの頃から続けていた剣道を放り出してしまいました。

一方、仕事も続けていけるのだろうか、幼い子どもたちの健康は本当に大丈夫だろうかという不安の中、放射線量を少しでも減らすために50年以上も幼稚園を見続けたヒマラヤ杉を伐採し、園庭の表土の入れ替え、県・財務局・文科省との復旧工事の折衝、一時的に園児が八割近くも市外に避難したことによる減収、一対一〇〇の保護者会での説明「捨て切つて撃つ」決断を強いられる日々を送りました。

その時、わが家の子どもへの絵本とパズルのプレゼントに「本当に迷惑をかけて申し訳ない。会社としても必死で取り組んでいるので理解してもらいたい」のメッセージが。電力会社に勤める同級生からでした。私は「多くの園児が屋内退避区域でないに

も関わらず市外に避難した。その家庭から保育料はもらえない。けれども職員には給料は払わないとならない」と窮状を訴えました。彼が逃げないで面と向かってくれたことに感謝しつつ、それぞれの立場でやり通すしかない。子どもがいるから簡単に投げられない。そんなやりとりをしました。

震災後のタイミングでフェイスブックを通じて急速に39回生とのつながりが広がり、今まで全体で集まることのなかった私たちが『卒業25年の会』でようやく集結することになりました。私自身も『藤澤先生を囲む会』『プレプレ30年の会』いずれの集まりにも関わるようになりました。剣道部の同期がいわきに訪れて一緒に素振りをしたのもいい思い出です。

合唱コンクールで指揮棒を振ったこと・修学旅行でウケた先生方のもので、卒業後も宮城朝陽会の諸先輩に面倒見てもらったことなど、支えになっていたことは間違いないところで、どこかに千駄ヶ谷六丁目の校舎で過ごした日々が残り続けることでしょう。



新宿高校の

DNAは僕が欧州に

B組 加藤『チャウミー』朋海

もうじき半世紀を迎える人生。まだ30歳程度の気持ちで軽々と動いております。新聞がぼけてきたとか髪の毛の色がとかで気分がちょっと濁ったりする瞬間もないわけではないものの。

卒業後ドイツに渡るため高校2年からは就職活動が最優先でした。授業をさぼって下準備に集中できたのも新宿高校ならではだと思います。クラシックのレコードを買うために昼飯代を節約して大使館など山手線の内部を歩いて探しました。すり切れるほど聴いたカセットテープ。CDが出てきたのはその頃でありました。

ヨーロッパは大陸なので1時間も車で走ると別の国。言葉や通貨が違って当時は駐車料金が払えないこともありました。しかし、いろいろな国や文化に触れることで比較できる物差しが自分の中ではつきりしました。

振り返ると新宿高校の持つ自由性はLIBERALISMと理解できて国際的社会的に極めて高く評価できる特徴だと思っています。単なる伝統なのか、教員の間でそういう

た方向性のカギを握った人が守っているのか、学生がそういった姿勢を学んで後輩に授けるのかわかりませんが校内にそういった空気が存在し長年引き継がれているということはとても興味深いです。私は制服ではなくネクタイで通っていましたがそれも何となく認められていました。たまに新入生から先生と間違われて「ああ、おはよう」と先生のように返事したことも。世界の歴史を少しさかのぼるだけ、LIBERALISMのために武器を手取る、命を落とすといった例はあり、現在でも戦っている人は存在します。

現在ルクセンブルク公国とドイツの国境となるワインで有名なモーゼル川沿いのブドウ畑に囲まれる小さな村で生活しております。会社設立には日本も含めていろいろな候補があったのですが、この村を選んだかという理由の一つにはここに新宿高校で体験したと同じLIBERALISMを感じたからです。美しく川沿いに広がるブドウ畑とゆとりのある自由感、しかし、のんびりした環境の中にも自己管理や責任、信頼とプライドを自然と最高級のレベルで持ち合わせているのです。例えば日本で「お茶はいかが」とおもてなしされるところ「ワインいかが」と勧められ「はい」と答えるという時間どころか翌朝までグラス片手に話し込

んでしまうことも。海外からワイン通のお客を迎えた時こちらのワインでおもてなしすると「こんなおいしいワインは生れて初めて」と「飛行機で持っていけないので送ってもらえますか」と箱で注文していくほど高い品質です。

国際化やインターネットなどの進む世界で自分の周りの境や壁がなくなり逆に自由を怖がる人々さえ増える中、白紙の上に自分の思いのままに何か作り上げられるというDNAは新宿高校卒業生独特なものではないでしょうか。私は一度頭に植え付けるとそれしか見えずに燃えるタイプで同級生の女の子に迷惑をかけたりしましたが、そんな自分の熱中力と新宿高校で授かったDNAは現代国際化社会においてとても価値あるものと感謝しております。



『わが心の新宿高校』

C組 寺島 千晴

昭和58年の何月だったか、初めて新宿高校を訪ねた際の印象をおぼろげに記憶して

いる。都立高校の希望校をどこにするか、実際の校風を見て決めよう、と何校かを訪問していたのだった。少し寂しげな印象の駒場、特に何も引っかけりのない青山…と比較して、新宿高校が他校を圧倒しているものがあつた。底抜けの自由さ、バンカラな明るさ、そんな校風である。当時、校舎は今と違ってボロボロ、下駄箱近辺も、プール脇の部室も、良く言えば歴史と年季が刻まれた、綺麗とはいえないたたずまいだったが、私はその明るい自由さに強烈な魅力を感じた。希望校は即決だった。

卒業して30年目の今年になって思う事は、第一印象は間違っていないかった、という点である。青山学院に進み、コピーライターになるという夢を叶えて必死に働いていた頃は、母校の存在は遠くなった。その後、業務多忙で体を壊して倒れ、何年もかかって社会に復帰してさらに時が経ち、また新宿高校の仲間と再会し、改めて母校に感謝している。たとえ十年ぶりでも、先週も会っていたかのような距離感で話せるのは、新宿高校の友人ならだと思ふ。今と異なり、我々の高校時代は、『勉強しろ』という言葉を新宿で聞くことはなかったと思う。卒業後、『新宿高校は本当に自由だったな』、と時にのほほんと思い返すばかりだったが、ある時『朝陽』70周年記念号を

読み、心動かされた事があつた。

今から遡ること何十年も前、職員室で先生方が、『生徒の自由とは、自主自律とは何か』について、議論していたという記事だった。我々は漠然と、新宿の自由さ、懐の広さを享受していたのだが、それには我々にそれを感じさせない先生方の陰ながらの努力があつたのだということ。ただ放っておかれたのではない、『自由とは？自主自律とは？』を議論した上での自由さだったのだった。桜の季節には御苑でお花見、雪が降れば雪合戦。卒業するまで御苑への入り口は壁の穴で、入苑料が必要だと気づいたのは、卒業して初めて正面入り口から入った時。体育祭の後、千歳会館に繰り出す我々を笑顔で送って下さる先生方：なんて今では信じられないと思う。

高校時代をノビノビと過ごさせていたおかげで、新宿校生には大学生、社会人になってから活躍するだけの余力『のびしろ』が残されているような気がする。本人が本当に本気になった時、そのパワーを爆発させるだけの栄養が蓄えられているかのように。

『自主・自律の精神』『人間尊重の精神』その育成という教育目標は、言葉でガミガミ言われることなく、我々六中健児の心に刻み込まれているのではないか。新宿高校

の持つ、大らかな校風が、我々を育ててくれたのではないか。母校を離れて30年も経つてから、このことに気づくほど、新宿高校は懐が深いのだ。

『鼓腹撃壤』理想的な政治が行き届き、人々が平和な生活を送ること。民は治安が悪いと政治を意識するが、平穩無事な時には政治を意識もしない。これが学校運営にも当てはまるのではないか。このことを考えると、当時の先生方への感謝の気持ちが強く胸にこみ上げてくる。

何も考えていなかった高校時代（ちゃんと考えていた同級生もたくさんいたと思うが）、足助先生や国見先生の真似をし合つて転がるほど大笑いしたり、文化祭の脚本を書いて劇を上演したり、合唱コンクールの『エトピリカ』を歌いながら、感動で泣きそうになったり…。そんな高校時代を過ごさせてくれた新宿高校の友人、先輩、後輩、先生方、そして何より、新宿高校の校風そのものに、『ありがとう！』という思いで一杯である。『愛校心』という言葉を、私は新宿高校から教えてもらった。



39回生の二〇一六年は

かく更けゆく

座談会より 石原孝一郎

ともかく、座談会に集った精鋭7人。石原孝一郎、駒崎（佐藤）すみ、寺島千晴、濱田智弘、平野哲郎、横田（山口）正美、吉田元【以下、孝、す、晴、智、哲、美、元と略】

孝「録音するよ、急に黙らないでね」

全員「はい」

孝「さて、今日の座談会のテーマは『思い出の先生』ということで、まずは足助先生から行きますか、今日もご参加いただいてますし。」

元「あのー、ね。マウントビスービアスのボルケイノが噴火してポンペイが…」

全員 爆笑

す「私習ってないかも。笑ったけど」

美「似すぎてて怖い」

哲「力石徹（あしたのジョー）に似てたよな」

晴「25年の同窓会の時、全然気づかないで写真撮りまくってたら、あれなんか若すぎない？え！元さんじゃない！ってなったよ」

孝「確かに、それっぽいセーターにズラま

でかぶつての熱演だったからね」

智「カッラまで用意したの？レンタル？」

晴「大雪が降った後に、足助先生の授業があり、教室の窓の外のひさしに小さい雪だるまが三〜四個置いてあって、みんなが雪だるまに意識が行って授業に集中しない状況だったら、足助先生が急に切れて、雪だるまを両手で校庭に投げ捨てて…」

元（モノマネで）「こんなものはねーこうしてね、落としてね」

全員 爆笑

美「でも熱い人だよ、熱心に教えてくれて。」

晴「そうそう」

孝「同窓会出席して欲しいよね」

哲「ダブル足助で!!」

全員 爆笑

孝「さて、次は？国見先生は？」

晴「ありをりはべりいまそかり」

美「国見先生の恋愛話聞いたな」

元「先生の実家に行ったことある」

元以外全員「えーなんぞ？」

元「長いので割愛」

晴「先生は北島君がお気に入り、他の男子と扱いがちがってたりして」

美・すみ「えーそうなのー!」

孝「藤澤先生は？」「館山で溺れて、『助けてください』って言ったのはホントなの？」

元「ボートの上の戸田先生に？」

智「藤澤先生の会の時、ずいぶん大きく（横に）なっていたよね？」

全員 爆笑

孝「その会の時、先生に記念品として柔道の帯を差し上げたんだけど、ウエストが99センチだと聞いて」

全員 笑

孝「俺のバストと同じだった…」

全員 失笑後爆笑

孝「体教統きで戸田先生。先日高校のカミングデーって催して学校に行ったとき戸田先生がいっちゃって、ご挨拶はできたのだけど、写真を撮らなかったのが悔やまれる」

晴「そうそう、失敗したよね」

美「館山遠泳といえば、戸田先生が思い出されるよね」

全員「うんうん」

智「あいよー（愛洋）とか掛け声かけてたのは戸田先生の印象だね」

元「卒業してだいぶ経った後に、戸田先生が井の頭公園勤務と同窓会名簿で知って、デートの時に行ってみたらいらっしゃって『新宿高校39回生の吉田です』と話しかけたら、『悪い高校生追いかけてまわしているより、ちっちゃい子相手にしているほうがよっぽどいいね』と言われた（汗）」

す「へー、ところでデートは誰と？」

元「テーマと離れるので割愛」

孝「次行きます豊澤先生！」

美「1年生の時のスキー合宿で、豊澤先生が、後ろ向きに滑りながら、みんなをビデオ撮影していた記憶がある」

す「えー意外、あのモミアゲで、あの体で」

全員 爆笑

孝「あれ？豊澤先生って何の先生だったわけ？」

智「地学だよ。地学室でレーザーディスク磨いていた」

元「一学期まるまる授業が新宿高校史だった。」

哲「えーそうだったわけ？毎日ロマンスカーで町田から通っていたって噂が！」

哲以外全員「マジで！」

孝「一年生の時に全国的に名称の変更された（お風呂）に通ったという怪しい噂が多い先生だったね。次、須賀先生は？」

美「フィル・コリンズに似てなかった？」

哲「ハハ、確かに、額の広いフィル！」

全員 笑

元「修学旅行で菅先生に呼び出されて、倉敷の石山花壇（宿）のロビーで先生たちものまねオンパレードをやったんだけど……」

元以外全員「!!!（笑）」

哲「誰のやったの？」

元「田中先生、足助先生、橋本先生、菅先生、亀谷先生、戸田先生、藤澤先生、井村先生、細谷先生、会田先生……」やり倒した翌日須賀先生が、『おおうっ、おおうっ』と言いながら近づいて『どうしたんですか？』『戸田先生だよ』早速トライされていた」

孝「数学科らしからぬおもしろい先生だったよね」

孝「さて、まだまだ印象に残る先生は多いけど、そろそろ原稿に収まらなくなりそうだな、まとめを平野君！」

哲「個性的な先生方で、その先生方が校風を守っている面もあるよね。自主自律の校風を、授業や様々な催しや部活を通じて生徒に教えてくれる。残念ながら、既に鬼籍に入られた先生もいるけど、あらためて全ての先生に感謝の気持ちを伝えたいね。」



プレプレ30年の会 2015年11月 於 クルーズクルーズ新宿店

卒業四十周年

……

すべては南口の改札から始まったようだ

29回

二十一群つてもう無いの？都立高校つて学区群制じゃないんだ……十年近く前になるが、長男の高校受験の時、少し驚いたことを思い出す。僕らの頃の学区郡制は、自分の通いたい高校に入れるとは限らず、それを問題視する声もあったが、自分としては、母親が府立第三高女、今の駒場だったこともあり、どちらでもよいと思っていた。それより、どっちも都立だから強くは無いんだろうけど、バスケ部ってどんな感じなのか？そっちの方が気になって仕方が無かった。入学前にこっそり体育館に行ってみたりもした。当時の新宿の体育館は、今では有りえないほどボロボロの床で、せっかく塗ったワックスも床板に染みこんでしまつて、滑り止めになる筈も無し。不揃いのTシャツを着た部員達もひと目で弱そうだった。こりゃだめだ、俺が入って強くしなきゃ、と本気で思ったりもした。（先輩の皆様本当に済みません……）まさに若気の至りで冷汗ものなのだが、あのエネルギーは何処から出て来たんだろうなどと、最近では他人事のように羨ましく思ったりもして

しまう。ちなみに学説では、このような感覚を「加齢に伴う楽観」などと称していてこれが始まると、その後余り長くは無いらしいので、要注意らしい。

バスケの練習は勝手に見に行つてはいたが、ちゃんと登校したのはもちろん入学式の日である。初めて買った山手線の定期券を新宿南口の改札に見せて出ようとした時、改札員がその定期券をひっぱたいて弾き飛ばしてしまったことがある。ちゃんと見せろ、そんなんじゃ見えねえよ！驚きつつも飛ばされた定期券を拾いにいって、彼の目の前に差し出したら今度は、そんな見せ方が吹っ飛んだ。その時はこっちも頭にきて、バカ野郎死んじまえ！などと切り返した。これを今やったらお互いに大変なことになるが、振り返れば、当時の改札員は生意気な若輩に社会のルールを手荒だが手短に教えたのだと思う。こっちも相当の間、いつかぶん殴つてやる、と思っていたが、今思えば、有り難かったような、懐かしいような感覚が強く残っている。

手荒な洗札から気を取り直して、南口改札を左に折れ、古い記念碑と台湾料理のバラックを横目に見ながら階段を下りると場外馬券場。その横のガードを潜ると、大人専用の浴場と、囲いの向こうに日通の寒々しいヤードが広がっていた。こんなルートが学校指定の通学路だったので、進学校に合格したと喜んでいた親達が、入学式直後のPTAの席で、何であんな店の脇を通学路に指定するのか！などと嘔み付く場面が毎年繰り返されたようだった。当時の田山校長は、新宿高校の校風を象徴するような人柄で、「そのうち慣れますよ。」と手短かに返答し、他に何かありますか？無ければ以上で終わりにしましょう。この話は帰宅した母親から聞いたのだが、そのとき初めて新宿に入つて良かったかも……と、何となく思つたのをたつた今だが、思い出した。

これらの思い出は、高校入学初日の出来事だが、その後、バスケ部の朝練で、場外馬券場脇を急いでいた時、向こうからふらふら歩いて来た女装のオジサンに、今から部活？何やってんの？と尋ねられたことがある。顔のお白粉は伸び始めた鬚で霜柱状に剥がれつつあった。バスケ部です。オジサンは仕事帰り？と聞き返したら、お、お、オジサン……と、絶句してしまつた。でも直ぐに気を取り直したようで、腹筋ちよつと

触らせてよおと呟いてきて、減るもんじゃないか、とこっちが思うが早いのか、バスケやつてるから腹筋割れてんのねえ！つてな始末。気分は良くは無かったが、弱つてたオジサンが少しだけ元氣に見えたのには、何故か悪い気はしなかった。

これも、ほんの数秒の出来事だったが、当時の新宿界限には、その手の含蓄深い出来事があちこちに転がっていた。登下校の時に感じる新宿の街や空気感は、世間の建前とは一線を画した、良い悪いとは別の、実践的な認識力を与えてくれたのだと感じている。高校卒業後程なく各自の船を出す重層的で多様な現実社会における抵抗力を涵養する貴重な予習時間であった。

ちなみに、新宿高校の卒業生が、大学の新入生歓迎コンパなどで、急性アルコールの仲間を病院に運んだ類の話は数多いが、酩酊・失神して仲間に運ばれた話は、これまで余り聞いたことが無い。高校時代に酒量をわきまえていた、などといったはコンプラ時代の今日、部活停止級の大問題だが、これも、通学路が新宿の巨大繁華街を横断していたことと、無縁ではないだろう。

「人間いつまでたっても未熟なもんだ。」「社会は自分勝手にはならないよ。」「物事や人生の良否・成否の決着は最後まで判らないもんだ。」「人生は千差万別、いろいろ

だよ。」…。

青年期に「新宿」が教えてくれたことは
枚挙に暇がない。

(B組 信田直昭)



新宿高校の頃

B組 佐藤 敏行

卒業前にB組の同窓会委員を拝命し、卒業記念品(金色の置時計です)の選定をして以来役割にそぐうことを一切せずに四十年の歳月が過ぎてしまいました。自責の念もありこの度この寄稿を引き受けたのですが、とりかからないといけないと思い悩んでいる時に担任であった佐藤喜一先生の計報に触れました。一九九一年の先生の著書「木々

の翠を見やりつつ」を読み直して(初めてかもしれないが)先生の新宿高校に対する深い愛情と同窓会でのご苦勞を知り、今さらながら朝陽会費も払っていないことを反省しています。

当時の二十一群を新宿高校で受験しました。落ちると他に行く高校もなかったのでストープの前の最前列の席で暑いなどおもいつつ緊張して試験に取り組みました。新宿はデパートやたまに場外馬券売り場と親ときた大都会で親しみとあこがれもありましたし、両校を下見した印象も門を通り坂を下り、ピロティに行くときと明るい感じになるのが良かった。ここに通うんだということを決めていました。

残念ながら入学式には出られませんでしたが。直前の春休みにスキーで足を骨折、入院していたためでした。一ヶ月ほど遅れて一年G組の教室には母の付き添いのもと朝早く登校しました。松葉づえでエレベーターもない五階の教室までよく登れたものです。今より体重も三十キロ近く軽かったのですが何よりその頃は元氣でした。(一昨年松葉づえの世話になり痛感しました。)どんな仲間がいるのかわくわくしながら同級生の登校を観察していました。クラスの集合写真では物故者みたいに一人だけ左上に小さな顔写真を貼ってあったのが残念でした。

けがをする前は高校ではサッカー部に入ろうと思っていましたが、出遅れたうえ経験のないサッカー部に遅れて入部する勇気がなくなつて、ちょっと自信のあつた卓球部にはいることにしました。隣のH組の福田君に入部したいと伝えたところいやそうな顔をされたのが不安でした。後で聞いたら台も少なく当時七、八名いた一年生は先輩たちの練習を後ろで玉拾いばかり。ただでさえ台につく機会も少ない中で更に増えるのがちょっといやだったとのことでした。

卓球部の練習は週三回。体育館の奥の四分の一の場所を使っていました。手前側がバトミントン部、隣が柔道部の時はまだよかつたのですが、バレー部やバスケット部が手前、隣が剣道部の時は玉を取りに行くのが大変でした。特に夏場は窓を閉めるのでバレー、バスケットから暑くて文句を言われたし、剣道部の胴着は臭かつた。

OB・OGの方たちもよく来ていただきました。女子ばかり面倒見る方やOB同士で台を占領する先輩もたまにいて部長の竹中君は時々ばやいていました。富士見の合宿は先輩方が大勢みえて春歌を教えられたり昔の卓球部の話を聞いたりでOB部屋は大人のサロンのような場所でした。打ち上げでは石の家で少々お酒も飲んでいましたね。外で飲むのはこの時が最初だったと

思います。

伝統の戸山戦まで高校生活はほとんどクラブ活動中心の生活でした。その最後の戸山戦では私自身まったくだめで卓球部全体でも負けたのが苦しい思い出です。

戸山戦以降は受験に向けて勉強に集中する時期なのでしょうが、勉強はあまりした記憶がありません。佐藤先生の発案でクラス最後の遠足にもいきました。解散後新宿で先生を交え飲んだ気がするのですが、卒業後に先生に訊くと高校生を飲みに連れていったことはないとのこと。記憶違いだったのでしょうか。

自由で自主性を重んじた校風の中で伸び伸び楽しく過ごせた高校時代でした。

卒業後は大学時代まではクラス、クラブの仲間とも交流があつたのですが、社会人になり次第に疎くなつてしまいました。三年程前に卓球部の二、三年先輩たちが中心になつてのOB・OGの集まりに呼ばれるようになりました。何十年もお会いしていないのにすぐわかる先輩、全く分からない先輩がありますが、楽しい交わりです。

今でも新宿にはよく飲みに行きます。歌舞伎町方面が多いのですが、店の若い女性に名門新宿高校卒業だと自慢すると新宿に高校があるなどと聞かれます。

バルト9から見た新宿高校は屋上にプー

ルがあつて渋谷区から新宿区に住所も変わつてしまいましたが高校時代はあの場所です。年齢も重ねて昔の先輩、友人との旧交を今後積極的に温めていきたい思い出です。



中野博之先生の思い出

D組 安藤 宏

誰でも青春時代、理由のない怯懦に襲われて周囲に心を開けず、暗くふさぎ込んでしまふ時期があるものだ。私はまさに高校時代がそうだったので、正直、この頃のことを回顧するのは今でもとても苦しい。今回、臆面もなく筆を執つたのは、実はこの場を借りてある告白をしたい、という痛切な思いからなのである。

国語の中野博之先生に、一年の時に古文、三年の時に現代文を教えて頂いたのだが、大変厳しい方で、小心者の私は、怒られそうな気がしてほとんどお話しなどできなかった。全身からほととばしる迫力、とても言ったらよいのだろうか、時折、怠惰な生徒に示される怒気に圧倒され、とても近づく勇氣などなかったのである。たとえば古文の予習について言えば、いわゆる、あん

ちよこを参考にしようとする、どんなに巧妙にやろうとしても必ずばれてしまう。その代わり、つたなくとも自分の言葉で考えた間違には大変寛容な方なのだった。

三年の現代文の授業で、小林秀雄の「西行」を扱った時のことだったと思う。西行がなぜ出家したか、専門家は詮索に忙しいが、そんなことは西行と共に忘れてしまえばよいのだ。という一節を指さされ、この一行に小林秀雄の批評のエッセンスがある、次の時間までに考えてくるように、との課題を出された。高校生にはかなりの難問である。人見知りの私がなぜ、次の時間に自ら発言する気になったのか、今から考えても不思議でならない。授業では先生はまず、誰かが手を挙げて発言するのをじっと待つのだが、あるいはその気まずい沈黙に耐えられなかったのかもしれない。文字通りしどろもどろに「一体化説」というのを提案してみたのだが、その時、こちらをギョロツとご覧になった時の厳しい表情が忘れられない。カミナリが落ちる、と覚悟したのだが、結局先生は気むずかしい表情のまま、特に反応は示されなかった。おそらくどこまで自分の言葉で私が語っているのか、吟味されていたのではないかと推測している。ここから先を書くのは面はゆいのだが、実はその学期の現代文の成績は10段階のう

ちの「10」なのだった。劣等生の私にとって、そんな成績をもらうのは後にも先にも一度きりの体験である。ペーパーテストだけでよい成績はつけない、と常々おっしゃっていたので、理由は今でも授業のその発言ぐらいいいか思い当たらないのである。

当時私は歴史が大好きで、将来もその関係に進もうと思いい、文学にはほとんどシンパシーを感じていなかった。大学に入ったあと、途中で専攻を変えたのだが、結局はそれがそのまま現在の職業になってしまっている。自分はいかにしたら文学に関心があるのかもしれない、と考えるようになったのは、今にして思えば、その時の先生との目に見えざる「交流」が一つのきっかけだったのだと思う。

人はそれぞれ若き日に、生涯を左右する凝縮された一瞬を持っているのだろう。私はその時、おそらく自分の中の、うかつにして知らなかったもう一人の自分に出会うことができた。人が人を評価する、というのはどういうことなのか、教師の端くれとして、今でも節目節目にその時のことを反芻してみたりもするのである。

文学はまことに厳しい世界だが、私にとってその厳しさは、今でも中野先生の存在そのものである。先生と小林秀雄と志賀直哉と、なぜかこの三人がトライアングル

になって頭の中を駆け巡り、未だに私を叱咤し続けるのだ。その後、はからずも中野先生が籍を置かれていたのと同じ大学の同じ研究室を卒業し、なおかつそこを生涯の職場にすることになったのも何かのご縁なのだろう。「あのときの安藤です」と一言先生に申し上げたい気持ちを四〇年以上抱き続けてきたのだが、自分に自信のない私は、どうしてもそれが果たせない。結局はそれが自分という人間の限界なのだと思うと、何やら哀しく、せつなく、胸苦しい。

実はこの文章を書きながらおそれるおそれる調べてみたところ、あろうことか、本年（二〇一六年）五月に先生は逝去されていたのだった。まことに痛恨の極み、としか言いようがない。ご冥福をお祈りしつつ、せめてこの場を借りて自身の怯懦を懺悔・告白したいと思うのである。



高校時代の思い出

H組 藤巻 淳一

高校時代は俺にとって暗黒の時代だった。目黒で中学まで過ごしたが、新宿という大都会にある学校に行くことになり、とってめ気持ちが昂揚した。田舎者の都会への憧

れである。服装も校則も驚くほど自由であった。当時はアイビーファッションが流行っていた。早速、三峰やタカキユーで買った洋服に身を包み、街に繰り出した。大都会の中でおとなしく授業を聴くという生活は俺には耐えがたかったようだ。それよりも魅力的な面白い世界がそこにはあり、大人の世界への憧れもあった。

次第にすっかりサボリ癖がつき、学校からは足が遠のき、新宿の映画館や喫茶店に入り浸った。当時決まってサボってしまう或る曜日が、出席不足で或る授業の単位取得が心配になり、落第するのではないかと不安でいっぱいになった。二年に進級できた時は本当にホッとしたものだった。このことはかなり大人になってからも繰り返しその夢を見ることになり、寝汗をかき、うなされることもあった。成績は下降線の一途、クラスでブービーにまで落ちこんだ。学校を替え、リセットしようとした。はかなことも考えた。部活動も辞めてしまい、彼女にも縁がなく、成績も最低、むしろこの先の展望などもつかない。正に真っ暗闇だった。これでも中学時代は野球部を創部しエースでキャプテン、成績もそこそこ良く、ちよつとは目立った存在だったと自惚れていたから、尚更その落差は大きかった。

おまけに高二の夏にヘルニアになってしまい、入院・手術をすることになる。約一ヶ月間の休学を余儀なくされた。どん底にまで叩き落とされた気持ちだった。青春とは真夏の太陽、夏草の匂い、光る海：明るく輝いているものだとかかり思っていた。森田健作や村野武範が出てくるテレビ青春ドラマの様に部活動に打ち込み、いかした彼女が居て、デートもして、楽しくてたまらないのが青春だと思わされていたから、自分とのギャップはとても大きかった。暗く先が見えない、しんどい世界だった。

今から思えばこの時が自分にとっての大きな転機だった。入院を境にこれまでの怠け癖を一新し、ひたすら本を読んだ。文学、哲学、歴史：興味の趣くままにいろんなジャンルの書を漁った。何でも良かった。手当たり次第に読んだ。苦しかったから何か光明を見つるべく、書にすがりたかった。自分にとって一番いい滋養の時間となった。この経験が今の読書好きに繋がっている。「そもそも青春というのは決して明るいものではなく、真つ暗闇なんだ」と言っている作家がいたのは後になってから知った。将来が何も決まっていけない不安定この上ない世界に居るのだから、暗闇も当然だ。

しかしながら、その高校時代の友人達と

は担任だった菅先生を交え、毎年真夏の一番暑い時期にゴルフコンペを行っており、もう十年近くも続いている。紅一点U嬢が参加してくれることもある。忘年会や野球観戦も行っている。卒業して四十年を経て、いまだに交流が続いているのは、自分にとって決して暗黒などではなく、高校時代こそかけがえのない時代であったかもしれないのだ。

旧友に会うことの楽しさは単に懐かしさを共有するだけでなく、自分自身のアイデンティティの確認ではないかと思っている。卒業後、皆様な人生を歩んできた。いいことも悪いこともいっぱいあった筈だ。いいまいい人も、うまくいってない人も、この先どうなるかはわからない。安泰などない。一寸先は闇、一年後、まして十年後など、誰にもわからない。人それぞれ、家族構成も、親の状態も、職場でのポジションも、資産や金繰り状態も違う。今後やりたいと考えていることも違う。あまり何も考えていないかもしれない。唯、旧友と会うことで見えてくる自分自身というものの再発見こそが楽しいのに違いない。



卒業四十周年同期会のご案内

G組 戸城 幸夫

私は今でも新宿高校ライフを満喫しています。平成二八年一年間で三〇回以上新宿高校に足を運びました。朝陽合唱団の練習と、ホームカミングデーでのツアーリーダーのお蔭で校舎の隅々まで知り尽くしています。

朝陽合唱団は創立百周年事業の一つとして、平成二十七年一月に発足しました。毎月第二第四土曜日の一七時半から二時間、七階の音楽室でみっちり練習しています。指導は、数年前には合唱部をNコンの全国大会に導いた現役のカリスマ先生です。

高校時代の合唱コンクール以来、合唱には縁のなかった私が代表幹事の義務感から入団して早二年以上の月日が流れました。面識のある団員は数えるほどでほとんどが先輩方でした。代表幹事として日々考えていることは、できるだけ多くの先輩後輩の皆さんと交流することです。そういう意味では合唱団の活動は絶好の機会でした。卒業直後の大学生から九〇歳のN先輩まで個性的な面々に囲まれて、あつという間に家族のような関係を築けるまでに仲良くなりました。最高齢のN先輩は毎年同期の集ま

りを続けておられ、今でも五〇名ほどに案内状を送っているそうですが、昨年はとうとう出席者が数名にまで減ってしまったので、同期会をやめてしまったと寂しそうに語っていました。私たち二九回生はいったいいつまで続けられるでしょう。N先輩に倣って出席者がひと桁になるまで頑張りたいです。

現在の六〇歳は半数が九〇歳まで長生きするという予想を聞いたことがあります。私の生涯の趣味は野球ですが、今ではそれに合唱が加わりました。何事にも意欲をもつて挑戦し続けることが元気に六〇代を生き抜く力となるでしょう。六年後の創立百周年に大ホールで記念公演をするのが目下の目標です。

さて、二九回生の皆様、私たちは今年卒業四〇周年を迎えました。三〇・三五周年と同期会を開催して参りましたが、今回も同期会を開催する運びとなりました。

平成二十九年一〇月二十一日土曜日。会場は三五周年の時と同じ新宿プリンスホテル地下二階レストランアリアです。万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

(代表幹事)



「29回生卒業30周年同期会」集合写真 撮影者 28回 伊藤真氏

卒業五十周年

……

木々の翠を後にして

19回

旧制府立六中校歌の歌詞に「木々の翠を見やりつつ」とある。これは現在の校歌に「代々木の森は年ごとに、緑の色もいや増して」と受け継がれている。勿論、新宿御苑のことである。

残念ながら、道路工事のためやや遠のいたとはいえ、今後も母校に精気を吹き込むことであろう「木々の翠」。それを後にして五十年経った。

当時の学校行事等の思い出や現在の心境を同期の諸氏に綴っていただいた。



バスケット

A組 青木 栄作

最初からバスケットに入ろうとは思っていませんでした。中学で経験はしていたのですが、お遊び程度、軽い気持ちで見に行った体育館、そこで殆ど、大人に見える先輩達が、凄く迫力で練習していました。その迫力に圧倒され気が付いたら入部していました。

入ってから知りました。新宿高校はバスケットの名門だったのです。すなわち強いのです、強いという事は厳しいのです。

一年間は、ただひたすら走りました。高校のバスケットの胆はスピードとスタミナ。短距離のダッシュ、長距離のマラソン、体育館ではなく、グラウンドです。ボールを触るのは、汚れたボールを磨くときぐらい。そのハードな練習は、夏休み、夏の合宿とピークを迎え、合宿が終わるころには三十人以上いた一年生は一桁まで減りました。今から考えると、あの時よく辞めなかつたと思います。辞めていたら私の人生随分変わっていたでしょう。でも確かに苦しかったけど楽しかった。

勉強を早々と諦めた私にとって、居心地の良い場所は、教室ではなく、部室であり体育館となりました。友達も殆ど、部室繋がりの方達です。要するに「バスケットめたら俺の高校生活何にもないぞ!」と薄々気づいていたのです。

入学は一九六四年東京オリンピックの年、練習中に一齐に甲州街道までダッシュ、小柄なアベベが独走で帰って来るのを観まし

た。男子バスケットの決勝も観に行きました。試合中隣の体育館で「東洋の魔女」が優勝を決め、その情報によって体育館が熱狂したのを覚えています。

名選手にはなれなかったけど、「本当に楽しい事は辛い事の後にやってくる」という事を実感出来たのが収穫。

当然のように浪人して大学へ。時は一九六八年、「ベトナム反戦」真つ盛り、私達運動部員の多くは何故かもう一つの運動に馳せ参じます、そんな時代でした。部室仲間とは、野音や明治公園で会う事になります。よく云えば、純粹で正義感に溢れていた、冷めた目でみれば、単なる運動好き……。紆余曲折ありましたが、よっぽど部活が好きなのでしよう、都立高校の教師になり、それから三十四年間、バスケット部の顧問兼コーチを続けました。

今は八ヶ岳の麓で、無農薬の野菜を作り出荷しています。鍛えた身体が役だっています。新宿高校の卒業生である事、とりわけバスケット部のOBである事がチョット自慢です。



クラス対抗合唱コンクール

B組 大西 直樹

あの過酷な高校生活の中に、合唱コンクールという全校行事があり、そこに参加して歌ったことを覚えていてる方はどれくらいいるだろうか。

そもそも、全校をまきこむ合唱コンクールなどという企画を持っている高校が他にもあるのだろうか。コーラスクラブほどの高校にもあるとしても、学年全体でクラス対抗のコンクールを毎年行うとは、かなり珍しい現象だったのではないだろうか。しかも、この時は二年生の三学期も終わろうとする二月の末、大学受験が切迫してくるのを感じる時期である。その一年前、自分が一年生のときはC組に属していて、熱心な練習を重ね、パート別の練習などもし、福澤栄二君の見事な指揮で学年優勝をした。その経験から、このときもどのような練習をすべきかは、分かっていたし、その為に必要な時間も見当がついていた。しかし、二年生の最後という時期である。合唱の練習準備にとりかかり回りの人々の反応を見れば、もはや練習にじっくり取り組むのは難しいと感じたのである。そこで、なるべく練習に時間を取らない曲はないかと探し

まわり、たまたま見つけたのが「スワニー河」だった。といっても、この曲が四部合唱曲になっていてのではなく、この曲と重ねて「ユーモレスク」の旋律を乗せると、この二曲がハモるという曲を選んだのだ。これなら大した練習もいらぬ。見慣れない楽譜を読んでのパート練習もしないですむ。案の定、練習はほんの一、二度しただけで曲としてまとまり、あとは課題曲『早春賦』に練習のエネルギーを傾けた。その結果、本番ではなんとか形が整い、全体の成績も四位と、一定の評価をもらってコンクールは済んだのである。図書館司書の佐元先生に、「変わった曲を選んだのね」と言われたのを覚えているが、それは褒め言葉ではなかったと感じたものだ。

それにしても『早春賦』が頭に染み付いたのはこのコンクールのおかげだと思う。最近、いわゆる文部省唱歌というものが、かなり心に染みることがある。日本人の心象風景を鮮やかに表し、しかもしつくりと心になじむ。「葉の花畑に入り日薄れ」「卵の花の匂う垣根に」「うさぎ追いしかの山」などなど、どこか忘れがたく心に染み込んでいる。具体的な景色は見たことがなくても、鮮やかに思い浮かべる光景がそこにはある。その中でも「早春賦」は自分のお気に入り、ことに二番の「氷とけさり葎は

角ぐむ、さては時ぞと思うあやにく」というあたり繊細な心の動きが絶妙に表れている傑作だ。高校生のとき義務的にしかも古くささに辟易しながら歌った曲ではあったが、半世紀という時間がたち、自然の微妙な変化にも繊細に反応する心が描かれている歌が、忘れがたく生きていることをこのごろになって実感する。

ただ前を見て猛進していたあの時期、なんとかやり済ませた合唱コンクールの課題曲が、心の底に今でも息づいているのを感じるのにはある意味で象徴的でもある。そのときは理解できなかった意義が、相当の時間を経て振り返り、はじめて分かる、という経験によく出会わずが、それはそろそろ人生全体を回顧する段階に入っている証拠でもあらう。



三年有志がやつて来る

ヤア！ヤア！ヤア！

C組 佐々木レノン 敏夫

昭和四一年輝いていた夏、それは今でも。当日、大講堂は満員御礼。ジャズ喫茶「ACB」に列を成していた「GS追っかけ」にも負けない熱気。好事魔多しエレキ

コードの断線で開演は大幅遅れ、プログラム途中で無念のタイムアウト。そこにドS教師（実名は伏せます）登場。「いい加減にしろっ！」の一喝。しかし持つべきものは仲間。「最後まで演らせてやれよ」の大喝唱。三年有志のライブは成功裡に感動のフィナーレ。

今でこそ学園祭にライブはつきものですが、昭和四〇年代、エレキなど不良の音楽。たかが英国ロックバンドの来日公演が一大社会現象になるほどの大騒ぎ。しかし今から思えば当時の大人たちの危機意識はある意味正しかったのかも知れません。結果的には、ビートルズは世の中の体制、価値観をパラダイムシフトさせたのですから。

思えば我が高校生活とビートルズとの出会いは切離せません。彼らから学んだこと。自分の思うとおり「自由」にやって良いけれど、自分のことは自分でやるという「自己責任」の精神だったと思っています。

これは最近知ったことですが、来日時の記者会見でのジョンレノンの発言は、その後の彼の生き様を暗示していたのかも。

(Q) 君たちはお金も名声も手に入れたけれど、次に欲しいものは何ですか。

(A) 「平和」

(Q) MBE勲章は持って来ていますか。

(A) 「持ってるよ」

とテーブルのコースターを掲げました。

「LEFT IT BE」あるがままにという彼らのメッセージ。これは二〇一一年三月の東日本大震災（因みに僕は当時仙台在住でした）のTV特番でも取り上げられ、某仏教界の高僧曰く「人事を尽くして天命を待つ、ではありません。天命は決まっているのです。人事を尽くして天命を受け入れる、ということです」

小説の結末は決まっています。しかし、いくら素晴らしい小説でも、最後のページだけを読んで感動は得られません。結末を感動を以って受け入れるためには、文章の一語一句、行間をしつかりと読み取ること。自らの意思を自由に貫くこと、自己責任を以って結果をあるがままに受け入れること。

卒業して五十年、それに比べれば高校生活の三年間などほんの一瞬のことかも知れません。しかし、あの時育まれた人生観を今も変わらず持ち続けられているのは、単なる受験校ではなかった新宿高校に流れる自由の空気だったのではないのでしょうか。

それは新宿という日本一の都会の喧騒と、時間がゆったりと流れる自然を擁する新宿御苑との狭間という、ある意味で恵まれた環境のなせる業かも知れません。

それは五十年前も今も変わらず、そこに在ります。僕はそれを信じています。

水泳部OBとしての臨海教室

D組 諫山 忠則

東京オリンピック開催の年、開会式のリハーサル（註1）のため体育の時間は行進ばかりさせられていた我々一九回生は、その年の夏、初めて塩見を訪れた。竹芝桟橋から東海汽船で館山へ。その浜を見た時の感動は今でもよく覚えている。現在の寮の先代に当たる通称「馬小屋」は、窓もない解放的な建屋で、夜は蚊帳を張って寝ていた。トイレも遠く離れ、海側にあった食堂も、オープンなのに何故か、食事が終わる頃は汗びっしょり。風呂も井戸水を手動ポンプ



で汲むので一苦労であった。ほとんどの参加者が完泳するという今と違って、遠泳参加者は十数名だった。しかも我々の期は沖ノ島で一休みした後、また戻ってくる往復だった。

塩見の浜に戻ってきたときは参加しなかった仲間が総出で列を作って迎えてくれ誇らしく思ったことを覚えている。

臨海教室終了後、八月上旬に水泳部の合宿が同じ塩見寮で開かれた。懇親会の席で正座する現役生の前にその三倍近くのOBが勢ぞろいした時はいいクラブに入ったと感激した。―水泳部は一九二二年創立で今でも毎年塩見に九十名前後のOBが集結している―その年は異常な冷水塊が外房に出現し片貝海岸では十数名が亡くなる悲劇がおきた。塩見も海水温十九度という冷たさで、海から上がると先輩が掘ってくれた穴にはいり、砂に埋まり、明けた口に順次、飴を入れてくれた光景を今でも鮮明に覚えている。沖合に張った脚立間のロープの間で泳ぐのだが、水は軽いし、波があるので、競泳のためには良いはずもなく、毎年プールに戻ってきてから泳ぎを修正するのに時間がかかった。要は持久力と根性を鍛えるためだけの合宿だったような気がする。勿論今はプールでやっている。

本校設立直後から続いている臨海教室であるが、無事故を誇っている。担任の先生や体育教官室の先生方のご努力の結果ではあるが、水泳部OBの力も大きいと自負している。先輩方がそうであったように自分も学生になると当然のように臨海教室の助

手として参加した。六年間二十二期(註2)参加した。ともかく楽しかったし、充実した時間だった。当時、全く泳げない子もおり、最終日に小遠泳に参加させることができた時は涙が出るほどうれしかった。寮長である須田先生(後の義父)の下で、副寮長として全体を見ていた時に、生徒を乗せたボートが沖に流されたことがあり、「命を預かっているのを忘れるな」と、OB全員を板の間に長時間正座させたこともあった。遠泳の時、いかに万全の体制で臨むか毎回毎回、長時間かけて対策を練った。ほぼ全員が泳ぐ今は、当時の数倍の人と舟、レスキューボートの出動で大変と聞いている。学生OBだけでは足らず、社会人OBも多数、仕事を休んで応援していると聞くと、頭が下がるし、無事故が続いている要因にもなっていると思っている。皆、最初に見たあの浜の光景、OBと触れ合ったことが原点となっているのだろう。

(註1) 一九六四年九月に、同年十月十日の東京オリンピック開会式のリハーサルが行われ、都立高校の生徒が各国選手団の代わりとして動員され、選手団人数に合わせて国立競技場での入場行進の予行を行った。

(註2) 臨海教室は二クラスずつの参加であるため、一年で四期実施される。

一瞬の青春の想い出

E組 井上 治

中学校では柔道や生徒会で忙しかったが、なんとか難関の新宿高校に入学できた。詰襟の学生服に、白線の入った帽子は旧府立六中以来の伝統でもあり、新宿南口の陸橋を颯爽と通学した。

当時は運動神経が抜群なのは野球部にとられ、ラグビーにも「ごつい」のが行っていたが、並の私は柔道よりは多少スマートと思えるサッカーをやることにした。先輩のキーパーは細身であったが、バネのある足腰で素早く動き、捨て身のセービングをしてボールを抱えたままグラウンドにたたきつけられる姿は柔道の受け身以上の迫力があり、私がキーパー練習を始めたのは間もなくであった。授業終了後、すぐ部室で着替えてグラウンドに出てボールを蹴りあい、皆が集まるとキャプテンの笛でインタバル(ダッシュの繰り返し)が始まった。練習が終わってプールの下にあるルンペン小屋みたいな部室に戻ると、裸電球の下でボールにグリースを擦り込むのが一年生の仕事だった。

吉永小百合や浜田光男、高橋英樹らの日活青春コンビの影響もあり、学生の男女交

際も少しずつ、当たり前前になってきた時代でもある。気になるあのひと二人並んで帰る機会が巡ることに心をときめかせていた。夏の合宿は今と違い、練習中に水を飲むことはタブーで、宿で水を、がぶ飲みして調子を崩したこともあった。練習中ボールが新宿御苑の壁を越え、木陰のカップルを驚かせたことや、風俗街の裏にボールが入ると、あらわな姿のお姉さんが出てきてボールを返してくれることもあった。

二年生になると同期の二人でチームを組み、公式試合も始まった。一人一人のプレー姿が今でも目に焼き付いている。

私は柔道をやっていたこともあり、ゴール前で構えてしまうことが多く、打たれたボールに思いっきりセービングはするものの、浮いたボールやフリーで突破されたときなどは苦手で、近代サッカーのようにバックスの一員としてゴールを守るという考えも当時はなかった。

都立戸山高校は昔の府立四中で、わが六中の先輩校。戦後は東大の合格率などを競い、早慶戦のように対抗試合が毎年どちらかのキャンパスで行われていた。サッカーはいつも五分の戦いで、両校の女子生徒が「○○君、頑張れー」と青空に高く響く声で応援し合う中、土のグラウンドで汗にまみれつつハッスルし、ハーフ・タイムには差

し入れのレモン片で喉を潤した。ゴールのネット裏に、少し離れてはいたが、気になる女子の姿を見つけた時のときめきは忘れられない。

高校も三年の二学期になると都大会出場も無くなり、放課後の練習に出て後輩のキーパーをみる程度で、大学受験に鎬を削った。文系の受験を考えていたが、叔父の医者の姿に憧れ、受験科目として生物の選択が可能な新潟大医学部を目指すことにした。上野駅で母や祖母らが見送る中、特急「とき」に乗り込んだ。国境の長いトンネルを抜けると確かに雪国だった。新潟市内は大雪となり、長靴も履かない凍える足で入試に望んだが、力及ばず、再起を期して浪人の身となった。

大学卒業後、東京の父母から離れたいとの思いから、沖縄の大病院で整形外科を専攻し、その後、クリニックを開業。時は流れて、今や、気付けば子供三人、孫四人のお爺ちゃんになっていた。「若気の至り」から、時を戻してやり直せたらと思う事も多々あるものの、高校時代の青春は人生で最も輝いていた時だったかも知れない。



私の人生を決めた

東京オリンピック

F組 川端 晴美

高校卒業から五十年。同期生一人一人、その長い年月をどのように生きてこられたのでしょうか。

私は人生の大半を海外で過ごすことになったのですが、原点は一九六四年の東京オリンピックだったと確信しています。

私たちは日本の貧しい時代を知りつつも、豊かになっていく過程を体験できた幸せな世代だと言えるでしょう。敗戦からの復興、高度経済成長を遂げた日本が、いよいよ世界の大国になるうという時に開かれた東京オリンピック。高校一年という大人への入り口にいた私たちにとって、同じ立ち位置にいるという点で意味深いものだったのではないでしょうか。

開会式当日、澄み切った青空に響いたファンファーレは、日本と私達の明るい未来を祝福しているかのように心に染み渡りました。

日本中が熱狂する中、新宿高校といういわばお膝元にいた私達は、より身近にオリンピックを見ることができました。

開会式のリハーサルに参加したのはとても貴重な体験でした。私達のクラスはハンガリー選手団の役をし、行進するのになぜか大変緊張したのを覚えています。

小田急線で通学していた私は参宮橋で途中下車して、何度か選手村を訪ねてみたりもしました。行き交う外国選手を見て、お話できるようにになりたいと思ったものです。

日本男子体操チームのリーダーだった塚脇先生が、獲得した金メダルを胸に学校に戻ってこられた時、全校生徒が拍手喝采でお迎えしました。放送部だった私は朝礼の列に加われなかったのですが、朝礼を終えた先生と鉢合わせすると、掛けてみました。金メダルを私の首に掛けてくださいました。若くして他界された先生の、ちょっとした優しさの優しい笑顔は忘れることができません。

オリンピック以降私の目は一気に世界に向けられました。どんな男性が好みかと聞かれて、その人の肩越しに世界が見える人というなんとも気恥ずかしい答えをしたのをいまだに覚えています。そしていつか外国と関係のある仕事に就きたいと願うようになりしました。後にKLMオランダ航空のキャビンアテンダントになってその夢を叶えることができました。オランダ人と結婚

してオランダやイギリス、オマーンといった国に暮らしたのも自然な成り行きでした。主人が亡くなった時、迷うことなく愛する日本に帰ることを決断しましたが、それには振り出しに戻ってまた一から人生をやり直す覚悟が必要でした。そんな私に誰よりも先に温かい手を差し伸べてくれたのが新宿高校の友達たちでした。その深い友情に感謝しています。

二〇二〇年、再び東京にオリンピックがやってきます。七十歳を過ぎた私たちはどのようなオリンピックを見るのでしょうか。楽しみに待つことにいたしましょう。



卒業後五十年を振り返り、

そして現在

G組 宮崎 範義

一九八五年八月一二日午後七時半、「ジャンボがリーダーから消えた！」社会部の大部屋でデスクが大声で叫んだ。反射的に一報を出さねば！わら半紙のような原稿用紙に鉛筆で書きなぐった。『運輸省に

入った連絡によると、今日午後六時羽田をたつて大阪に向かった日本航空の123便、ジャンボ機から六時三十分「緊急事態発生の連絡」。続いて四十分「R5のドアに異常があり緊急降下する」との連絡を最後にリーダーから機影が消えた」航空担当だった私が一番恐れていたことが、この日本で起きるとは、絶句した。

日本の空を飛行する旅客機などの航空機は絶えずリーダーで補足され自動的に高度や速度などの情報を地上の管制に送っている。機影が消えるということは墜落の可能性が高い。特に当時、日本の国内線のジャンボ機はSR（ショートレンジ）といって乗客数が五五〇人と国際線より凡そ一〇〇人程多かった。日本で運行されるジャンボが事故をおこすと単独機による世界最大の事故になる。あつてはならない事故だった。社会部の一隅には、緊急ニュースを出すための特設のカメラとマイクが設置してあった。パイロットの最後の交信「アンコントロール」「R5のドアに異常」専門用語を交えた情報が次々に飛び込んでくる。「宮崎、緊急卓だ！」デスクの指示で次々に入ってくる情報を伝えていった。中身を理解しながら冷静に！自分に言い聞かせた。夜が明け始める頃、実機の取材にOKが出た。R5のドアは右側、一番後ろのドアだ。

プラグタイプドアで開口部よりドアのサイズが大きい。開閉するときには上下の部分を見たみ、ロックをするときは上下が開き、内側から機体のドアの縁に締め付ける構造になっている。この構造のため上空で気圧が下がっても、機体内部が一気圧近くに保たれているため、ドアに大きな力が加わっても決して開くことはない。このドアに何があったのか、カメラマンと羽田に向かった。途中ラジオで「生存者がいた」との情報を受け「良かった！」と胸が熱くなった。死者五二〇人、生存者四人。単独機では世界で最大の惨事になった。結局、航空事故調査委員会（当時）が下した事故原因はボーイング社が修理した機体後部にある圧力隔壁の修理ミスだった。弱い継ぎ目がさけて空気が機体後部と垂直尾翼を破壊、垂直尾翼を走る四系統の油圧が全て抜けてしまい操縦不能になってしまった。ボーイング社により対策もとられた。この事故に関しては、一年一〇ヶ月後、航空事故調査委員会が調査報告書を公表するまでチームで取材に取り組んだ。

大学を卒業する時、実は大学時代に夢中になった演劇の延長で、NHKの大河のようなドラマの演出を目指した。ところが採用は報道だった。赴任先のデスク達は東京

に上があれば担務変更ができるよ、と軽くなして、サツ回り、司法、市政、県政、遊軍とそれぞれ取材のノウハウをたたきこんでいった。そして東京に上がる頃、何故か報道局、それも社会部にあこがれるようになっていた。休みもまともに取れず朝駆けに夜回り、なにか起きると時間に関係なしに「現場へ直行!」、しかし社会部、特報部、科学文化部と次第に自分が取材したいテーマに切り込んでいく実感は大きな魅力となった。三三年間在籍した報道を離れて最後の仕事は二〇〇五年、名古屋で開かれた、愛・地球博の事務局長。NHKが目指すスーパーハイビジョンを幅十三メートル、高さ七メートルの大画面で初めて一般に披露した。

五十年という切り口で振り返ってみると私の場合は社会に出てからの真剣勝負が軟弱な自分を鍛えてくれたように思える。色々な事件、事故と一緒に取材した仲間はいわば戦友として強い絆で結ばれ、たまに集まり一杯を楽しんでいる。



運動会と思い出すあの時代

H組 島田 豊彦

私に振られたテーマは運動会であるが断片的記憶以外、驚くほど何も覚えていない。当時のクラスメートに聞いても記憶が曖昧。卒業アルバムを引っ張り出したり、幹事から情報をもったり、朝陽同窓会で資料を調べたりして何とか思い出してみた。

まず、新宿高校では年間を通じてクラス対抗で、陸上・水泳、バスケット、マラソン、卓球等八つの運動競技を競い総合で優勝を決める「校長杯争奪戦」があった。運動能力の良くない小生は何に出たかも覚えていないが、唯一、二月に行われた多摩湖一周十キロ（実際には、八・五キロ）マラソンだけは、その練習のため新宿御苑外周を回ったことを含め苦しかったのでよく覚えている。ゴール手前の坂がきつかった。

運動会は、十月の下旬の日曜、第二グラウンドで、赤白青黄の四色に分かれて行われた（因みに第二グラウンドでの運動会は、新校舎建設工事のため六六年が最後）。憶えていないが、なんと一年生の時の運動会では中止された。理由は「東京オリンピックで先生方が忙しいから」とのことだったらしい。

プログラムは、スウェーデンリレー（朝の予選と午後の決勝）、クラブ対抗（仮装をして）リレー、騎馬競争、駕籠かき競争、ムカデ競争、女子ダンスだったかマスゲームだったか、二人三脚風船割り、応援合戦、騎馬戦、棒倒しなど様々。（ただし二年の時と三年の時の区別がつかない）

個人的に印象に残っている競技は三年の時の棒倒し。小生は大きくないし足も遅いので防衛側だったが竹田慶三君とか遠藤文久君などは素早く敵陣の人垣を駆け上り棒の先端にかじりつき引き倒したのが鮮やかに思いだされる。

もう一つ印象に残っているのが「仮装行列」と思っていたらあれは、午後イチの女子の「トップモード」という出し物で、先生方とか男子に手作りの衣装をつけさせて評価を競うものだったらしい。佐藤先生のウエディングドレス、水野先生・塚脇先生の「青い鳥」などあったが、なんといつても印象に残っている名モデルは豊沢先生。二年生の時のマイフェアレディの「イライザ」（ヒギンズ教授は誰だったか？）。そして三年生の時の「おはなはん」（夫の速水中尉は進来俊君だった）。映画「マイフェアレディ」は六四年の年末公開。「おはなはん」は六六年四月スタートしたNHKの連続テレビ小説で、朝ドラマとして初めて

女性主人公ものの路線に転換し、人気を博し、最高視聴率五六・四％を記録した。この時間になると水道使用量が激減するという現象が見られた国民的人気ドラマだった。校長杯関連試合が真面目な競技会だったのに対し、運動会は娯楽性の強い楽しい行事であった。

（なお現在、運動会は駒沢オリンピック公園園球技場で、マラソン大会は昭和記念公園で行われているとのこと）

（註）運動会は当時から「体育祭」の名称で行われている。



2 学年次学園祭
展示の模様



TOKYO <http://www.gerbeaud.jp>



BUDAPEST <http://www.gerbeaud.hu>



パナッシュジャパン(株) 代表取締役社長 宇井 雅人（新22回生）

卒業六十周年

オレの新宿三年間

9回

昔し六中、今新宿、高校出てから

六十年、つわものどもは高齢者

高校出てから六〇年が過ぎた。電車に乗ると席を譲られるような顔つき、休つきになつてしまった。昔の童謡に

村の渡しは船頭さんは

今年六〇のお爺さん

歳はとつてもお船を漕ぐときは

元氣いっぱい櫓がしなる

ほら ぎっちりら ぎっちりら

ぎっちりら というのがあつた。

六〇年に、高校卒業した時の一八歳を足して七八歳。これまで馬齢を重ねてしまい、後期高齢者と呼ばれている。六十年前の記憶は定かではない。

去年、運転免許の更新のための認知機能検査を受けたが、記憶力、判断力の総合点数は九〇点だったので免許更新することが出来た。高校時代にこんな高得点をとった事があつただろうか？無かつたさ。

嫌なのは特高、特攻、いや特考

試験とかテスト、と聞く度に思い出すの

は、あの新宿時代のトッコウ＝特別考査。

一年生から三年生まで同じテストを受けて、上位者一〇〇番までの名前が玄関前の広いところに貼り出される。上位でよかったよ。下位を貼りだされたら学校に行けなかったな。他校に行つた友達に「オレ英語三点しか取れなかったよ」「まだ一年なんだから三点取ればいいだろうよ」「だって三点だよ！一〇〇点満点の」「エー！一〇点満点の三点じゃなかったの？お前、中学の時は今よく出来たのに？」一〇点満点の三点ならオレだってそんなに落ち込まなかったよな。

通信簿は相對評価

一六、一七、一八と私の人生暗かつた

学業成績を家庭に（親元に）知らせるのが通信簿。昭和二〇年（一九四五年）国民学校に入学して、初めて通信簿をもらったが、その時の表示は、優、良、可、の三段階で絶対評価。敗戦後の次の年から国民学校が小学校に変わり、通信簿の表示は、たいへんよい、よい、ふつう、ややおとる、おとる、の五段階の相對評価になった。中

学校になるとそれが、5、4、3、2、1、の数字になった。

中学校までは、新宿に来るようなオレ達の通信簿は、5、そして、4が少しあつたらうか。高校になると、新宿なんてところに来たばかりに、普通教科ではオレの、5、4は無くなつてしまった。3と、2、そして1、もあつたな。親に「中学では5が一番上で、1が下だったけど、高校では、1が上で、5が下なんだよ」と大嘘ついた野郎がいたそうだが、すぐにバレてしまったとの事。オレは三つ上の兄も新宿だったので、この手は使えなかった。だってさ、相對評価なんだから一番も居れば四〇〇番だつてあるよね。

先生から「ご子息の学業の事でお話したいので来校願いたい」の呼び出しもあつて「おい、誰かのお母さんが職員室で泣いてるぞ」と聞いてそつと覗きに行つて見たら、なんと自分の母親がハンカチで涙を拭いているのを見てしまつて落ち込んだ奴もいたな。小中学校までは成績の良い誇らしい子供だったのに、親の嘆きも一入だったろうよ。オレは兄も新宿だったので覚悟がついていた。親も観念していたようだ。

三年生の最後になると体育の5以外は2ばかり、3はちよこつと、1もあつたので、追い出されるように卒業させられたと思つ

ていた。卒業と同時に今度は弟が入って来たが、担任の澤先生から「今度はちゃんと勉強しろよ！」と言っとけ！」と言われたな。「弟はオレほどバカじゃないですよ」と返事をしたな。相對評価の1は一番バカなんだから、そう言われても仕方ねーさ。新宿の三年間は劣等感に苛まれて暮したな。

卒業して、広い世間を見回すと、何と世の中は広いことよ。それまで、一番の底だと思っていたプールの底が、足元からずーっと下の方についてしまつて、背が立たない程になつて、自由に泳ぎまわっていた。

新宿の1は世間の何処に値するんだろうか？少なくとも3以上にはなるらしい。以後、他人と比べない事を信条にしている。上も下も見ればキリがないもの。

忍法堀越えの術

入学と同時に体操部に入った。メルボルンオリンピック選手になった塚脇先生の教えを受けられる極めて恵まれた環境だったのに、オレの運動神経はからつきしダメだった。同僚達が次々に技を身に付けていくのに、オレは鉄棒も平行棒もいつまでたつてもデクノ棒。吊り輪は電車の吊り革程度。跳馬も超ヘタだったな。九歳上の

兄に、「お前の体操はモノにならないよ」と言われたな。でも体操をやったので、一つだけ特技があつた。第二グラウンドからボールが新宿御苑に飛んで行つてしまうと、ボールを取りに行かなければならない。あの三メートルもある堀を乗り越えるのに、オレは助走をつけて垂直の壁を蹴つて堀の上部に手をかけると、片手で身体を引き上げ、上半身を御苑側に倒してクルリと回転して御苑側に着地する。堀越えは誰よりも早かつた。あるとき、ボールを追つてクルリと御苑側へばつが悪かつたな。

堀見も水上も見なかつた

体操部にいたけど、家の経済状態が最悪だったので、合宿に参加したことが無かつた。遠足だったか、何かの見学会だったかに行くお金を親に頼みそびれて「今日は学校休み」と嘘を言つて休んだ事も。夏休みに皆が行く、水上寮も堀見寮もついぞ見る事も無く卒業して六十年が過ぎてしまつた。堀見寮の再建に少しだけ寄付をしたので、行かせてもらえないかな？遠泳大会の時、現役の生徒さん達と一緒に泳がせて！オレ頭悪いけど、四km位なら泳げるから。歳はとってもオレはトライアスリートだから。

(九回 戸塚 忠)

南欧料理、パリの居酒屋風レストラン

ぐいさ シャトー

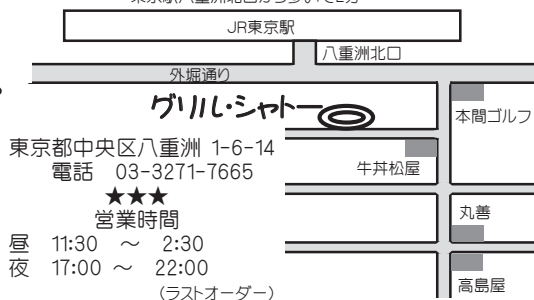
“新宿高校”と言えば特別サービス

アド街ック天国、日曜ビッグバラエティその他テレビで何度もオンエア

東京駅八重洲北口から歩いて2分

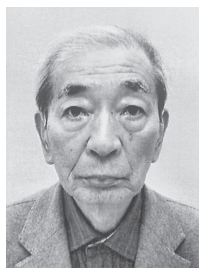
土曜の夜はお客様全員に
ウエルカムサービスがあります。
ミニ会合から貸切りまで
是非ご相談ください。

15回生の池上がやっています。



五輪、会場の整備と選手強化も

齊藤 修（九回）



昨年の夏はリオ
デジャネイロから
のテレビ中継で日
本中が眠れぬ夜が
続いた。南米初の
リオ・オリンピック

クで日本は金12個をはじめ史上最多の41個（銀8、銅21）ものメダルを獲得したのだ。中でもライブ中継の画面に向かって思わず「頑張れ、逃げる」と叫んでいた陸上男子400メートルの銀、カヌー・スラロームの羽田卓也選手の銅メダルなど「日本人でもやれば出来るんだ」と驚きの快挙だった。それにくらべ、私が半世紀以上も昔のローマ五輪に出場したボートは、今回は出場種目も2種目と少なかったが、結果は昔と変わらず全く振るわなかった。東京五輪まであと3年、メダルとは言わないまでも対等にレースを戦えるまで成長出来るのだろうか。

私は新宿高校在学中（昭和29・32年）、は運動部系の部活はまったく縁がなく、放送

研究部に席を置きマイクの前で過ごす時間が多かった。現役、一浪と複数校受験したにもかかわらず受け入れる大学はなく、二浪してどうにか東大にもぐり込んだ。さて何をして過ごそうかと思案してみるが、なまった身体を動かそうにも小さな体（入学時164センチ、50キロ弱）では誘ってくれる運動部はない。この体でも通用しそうなのはボートの舵曳き、しかも当時の東大ボートは全国でも有力校だ。新人の歓迎コンパに出て驚いた。1年生だけでも百人以上はいたし、上には新宿の同級生が3人、一年先輩が2人もいた。皆、体を動かしたくて入部したようだ。

新人は7月の文科、理科の対科レースを終えればあとはフリー。尾瀬や八甲田に出かけ59年夏休みを楽しんだ。

休み明け登校すると、キャプテンが現れ、「新しくフォアを組むからお前、戸田に行ってコックス（舵曳き）をやれ」。

当時の東大ボート部は対校レース向けに選ばれた選手以外は漕ぐ機会は学部対校レースぐらいで、練習も漕ぎなければ艇庫に来てやれば良いといった具合。学年が進むにつれ部活動から遠ざかる人も多かった。

戸田（埼玉県）の合宿所には60年のローマ・オリンピックを狙うエイト・クルー9人と（漕手8人と舵手1人）とフォア5人（漕手4人と舵手1人）が合宿。大先輩が住んでいた家を移築したとかの風通しの頗るいい木造2階家。6畳一間に大男4人が寝起きする超過密。

エイトは三、四年生の中のエリートで、戸田界限では慶大と並んでローマを狙う最有力クルーだった。他に二年生中心のジュニアクルーがあり、我々フォアはいつてみれば残り者のクルー。漕手は体の比較的小柄な二年生2人と大きい素人ともいえる一年生2人と私。誰もこのクルーが五輪代表になるとは想像すら出来なかったはずだ。日本のボート界はオリンピックでは1928年のアムステルダムに初参加、以後エイト一種目を派遣してきたが、60年は次回64年が東京開催なので、小艇も経験させようと初めて舵つきフォアの参加を決めた。いわばおまけの参加である。

明けて60年は政治の季節。予選が行われた5月は「安保反対」のデモの最盛期で、夜はラジオで国会周辺のデモの実況を聞きながら、「ボートなど漕いでいいのだろうか」と思い悩んだ。

当時のボート界は学生が中心で、主力校はエイトを狙い、外語大など部の小規模校

と数少ない社会人クルーがフォアを競った。誰にも期待されない我々フォアは荒川を主にコーチからの練習メニューをこなしたうえ独自に漕ぎこみ、水の上にいる時間はどのクルーよりも長かったように思う。「どこよりも練習した」ことがレースで自信になり、予選、準決勝と勝ち進み、決勝では僅差で社会人クルーを抑え、代表の座を勝ち取り、我々自身が一番驚いた。土手評で有力と見られた東大、慶大エイトは、伏兵の東北大に破れた。

ローマ五輪のボート会場はローマ近郊のアルパノ湖。会場に行って驚いた。とに角相手の欧米クルーはどの国もでかい。前回のメルボルン大会（代表慶大）以来、日本

ボート界は世界で戦ったことはなく世間知らず。オールの形も日本は明治以来の細長なのに、世界はスプーンの幅を広げたような幅広型が普通でストロークで水をつかむ量が全然違う。さらに艇の大



アルパノ湖での練習風景



練習中の東大艇

きさも大きく、湖の周辺の高台から吹く風に翻弄される我々の小艇は木の葉のように揺れバタバタ。

競技は予選、敗者復活戦、準決勝、決勝と進むが、エイトの東北大は敗復で善戦したが、わが

フォアは風に悩まされ予選、敗復とも経験したことのない大差で破れた。世界と闘うには全くの準備不足だった。

さて、3年後に迫った20年東京五輪だが、ボートに限っていえば、会場も昨年末、海の森水上競技場にやっと落ち着いた。東京湾からの風を考えると、最適の会場といえないが、戦える施設が作られるだろうと期待する。

問題は選手の強化だ。エイトを初め、フォア、ペア、シングル・スカルなど男女14種目が行われるが、日本は開催国として全種目エントリー出来る。現状ではどの種

はない。

聞けば新宿高校出身で私以後オリンピック出場者は出ていないという。残り者のクルーで、おまけの枠で運に恵まれ出場したが、結果が惨敗では話にもならない。どんなマイナーなスポーツでも日本一とか、国の代表になるのは容易ではない。今後、卒業業者の中から誰もが注目するアスリートが出てくることを期待したい。

次の東京大会まで残された時間はわずかなレガシーばかりに囚われず、誰もが期間中ワクワクドキドキできる大会になればいいのだが……。

（ローマ五輪ボートフォア日本代表）



練習の合間にサインに応じる筆者

目も予選敗退というところだ。せめて半分から3分の2の種目で決勝に進みたい。日本はまだ銅メダルも獲っていない。「立派な施設は残った、成績は惨敗」ではボートの未来

新宿高校器械体操部追分総会

満野 喜介（一八回）



卒業後五十年の同期会がありこの機に合わせて卒業後初めてとなるが新・一八回同期で「器械体操部追分

総会」と称して集まることになった。当日の様子や皆の共通の思い出などを綴ってみました。

（当日）

新宿三丁目追分団子本店。七月の平日の昼前、私は席取りのため二時間前に入り皆を待った。皆集まるかちよつと不安でもあった。しかし集まるならこの店と私は密かに決めていた。部活の後の疲れた身体を癒してくれた「あの団子」、皆知っているはず。やや年配の店員がこちらの状況を察してくれたのか妙に愛想が良い。テーブルを寄せてくれたりお茶も頻繁に替えてくれる。だが、やがて店の方もすこしずつ込んできて回りの席も埋まってきた。席の確保には追加注文しかない。結局団子を全種類味わうこととなった。

（同期体操部員参上）

目の前の団子がいやになったころ、イケ

面（当時）の楠瀬正浩君が早めにきてくれた。仏語の先生で大部（700頁）の翻訳を既に仕上げ、意欲的に次作に取り組んでいる由。

ほどなく頑張り屋の山本陽一君がやってきた。現在はかなりハードな山登りやマラソンにはまっているらしい。（記憶力抜群で卒業後三十年の時に厳しい追求に会い、丁重に高校時代の借金（千円）を返済いたしました。）

次にやってきたのが吉田明正君。細い身体ではあったが、練習は熱心で彼が練習を休んだという記憶はない。石油プラントの関係の仕事でかの惨劇のチュニジアでのプラントも手がけたとのこと。高校時代も今も住所が変わらずでなんと「部屋」も同じとのこと。（どういうこと？）

次に岡正孝君がやや遅れてきた。アジアや南米で空港などのインフラの技術指導でとびまわっていたが退職後残念ながら療養が必要となり、定期的な入退院が必要との由。だが外出は可能とのことで声をかけた彼の体操は明るく楽しい。子供が遊んでいるようだ。演技した後の笑顔が何ともいい。会話が進んでくると互いの脳が少しずつ五十年のギャップを埋めていくのがわかる。共通の話題に入っていくと皆もう五十年前に戻っている。

（故塚脇伸作先生 平成五年没）
塚脇伸作先生。メルボルンオリンピックで



塚脇先生（後列左端）と当時の部員

体操団体銀メダリスト。

東京オリンピック

ピックの男子

体操（団体金メダル）

のチー

ムリーダー。

密かに本物の金メダル

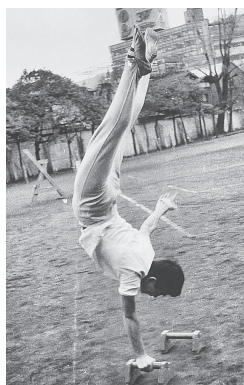
を当時の部員に披露

してくれた。

実物はずっ

しりと重

かった。いつも練習には早めに来られて素晴らしい演技をみせてくれた。私事だが倒立がきれいだと言われたことがあり今でも嬉しいかぎりです。



筆者の倒立

(東京オリンピック強化合宿)

東京オリンピックの強化合宿が長野県の菅平で実施。そこでの器具片付けやその他の要員として塚脇先生に誘われて見学。オリンピック選手の遠藤、山下、小野などと一緒に合宿、秘密の演技もあり練習は非公開。当時山下跳びで有名な山下選手が山下跳びにひねりを加えることを練習していた。当時はそれがウルトラC。(難度C超の意。現在では難度Gまで進歩している)

(業間体操)

業間体操というのがあった。授業時間の区切りに少し長めの休み時間をとって全員で体操をやる。そのことで頭が活性化するというもの。校舎正面入り口脇に鐘楼(鐘塔)があつてその横に朝礼台があつた。そこに上がって全員の前で体操を誘導する。それがわが体操部の新人の務めであつた。当時は皆の前で気恥ずかしいという感じがあつたが、人生の晩秋を迎えた今振り返ってみると何と名譽で誇りに思うことか。優秀で素晴らしい仲間。その仲間の前で体操をしている私…。

それから五十年以上がたつてしまった。皆で五十年前に戻りたいですね。ちよっとしみりしていると、さらにもう一人遅れてやってきた。

(全員集合)

西村純治君。彼も熱心な部員であつた。小柄であつたがきつい練習も逃げずにやっていた。ただ彼は体操以外にも色々多芸で、ほどこなく体操からは離れていった。

(その他の同期の部員)

どうしても連絡のとれない中井清文君。どうしているのだろうか、ペンション経営をしている狩野宏之君。まだ大学で先生をしている宮野健次郎君。それと紅一点の竹松雪江さん。今回は欠席となつたが電話ではなつかしいお元氣な声を聞きました。

(器械体操部OB会)

今回は昭和四十一年卒(新一八回)に限つての器械体操部追分総会でしたが、実はあとで知つたのですが、全体の体操部OB会がきちんとあり今年の一月ですが参加いたしました。

塚脇先生の後任の松崎吉照先生を囲んでの会で、驚いたのは最古参の新一回生の松本吉弘先輩、新二回生の牧野良一先輩など四名が、大変な高齢にもかかわらず(失礼)参加されており、幹事の新一回の吉澤剛士さんのご尽力のもと、女子部員の三名も含め、年次はばらつきがありますが、総勢十四名で楽しく過ごせました。毎年新年会をやっているそうです。もう少し盛り上げたいと思いますので、本稿をお読みに

なり興味ありと思われたOBの方はぜひ当方宛コンタクトしてください。

Email: kisuke-m@com.home.ne.jp

(住友生命保険相互会社定年退職)



体操部 OB 会 2017 前列中央が松崎先生

軟式野球部の思い出

海老沢 克則（三六回）



我々三六回生のチームは、チームとしては小粒で当時の菅先生、大学生監督の大本監督のご指導のもと、野球好きの仲間が集まって、純粹にボールを追いかけていたチームだった。大会での成績は正直あまり記憶にない。おそらく三回戦ぐらいまでは行っていたかと記憶する。

部活の想い出は、合宿の三十分ノックと珍プレーである。合宿は河口湖でキャベツ畑に囲まれたグラウンドだった。合宿では何と言っても名物「三十分ノック」。OBとマンツーマンで三十分間ひたすらノックを受ける。「三十分ノック」と言っても名ばかりで、OBによっては1時間近く容赦なくボールを打ってくる…。

前日、誰がノッカーになるかで一喜一憂、厳しいOBに当たって顔色が変わるものもいた。私は、一年生の時は優しいOBに当たり「楽勝」だった。時折りキャベツ畑に飛び込んだボールを探すふりをして、しばし休憩。あとで分かったが、この「秘策」を使ったのは私だけではなかった。二年生

の時は大本監督の鋭いノックを部員全員の前で受け続けた。周りから頑張れの声に励まされ、左右に飛び込んで、泥だらけになり、まさしく「青春」そのものだったと記憶している。

次に想い出に残る珍プレー。ピッチャーの佐々木君はコントロールに波があった。キャッチャーであった私は、マスク越しに「俺が投げた方がましだ」と怒りを込めて返球したこともあった。そんな佐々木君が「1イニング5与四球失点ゼロ」という「快（怪）挙」を成し遂げた。先頭打者四球・盗塁死、2番打者四球・盗塁死、3番打者四球、4番打者四球、5番打者四球、6番打者アウト。

今でも、当時の仲間と毎年家族ぐるみで会い、ゴルフにも一緒に行っている。その時、必ずと言っていいほど当時の思い出話として「三十分ノック」と珍プレーの話で盛り上がる。青春時代の良き思い出であるが、やはり、新宿高校軟式野球部の三年間の最高の思い出は「一生の友」ができたことである。

（三六回 4番キャッチャーキャブテン）



◆地下水調査・数値解析 ◆広域水収支 ◆土壌・地下水汚染 ◆土木計測のことは...



有限会社 アキテック
Aquitech Engineering Co., Ltd

代表取締役 芳野 裕 (24回)

〒164-0003 東京都中野区東中野1-54-7 田嶋ビル301

TEL: 03-5330-9171 FAX: 03-5330-9172



カンボジアの大きな空の下で

旧職員 笠原知子



カンボジアと聞いて、多くの方は、アンコールワットを思い浮かべるのではないのでしょうか。そのアンコールワットの

ある街シエムリアップにカンボジアの子ども達への無料の美術スクール「小さな美術スクール」を建築し、活動を始めて十年目になります。中原中也の詩の中に、「思えば遠くへ来たものだ」という句があります。が、字句通りに解釈すればまさしく今の私の心境そのものです。二〇〇七年三月、日本での美術教師を辞め、同年六月、スーツケース一個でカンボジアの空港に降り立ちました。思い起こせば、このカンボジアでの活動を考えた原点は新宿高校の教師時代であり、今こうして日本から遠く離れた異国の地で、子ども達の笑顔に囲まれながら活動する原動力を培えたのも新宿高校に在職できたおかげと思っております。

二八歳で教師になった私は、最初の赴任校で、「随分年取った新人だな」と言われ、それまでの長い学生生活との違いに戸惑い、常到大慌てで仕事に追われる毎日でした。九年後の一九八五年から十一年間新宿高校でお世話になりました。今でも新宿高校の教師時代を思い出すことがあるのですが、特に印象的な事は、先生も生徒も強靱な精神力で物事を処する姿でした。早朝の追試や追追試にもめげない生徒達、先生方も労を厭わずの早朝補習、体力の限界と思える程、運動会や文化祭にかける情熱、こうしたすべてのものを含めた新宿高校の「熱気と活気」。また、新人生に配布する学習の手引きにあるゲーテの言葉、「いきいきと生きよ」など、教育にかける熱い思い、私にとっては何もかもが新鮮で驚きの毎日でした。また、四季折々を豊かに彩る御苑の樹木、常夏の国でこの原稿を書いている今も春夏秋冬の御苑の木々の美しさが目に浮かびます。

新宿高校に赴任して四年目、自身の今後の人生を考えざるを得ないことに直面しました。高校時代、ポール・ゴーギャンの作品、「我々はどこから来たのか 我々は何

者か 我々はどこへ行くのか」に大きく影響を受け、美術を専門に選んだのですが、その時、同時に、「ある程度自分の人生を生きたら、どこかアジアの国の条件悪く生まれた子ども達の応援をしよう」と考えたことを思い出しました。長いこと心の底に眠っていた思い、その思いを実現すること、を今後の生き方の指針としました。四〇歳でした。

資金作りを基本に据えてスクールを建てる国探しを始め、準備を進めて行く中でポルポト時代を生き延びたカンボジア人の話を聞く機会を得ました。ポルポト政権は、それまでのカンボジアの社会制度を破壊しただけではなく、教育も含めた文化的環境も徹底的に壊し、その当時子どもだった彼らは、「真つ暗闇の中に置かれ、どこからも何の助けもなく、全く明かりが見えない時代だった」と衝撃的な話をしました。子どもを含む多くの人々が虐殺され、中でも医者、弁護士、教師、技術者など教育を受けた人々は真つ先に殺されてしまったとのこと。現在、学校教育は復活したが、教科教育できる人材が育っていないとの話を聞き、「小さな美術スクール」をカンボジアに建設することを決めました。

資金準備を始めてから約二〇年、五九歳の時、新たな人生の船出をしました。しか

し、自力で漕ぐ船には羅針盤も海図もなく、何度も暗礁に乗り上げ、座礁寸前に助けられたような状況でした。順調にスタートしたかに見えた学校建築は、工事着工後一カ月満たずに工事差し止め請求を出され、工事が中断。何故訴えられたのか訳も分からぬまま不確かな情報が錯綜し、数日後、道路拡張案で不利になると思った住民が訴えたことが判明。その対応のため、役所と工事現場を行ったり来たりの日々、結局、工事は五か月ストップ。この間に、土地の名義を貸してくれた人の胸算用が発覚、名義変更を求め、バスで片道六時間のプノンペンを何度も往復。胃を痛め、髪の毛が抜け落ち、酸素不足の魚のような状態に陥った時、最悪なことにデング熱を発症、人生の初入院がカンボジアで、四〇度の高熱が十日ほど続き、点滴だけで命をつないでいました。カンボジアの現実、「法整備が整っていない国」と「ポルポトが破壊したカンボジア人の人間性」を痛いほど知らされた日々でした。後日、元々は穏やかで心優しい国民性だったカンボジアの人々が、凄惨な時代の後遺症として「心に深い傷」を負ったと教えられました。かつて、「東洋のパリ」とまで言われ、豊かな文化が花開いたプノンペンにはポルポト政権下で無人と化し、三年八か月の残虐政治の結果、人心

は荒廃し、拝金主義が負の遺産として残ってしまったようです。

難破しそうになりながらも多くの方のご尽力のおかげで工事開始から一年後の二〇〇八年、どうにか美術と日本語のスクールが建ち上がりました。口コミで、無料の学校の存在が知られるようになり、徐々に経済的に困窮している家庭の子ども達がスクールに通い始め、農村部への出張授業も増えました。カンボジアの農村は未だに電気がなく、飲料水にも事欠くところも多いのですが、子ども達は、大きな空の下で、田植え、稲刈り、牛追い、弟妹の面倒など、家族の一員としてよく働き、けなげに生きています。また、何度か辺境の村にも出張授業をしました。初めて手にする画用紙や画材に目を輝かす子ども達、満面の笑みで初々しい素朴な喜びを素直にあらわす子ども達の姿に、現代文明が失った大切なものを気付かされました。現在約三五〇名の輝く瞳の子ども達が嬉々として絵を描いており、活動を始めて十年目となる今年の十月、銀座「ギャラリー巷房」で、こうした子ども達の作品展を開いていただけることになりました。ご高覧いただけますと幸甚です。

（カンボジア・小さな美術スクール主宰）



外部寄稿

毎日新聞「母校をたずねる」(新宿高校シリーズ)

取材で触れた新宿魂

賀川 智子



二〇一六年六〇八月、毎日新聞朝刊首都圏版に掲載された企画「母校をたずねる」新宿高校編の担当記者として、同年四月から五カ月間、新宿高校関係者の方達に大変お世話になり、そのご縁で執筆の機会を頂くことになりました。

取材で出会った十七歳の現役生から八十六歳の卒業生約三十人の方々からは、時代を超え脈々と受け継がれる「新宿高校スピリット」を大いに学ばせて頂くことができました。

朝陽同窓会の西出紀久事務局長には、最初から最後までお世話になりっぱなしでした。初回の坂本龍一さんのインタビューがなかなか決まらない時は、坂本さんと同期の方々にも執筆を働きかけて頂くよう依頼して下さったり、名物先生の澤正雄先生の写真をお願いした時は、翌日には同窓会室

の長机を埋め尽くすほどに卒業アルバムを引っ張り出して下さいました。

中川徹副校長先生も、生徒さんや学校行事の取材のアレンジから、毎週木曜日の降版日までの事実確認とOK出しまで、お忙しい仕事の合間に、最後までお付き合い下さいました。

そして「新宿高校のレジェンド」、一期生で国語教師として長年教鞭に立たれた佐藤喜一先生。サイド記事の案と一緒に考えて下さったり、塩崎恭久さんの取材前には「準備として」と、塩崎さんにまつわる手書きの原稿を送って下さったり、毎週金曜の紙面掲載のたびに励ましの電話を下さいました。



2016年4月、多摩市のご自宅で
教え子にもらった日本酒を手を
微笑む佐藤先生

そんな佐藤先生の訃報は十二月中旬、たまたま見た朝陽同窓会のHPで知りました。二十三日、多摩市内のご自宅を伺いました。

奥様の智恵子さんによると、6日午前三時ごろ、入院先の調布市内の病院で亡くなったということでした。最後まで言葉もすっかりされて、前日の夕食後、智恵子さんに「下(の階)でおいしいもの食べていらっしゃい」と言う会話が最後だったということでした。

智恵子さんは、「主人にとって新宿高校はふるさとのような存在でした。最後まで良い先輩や同僚、多くの教え子に囲まれ、好きな書くことが出来て幸せな人生だったのではないだろうか」とお話しされました。

新宿高校の皆さんに共通したのは「やると決めたことは最後までやる」「自分が関わったら多少無理しても面倒を見る」という骨太な温かさでした。それは初代阿部宗孝校長が目指した「全員指導者たれ」という理念そのものだと思います。

都心のだ真ん中にありながら御苑の緑に接した新宿高校は、取材に行くたび、どこか懐かしく、ホッとする空間でした。皆様、本当にありがとうございました。お世話になりました。

(毎日新聞)

自然薯料理

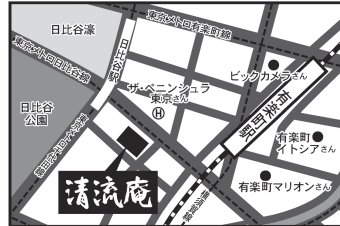
さん やん

山薬 清流庵

万能の山の薬。滋養あふれる
自然薯を様々な料理でどうぞ

山芋の中で唯一の日本原産種である希少な自然薯。滋養強壮・美肌効果などに役立つ「山の薬」と呼ばれる自然薯の専門店です。

ランチも
ございます



【自然薯麦とろと田舎蕎麦 山薬清流庵 新橋汐留店】
03-5537-5308 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター B1

【自然薯麦とろ御膳 山薬清流庵 イオンモール幕張新都心店】
043-213-5300 千葉県千葉市美浜区豊砂 1-1
イオンモール幕張新都心グランドモール 2F

【銀座 山薬清流庵】
東京都千代田区有楽町1-5-2
(東宝ツインタワービル9F)
03-5510-2666

お座敷個室、BOX個室など多数ご用意いたしております

新宿 丸港水産

北海道各地の新鮮魚貝
産地直送厳選素材を集めました

北海道直送の天然帆立の浜焼きや、根室産花咲ガニ・厚岸産の生牡蠣など厳選素材を、漁師街の海の家の様な活気あふれる店内で思う存分堪能下さい



東京都新宿区新宿3-12-12 吉田ビル1・2F
03-5367-2377

〈姉妹店〉丸港水産 大和店 046-200-2730 神奈川県大和市大和南 1-2-8
丸港浜街道 行徳店 047-390-1105 千葉県市川市行徳駅前 1-17-7



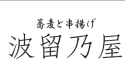
からあげ
とり多津

外はカリッと中身はジューシー。
秘伝だれに8時間以上漬け込んだ
専門店ならではの味わい

4年連続

金賞受賞

からあげグランプリ
東日本しょうゆだれ部門



東京都大田区東蒲田2-30-17(サンユー東蒲田ビル2階)
株式会社エフアンドビー・プロジェクト
代表取締役社長 織岡 陽一郎(24回卒)

同期会便り

卒業五十周年同期会便り（二八回）

第十八回生は二〇一六年六月十一日、クルーズ・クルーズ新宿で卒業五十周年同期会を開いた。九年前に一年遅れで開催され



た四十周年の一二三人を上回る一三六人が再会を喜び合った。

元フジテレビアナウンサーで、現在はフリーの三上彩子さんが司会を担当。柴田真樹代表幹事は冒頭、毎日新聞の新宿高校特集に触れ、「最初に登場した二二回生の坂本龍一君はさまざまな活動で広く知られているが、我々十八回生にも色々な分野で活躍している仲間が多い」として、岡山県矢掛町で地域興しに取り組む金子晴彦君や三千級級の山に挑み続ける山本陽一君、国内からアジアの各地までを巡って鉄道と人々の暮らしを写真で発信する大木茂君、長崎県や島根県などで長く地域医療に取り組んできた竹内志津佳さんの例をあげた。

来賓ではG組担任だった北地節夫先生が乾杯の音頭をとり「長く元気で生きていくためには、同期の歩く会のような仲間同士の活動が大事」と述べた。当時若手の体育教師だった幸田（旧姓水野）操先生は、東京オリンピックの思い出を語った。

また、一年先輩の田中俊郎朝陽同窓会長は母校の創立百周年記念事業を説明し、協力を呼びかけた。

参加者たちは懐かしい顔を見つけては再会を喜び、しばし積もる話に花を咲かせた。さらに一年と二、三年次のクラスごとに記念撮影。各部活ごとに集まるなど終始和やかな雰囲気の中、校歌と六中健児の歌を全員で熱唱。十年を待たずに次の再会を誓い

合った。最後に草川衛代表幹事が一本締めで締めくくり、会費の残高九万八三〇〇円を同窓会の記念事業に寄付することを提案、大きな拍手で承認された。

（十八回 柴田真樹）



有能な同期達と楽しんだ

「いちご会」

平成二八年もいちご会（一五回同期会）は、その道の達人の講演を肴に懇親を楽しむ恒例の「ミニいちご会」を始め、多種多様な機会に旧友が集まり交流を楽しんだ。

「ミニいちご会」は二回。四月には一昨年四月に最高裁判事を退官した金築誠志君が「裁判官を振り返って」と題し、国会議員選挙の違憲訴訟、再婚禁止期間、死刑などの、論争的となっている現下の問題について、私見も交えながら解りやすく、またユーモアたっぷりに語った。十月は科学博物館名誉研究員D馬場悠男君。「古代エジプト、ラムセス二世の孫娘を探せ」と題して新しい発見が続く古代エジプトの謎について解説してくれた。

残念だったのは「野鳥観察のコツと楽し

「さ」を話してくれる筈だったF齋藤賢一君が直前に病で旅立たれたことだった。齋藤君がいちご会発足早々に手作りしてくれた「ホームページ」が、消息不明者発掘に多大な威力を発揮したことは、齋藤君の功績として永く記憶に留めておきたい。

さて、平成二八年は池辺晋一郎君にとっても母校にとっても記念すべき年になった。同窓会ホームページにも本誌にも様々に報告されているので詳細はそちらに譲り、ここでは以下紹介するに留めることとする。

- ① 母校「進路部通信」十一月号寄稿
- ② 母校一、二年生六四十名に講演
- ③ 母校合唱コンクール課題曲作曲
- ④ P T A 会報三月号寄稿

平成二五年のC青柳君、翌年のA垂水君の同窓会長就任に始まって、青柳君、金築君、池辺君の母校講演、更に母校キャリア教育での馬場君の寄稿と講演など、有能な諸兄の献身により、我々十五回生も間接的ながら母校支援の一翼を担っているのは誇らしいことである。

(十五回 西出紀久)



同期会便り 十一回生

「まるで宝の山だ」

同期会は昭和五七年以来二年毎に開催、昨年六月は九一名が参加。二次会もあり大いに盛り上がった。次回は来年六月九日(土)京王プラザホテルで開催予定。現在の担当幹事は稲田稔で、既に三期(九年)目に入っている。

「二木(にもく)会」

二木会は昭和五七年の第一回同期会の幹事を中心に、十一回生の有志の会として発足。以来毎月欠かさず開催され、既に四一四回(平二八年十二月現在)を数える。(幹事長・稲田稔、事務局長・小林雅司、会計補佐・高山真知子)

「二木会」も十一回生であれば誰でも参加出来、月一回の例会に加え、様々な分科会や他の会合が開かれている。毎月の例会は当初、第二木曜日の夜に開かれていた。これが「二木会」の名前の由来である。しかし諸般の事情から現在は、第三木曜日の午後一時～四時、丸の内のセンチュリーコートで開かれている。一時間の会食後、三十分は分科会の報告や次回の案内、連絡事項、会員の近況報告。そして目玉は、一時間半の講演である。昨年十二月は、星元紀による「生物学の女王」で、三一名が聴

講した。新規参入大歓迎。

(会費は、男性六千円、女性五千円)

定期開催の分科会を発足順にご紹介する

と (発会時期・幹事・*開催頻度)

- ・ゴルフ会 (昭五八) 持ち回りH)
- ・塩見研修会 (平二) 稲田稔Y)
- ・料理教室 (平十二) 前川祐三Q)
- ・二歩会山の会 (平十九) 岡部敬M)
- ・囲碁(大)会 (平二十) 嶋田健雄Q)
- ・二木会が昼開催になり、月例会は消滅
- ・二歩会里の会 (平二八) 田中収三M)
- ・ニモカラの会 (平二八) 森山勇作M)
- M・月一、Q・年四、H・年二、Y・年一
- 他にテニス、○(ゼロ)の会鑑賞会、ハワイアン夕べ、ダーウィン研究会などが随時開かれている。

さらに機関紙として「にもく通信」を毎月発行し、メール・郵便で百名以上の同期生会員に送付中。昨年は、残念ながら四名の追悼文が掲載された。

一方、寡婦になられた奥方が、囲碁会・料理教室などの分科会に出席されており、嬉しくもあり寂しくもありという感じだ。

このように二木会は、後期高齢者にとってはさながら宝の山の様な空間となっている。(文中敬称略)

(「にもく通信」編集長・堀江昭彦記)

喜寿の新樹会総会（十回生）

喜寿の顔合わせー皆白髪なれど、集えば気持ちのはあの頃。十回生（昭和三十三年卒業）の同期会・新樹会が、平成二十八年六月十八日、クルーズ・クルーズ新宿店で、二年に一度の総会を開催しました。出席者は百五名。盛会でした。

冒頭で物故者に黙祷を捧げた後、高橋一修幹事長（C組）が開会の挨拶、興津誠朝陽同窓会代表幹事（H組）が創立百周年記念事業の進捗状況を報告しました。続いて、今総会の事務全般を事実上一手に引き受けてくれただけでなく業者顔負けの名簿を一人で作成した井垣和太事務局長（G組）の軽妙な司会で歓談に移り、三年時、二年時、一年時の順にテーブルを囲んで、青春の日々や健康談義などなど。皆さん、二年時のクラス仲間は印象が薄いらしく、今回初めて出席した者もいて「エー、同じクラスだった」と、暫し絶句も。この「イベント」、六年前の古稀記念の総会に際し学年別所属クラスの名簿を作って以来の恒例ですが、すっかり定着しました。

並行して、三分限定のスピーチ。グループを代表して、朝比奈一君（F組）が趣味の「畑作」、青木昌子さんが（F組）が女

子会の活動状況を披露。飯岡肇（A組）、長谷好男（C組）の両君のエッチング・水彩画「二人展」も紹介されました。記念写真の撮影、校歌斉唱で、中締め。藤岡庄衛君（A組）が昔取った杵柄の手慣れた一本締めで締め、正にアツという間の二時間でした。更に一時間の歓談の延長戦。散会後は、三々五々、カラオケ、茶店、ビアホールへ。

幹事会の当初の出席者見込みは九十名程度。が、なんと百名超え。古稀の総会は百二十九名でしたが、次の総会は百四名。出席者の大幅な減少を危惧していたところでした。

物故者はすでに八十一名、住所不明者も四十一名（卒業総数四百十九名）。欠席者も出席者も、今や多くが一病二病持ち。総会開催に不可欠な一クラス二名の次期幹事（幹事長、事務局長は互選）も、これまでは当該総会の前に概ね決まっていたが、今回は半数以上のクラスが今総会当日にようやく決めたのが実情でした。今後、新樹会（総会）を存続させるためにはボランティア精神に溢れた者による幹事や事務局長の常任化も視野に入れなければならないかも知れません。

ただ、常任化ではないものの「自動化」が。二年前にスタートした同窓会代表幹事

は幹事長を終えた後に就任することとした二年交代システムが今総会から順調に動き出し、代表幹事は興津君から高橋君に、女性は一長年活躍された小田切由美子さん（A組）から片岡玲子さん（H組）に引き継ぎました。

総会は、これまで隔年でしたが、「毎年やったら」の声も。幹事・事務局長の不完全な形ではあっても常任化が実現すれば、夢ではなさそうです。

目指せ！米寿（それとも卒寿、いや更に！）の記念総会。

（E組幹事 石井格）

新樹会女子会（十回生）

開催のご報告

昭和三十三年卒業、第十回生の会「新樹会」の女子会を平成二八年十一月八日（火曜日）13:30から新宿で開催致しました。

私たちは昭和十四年・十五年（1939・1940）生まれで、七七歳になった人ともうすぐ七七歳になる人が集う喜寿の会でもありました。もちろん全員が立派な後期高齢者たちの集いですが、とはいえ足腰の痛みや多少の物忘れや日々の探し物の多さに悩





まされている仲間たちです。

ここ数年お世話になってきた会場が人数の関係で座敷でしたので、椅子席にという希望も多く、今回は会場を新宿中村屋8F「Granna」に変更しました。

これまで現役で仕事を続けている方への配慮もあり、土曜日開催を心掛けて来ましたが、もうそろそろウィークデイ開催でも大丈夫ではないかとの声もあり、会場側との調整の結果、思い切って火曜日開催に致しました。

開催時間の三十分前頃から皆さんが二人、三人と集まり始めるともう六十年タイムスリップした高校時代の華やいだ雰囲気にな

りました。定刻には司会の方の「そろそろ始めます。静かにして下さい。」の声が後ろまで届かないほどの賑やかさでした。出席者は岡山、名古屋などの遠方から、埼玉、千葉、神奈川などの近県から、東京都内からなどの二三名の方々でした。

久しぶりに参加された方の近況報告や参加者全員の1/2程度程度の簡単スピーチなどが続き、次々に運ばれるおいしいコース料理を口に運んで、気が付けば二時間三十分の時間があつという間に通り返ぎていきました。喜寿記念の紅白饅頭をお土産に、去りがたい気持ちで会場に残しつつ散会となりました。

余談になりますが紅白饅頭はたった二個でも値の張るものが多く、幹事一同予算のやりくりに苦労しましたが、結果的に皆さんにとっても喜んで頂けました。

報告事項

◇女子会有志七人で四月に一泊二日で名古屋城・徳川美術館・犬山城・明治村を巡りました。晴天のもと新緑の美しさに大感激の旅でした。

◇女子会メンバーの方が代表理事を務めている「3・11甲狀腺がん子供基金」にご賛同下さった皆さんからの寄付金を頂きました。

(新樹会2016) 女子会 幹事 丹沢鈴代)

八回生同期会 (卒業六十周年記念)

我々、八回生は卒業六十周年を迎えた二〇一六年四月二一日に記念の同期会の総会を原宿のベニーレベニーレで開催しました。曇り後雨と言う生憎の天気でしたが七三名が集いました。



今回は小泉澄さんと仙名(山成)怜子さんにお会いし、開宴後、前回は以降に亡くなった同期生十名のご冥福を祈り、黙禱を捧げた。乾杯の音頭は神戸から来てくれた高

木康之さんをお願いした。続いて、代表幹事の滝沢孝之さんから母校新宿高校の現況と朝陽同窓会の活動状況の報告がなされた。今回は我々の歳も考えて、これまでの立食から着席スタイルにした。今回の展示は皆さんからの返信葉書、卒業アルバム等を展示し、皆さんに閲覧してもらいました。今回はそれぞれの事情で欠席した方も多々ありましたが、出席した方々は六十年前に戻り、懐かしく語り合い、楽しいひと時を過ごしました。恒例の全員の集合写真、スナップ写真は高田憲彦さん、渡辺徹さんをお願いした。総会の最後は恒例により小高照男さん、南徹さんのリードで全員で校歌を斉唱した後、二年後の開催（二〇一八年四月・傘寿記念）を決めてお開きとしました。

（代表幹事 小林暁生）

七回生同期会便り

◎全員傘寿到達記念同期会開催案内

傘寿祝いも世間では満年齢で行われる例が増えており、七回同期会も全員の満八十歳到達後総会を開催します。同期生には昨年の「朝陽」65号同封のチラシで案内済みですが再度ご案内まで。

日時・平成二十九年五月十七日（水）

十三時開会

会場・「クルーズ・クルーズ新宿」8F

詳細は個別に往復葉書で連絡済み。

* 同期会だよりの前回開催記録は手違いで「朝陽」65号掲載漏れとなり同窓会ホームページで紹介されましたが、以下に再録します（一部圧縮・割愛）。

◎卒業六十周年記念同期会記録

日時・平成二十七年十一月十日（日）

十三時～十五時半（二次会十七時まで）

会場・「クルーズ・クルーズ新宿」8F

出席者・八十九名（旧師ご招待見合せ）

次第・物故者報告・黙祷、母校と同窓会近況説明、入学時クラス別記念写真映写、校歌ほか全員斉唱。

二次会も同会場で歓談、約半数が参加。

▽以下は幹事団の立場からの反省記録。

○御苑散策・

昼前の短時間、新宿御苑での散策を呼び掛けたが、朝方の雨のせいかな定刻参加七名とは残念だった。

○会場設営と歓談の兼合い・

「立食パーティー」では椅子が五十までしか入らず、高齢ゆえの卒倒者も出かねないので、着席方式に変更、ただしテーブル指定は「歓談」に入ったら無効とし大いに交流願いたしと冒頭に呼び掛けた。これは会の大賑いに奏功したが、前半の報告・説明の時も各所で話が弾み、蜂の巣状態。幼顔の残る入学記念写真を映写したときだけ一瞬やや静まったが、それがまた話題を加え、以後騒ぎが収まることはついになし。途中から近況等スピーチを募った進行は話者の隣にいても聴き取れないありさま。誰かが名言を吐いていた「この歳になつたら、みんな話を聴きに来るのじゃない。しゃべりたさ・聴いてもらいたさだけさ。耳も遠いし」。幹事会でも既に「二時間くらいしゃべり尽くす方向」と合意していたのにスピーチにこだわった、それがまさに要反省か。

○音響効果の工夫不足・

立食方式に準ずる会場づくりで厨房との間仕切りを撤去したら、マイクの音が吸われてしまったようだ。

○校歌ほか斉唱…

今回もまず国民的ナツメロ「青い山脈」で始まった。「みんなで歌う」にはやはりこれしかない。歌詞は校歌とこの曲とも映写したが、楽譜も用意すべきだった。

▽反省は反省として、各クラス幹事と多くの参加者の反響から概して盛会だったと厚かましくも内心自讃している。

(当番3 C T M・H M・Y K)

◎「全歩会」と「新七会」

平成十八年三月の第一回から十年間四十回続いた都区内散歩の「七歩会」は年齢相応の脚力低下もあり、満十年を期して一旦終了した。しかし健脚組多数から継続の要望も根強く、また散策後有志での仕上げだけでも楽しみたいとの声もあつて、一部模様替えの上その名も「全歩会」として再発足、平成二十八年はすでに四回開催された。模様替えの要点は、昼食を共にしてから出発の半日コースに時間と距離を短縮、博物館等見学を増やし休憩しやすく、下見の簡略化など全体として、「会うこと」と懇談が重点。

一方、「朝陽」64号で活動報告した親睦ゴルフ「新七会」も年二回の定例会に加え、「エクストラ会」も開催して順調だ。

◎中野博之先生のお墓参り

わが同期のクラス担任を三年間続けられ、また殆どの同期生が国語の授業で先生の熱気に触れた思い出を持っていることから、E組クラス会で企画されたお墓参りを同期仲間にも呼びかけ、十月五日十四名の有志で実現した。

(吉村悟・森田亨)

半寿記念同期会（6回生）



私たち六回生は、二〇一六年に八一歳になるのを記念して、昨年九月三十日に半寿記念同期会を、いつもの京王プラザホテルで開催しました。

八十一で「半」の字になるのだそうです。昨年の傘寿記念の会は七五人の出席者でしたが、今回の半寿では六六人。漸減は覚悟していたにもかかわらず、世話焼き一同、一抹の寂しさを禁じ得ませんでした。

ところで、私たちの会では毎回、受付で世話焼きが作った手製の名札を胸に着けて入場します。その名札には、男性も女性も卒業時の姓が書かれています。というのは、

ほとんどの男性同期生は、女性を卒業時の姓でしか覚えていないからです。私たちはこれを「昔の名前で出ています」といっております。

同期会に出席する旧友たちも、永い間に固定化された感があります。今回も、北海道のA君、八戸市のH君、十羽田市のS君、四日市市のHさん、それに宮崎県からのI君などなど、常連の遠隔地組が元氣な姿を見せてくれました。嬉しいですねエ。世話焼き冥利に尽きます。

会はブッフエスタイルで進みます。初めは丸テーブルの周囲のイスに好き勝手に付くのですが、宴たけなわともなれば、同期生たちはテーブル間を回遊するようになり、あちらこちらのテーブルで話しの花が咲きます。まるで高校生時代に戻っているのです。も一度ですが嬉しいですねエ。世話焼き冥利に尽きます。ホントの話し。

恒例の行事は初参加者の近況報告。

出席者の諸兄姉がビックリしたのが初参加のS君でした。彼は大学を卒業して大手出版社に就職。カリフォルニア大学に留学して復職。その後、退職してから、フィリピンのセブ島沖の小島、カオハガンを一千万円で購入して島民約三百人と暮らし始めました。

そのへんの経緯は彼の著書「何もなくて

豊かな島」が物語っています。

この東京ドームほどの小さな島の美しい自然、そこに暮らす貧しい人々。しかしお互いに助け合って心豊かに、自然と調和しながら共生している人たちの様子を、彼は短いスピーチの中で熱っぽく活写してくれました。

出席者一同が、オシャベリも、飲むのも食べるのも忘れて聞き入ったのは言うまでもありません。

所定の三時間がアツという間に過ぎて、当たり前ですが、万歳も校歌斉唱も無く、お互いに再会を約しながら、世話焼き苦心の作である「最新名簿」を手に、大人の散会をいたしました。

さて、同期会出席者の賛同を得て、二〇一七年も「同期会」を開催いたします。

九月二十八日（木）

会場 朝陽同窓会事務局のご幹旋で「クルーズ・クルーズ新宿店」です。

（明治通り沿い 伊勢丹の前）

同期の皆様、ぜひご出席願います。

世話焼き十人組み（文責 山岸哲男）

16・6・16！最後の「朝陽十六会」

「朝陽十六会」は、一九三七（昭和十二）年四月に旧制府立六中に入學、太平洋戦争の始まった翌年、四二（同十七）年三月に卒業した十六回生の同期生会である。毎年六中卒業にちなんだ六月十六日（6・16）に総会を開いてきた。二〇一六年は16・6・16の記念すべき年とあって、これまで続けることを目指し、幸いその目標を達成して閉幕することができた。卒業74周年になる。

最後の総会は、この日正午から数屋橋交差点東南角の「桃杏楼」で開催、天田憲治、岡崎久、田中正春、村岡久志、山埜井乙彦、渡辺和郎に、故臼田義弘世話人代表の幸子夫人を加えた七人が参集した。臼田兄は長年、十六会をリードしてその発展に貢献してくれ、最後の会というので夫人が遺影を掲げて参加された。

総会は、この日正午から渡辺世話人代表の乾杯に始まり、事務報告のあとは、十六会の思い出話や和やかな世間話が続いた。途中、卒業七十周年を祝って作成した「朝陽十六会の歩み」二〇一二年版DVDによって、卒業アルバムや最近の写真を再現し、往時を懐かしんだ。こうして最後の十



後列（左から）山埜井、渡辺、田中
前列（同）岡崎、臼田夫人、村岡、天田

六会は午後二時過ぎに記念撮影、同四五分ごろ散会した。世話人は、渡辺、岡崎、山埜井が務めた。

十六会は卒業時、途中入退学などを含め316人の会員がいたが、二〇〇六年には124人になり、閉幕直後の時点では、47人になった。203人が死去し、66人が消息不明である。「朝陽十六会の歩み」DVDには、二〇〇〇（平成十二）年六月十日にクラブ関東で開いた総会の写真が載っているが、このところが会の最盛期であろう。速水優（元日銀総裁）を中心に、下中邦彦

れた二階源市校長始め、よき師、よき友に恵まれ、新宿御苑の一隅で過ごした日々が懐かしい。「朝陽十六会」閉幕にあたり、母校の一層の発展を祈ります。

(山埜井記)



(元平凡社社長)、臼田義弘(元東京即売社長)ら55人が、四列に並んで勢揃いしている。また、卒業アルバムには、A組からF組まで全員の若き日の姿も残る。「照顧脚下 随处為主」を座右の銘とさ

新宿三丁目駅E4出口直結
新宿高校から徒歩5分

レストランクルーズ・クルーズ新宿

TEL 03-5485-3900

パーティ

チーム新宿 同窓会プラン ¥6,000 (税別) ※フリードリンク付き / 6名様〜 / 3時間制

スペシャル特典

こちらのプランご利用の場合「100周年記念事業委員会」募金PJにお一人様100円が募金されます

ランチ

朝陽ランチプラン ¥4,300 (税別) ※フリードリンク付き / 2名様〜 (6名様〜個室利用可) / 3時間制

パーティー
最大
200名まで



詳しくはこちら

<http://www.ginza-cruise.co.jp/fair/sheq.pdf>

デリバリー始めました!

デリバリー専門店「ビーフボックス」オープン!!

焼肉李苑・肉バルカンビーフの和牛をお届けします!

初回1,500円クーポンでほぼ無料でお弁当購入できます!

UberEATSアプリ
をダウンロード

uber-shinjukubeef
プロモコードを入力

1,500円クーポンゲット!

各店舗でもお待ちしております!新宿で美味しいお肉が食べたくなったら焼肉李苑・肉バルカンビーフへ



焼肉とワイン
李苑
tel 03-6302-1035
〒160-0021 新宿区
歌舞伎町1-12-1KITビル2F

焼肉酒家
李苑
tel 03-5292-9211
〒160-0022 新宿区
新宿5-18-16B1F

和牛専門
カンビーフ
Shinjuku
TEL 03-5937-6457
〒160-0022 新宿区新宿
3-36-2キリンビルB2F



<https://fact-cons.com>

株式会社ファクト 代表取締役社長 姜在根 新50回卒業

支部便り

USA支部便り 第四回総会

二年おきに開催地を変えながら行われる朝陽USA支部の総会・同窓会。発足以来四度目となる今回は、現在四名の同窓生が暮らす米国中西部の都市シカゴにて、十月十五日に開催されました。建築の街として有名なシカゴの摩天楼を正面に見渡すパティールームに、アメリカ大陸の各地から総勢十七名の同窓生が集まりました。



みなさん会場に入って来られる時には緊張の表情ですが、挨拶と同時にすぐに打ち解け、日本から何千キロも離れた海外の地にいるとは思えないほど、部屋には高校在学当時のようなくつろいだ新宿の空気が流れて

いました。シカゴで和食専門のケータリング・ビジネスをされている松原さん(35)に用意していただいた美味しい食事をいただきながら、ロサンゼルス在住の平入さん(32)の司会で会は和やかに進み、自己紹介、新宿高校現況のプレゼンテーション、シカゴ在住の川平さん(31)による基調講演と続きました。川平さんには、日米両国で国際的なブランドのマーケティングに携わって来られた経験に基づく貴重なお話をいただきました。最後は校歌と「六中健児」の大合唱。そしてサンディエゴ在住の保科さん(27)の三本締めでお開き。

その後ダウンタウンのバーに場所を移しての二次会、宿泊ホテルでの三次会と、積もる話は尽きぬままにシカゴの夜は更け、翌日の日曜日は、一緒にゴルフに行ったグループ、美術館に行ったグループなど、旅行を兼ねた同窓会ならではの盛りだくさんで楽しい週末となりました。日本を離れ、世代もライフスタイルも違う初対面の方が多いい中、新宿高校同窓生に共通するたおやかさに触れて、豊かな心と深い友情を育んでくれた素晴らしい高校に改めて感謝の念を抱いています。

二年後の第五回総会・同窓会はニューヨーク。再びみなさんとお会いできることを、そして今回は出席されなかった方ともお目にかかれまことを、楽しみにしています。

(シカゴ在住 三三回 高橋玲子)



九州支部便り

九州朝陽会総会報告

二〇一六年度総会は、一〇月八日(土)午後四時より、例年と同じく福岡市天神・福新楼にて開催。参加者は、中21小代、3石井、7豊田、8新川、14岡本、佐治、15野上、16佐藤、19坂本、23安武、25高野、28小林、29山下、32野中、52薄鍋、東京より17田中俊郎会長長の十七名でした。

総会は昨年度より「鳴り物入り」となり、まずは野中氏の青春の香りあふれるフルート演奏、次いで小林幹事長(九州交響楽団)がイングリッシュホルンを演奏しました。

近況報告では震災後の熊本から参加された坂本、野中両氏の体験談を拝聴、被災マシンの住人で復旧に尽力されている坂



2016年度 九州朝陽会総会 平成28年10月8日 於：中国菜館 福新楼

本氏の「行政には頼れない」という言葉は胸に響きました。その他、七十年代で味わう学童交通安全指導の喜び、省エネ無電極ランプのベンチャー企業の立ち上げ、原子力したが、先輩・後輩諸氏の澁刺とした活躍、率な思いが伝わってきて、明日への心地よい刺激となりました。まさに同窓会特有の充実したひと時でした。

(二三回 安武和之)



関西支部便り

平成二十八年度総会報告

関西朝陽会総会は平成二十八年十月八日(土) 十二時～十四時迄の二時間、阪急ターミナルビル十七階「さつきの間」で開催された。参加会員は二十一名、本部から小野副会長(34)がご出席されました。会には渡辺信久氏(34)の司会で進行。濱名正二支部長(24)の挨拶、森住弘氏(中20)の音頭による乾杯でスタート。歓談をはさんで、小野副会長より母校の近況についてスライドを交えてご紹介していただきました。続いて、三村典秋氏(29)、山口文香氏(64)、西村淳男氏(中22)、村田靖子氏



(14)、岡田華織氏(53)にスピーチをしていただきました。集合写真を撮影、校歌・健児の歌を斉唱し、最後は世話人代表である青柳司氏(6)からの挨拶で閉会しました。尚、今回の総会において、濱名正二氏の支部長退任、渡辺信久氏の支部長就任及

び岡田華織氏の世話人就任が承認されました。

(四四回 西島健太郎)

○関西朝陽会世話人一同

関西朝陽会では、青柳(6)、中野(14)、濱名(24)、渡辺(34・支部長)、西島(44・事務担当)、岡田(53)その他で世話人に当たっております。本部事務局なり関西世話人なりその他の関西在住者にアクセスがあれば連絡は伝わるようになっておりますので、どうぞご遠慮なくご連絡下さい。

(報告者 四四回 西島健太郎)



多摩朝陽会 支部便り

今年も元気で楽しく！

毎年恒例の多摩朝陽会は会を重ねること十四回目。二〇一六年七月二日(土)、京王プラザホテル多摩において、今年も元気に開宴です。今回は、旧師岩波先生、六中大先輩のお二方を含め、二四名のご参加をいただきました。

世話人挨拶のあと、今年度より同窓会長に就任された十七回田中俊郎さんのご挨拶、岩波先生による乾杯を頂戴して、和や



かに今年も宴が進みます。

お集まり

いただいた幾人の方から、現役時代の懐かしいお写真をお持ちいただきました。テーブルではそれらを元に、当時の思い出話やエピソードにも華が咲いた模様。世代は違えども、同窓

の誼は、ひとつの

写真からたくさんの会話に結び付いていくものだと思います。

二四回の宮崎直道さんより、母校と同窓会の近況のご報告をいただき、また二十回富山真知子さん、二一回黒川恵子さんから、女性パワー全開で、男性にはやや耳の痛いプレゼンを頂戴するなど、和気藹々

のうちに二時間半。最後は健児の歌を全員で高らかに歌い、笑顔の散会となりました。途中からご参加の方がいらっしまったため、集合写真は今年が一番最後。適度にアルコールが入った皆さんはたつぷりの笑顔だったように思います。

次回は二〇一七年七月八日(土)開催です。どうぞ、皆さま奮ってご参加ください。尚、最後になりますが、多摩朝陽会のみならず、朝陽同窓会の精神的支柱でもあった佐藤喜一先生が、二〇一六年十二月ご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(三三回 大内 哲)



群馬支部便り

第五回群馬朝陽会開催

二年に一度の開催となっております群馬朝陽会が十一月十二日の土曜日に本部より田中敏郎会長(17)に出席いただいて開催されました。

会は物故者への黙祷から始まりました。この会の第一回から世話人としてお世話を戴いた齋藤賢一氏(15)が九月に、第一回



より出席して下さっていた石原静子氏(11)も亡くなられたことを報告致しました。そのうち最近の新宿高校の様子について田中会長よりプリントにて紹介していただきました。また毎日新聞の母校を訪ねての記事の小冊子版もご持参いただき、この記事についても盛り上がりました。母校を訪ねては毎日新聞の関東版の記事で群馬県版までが掲載されている最北端でした。

その後近況報告をしていただきましたが、最高齢の星野政雄氏(中19)は奥様に付き添っていただいていたのでご出席でしたが、お元気で六中の話を聞かせていただきました。当会の顧問を引き受けていただいている荒井俊幸氏(7)は十月に行われた国際合気道大会を高崎に招致された立役者で、この大会のために建設の遅れていた高崎アリーナが期間中だけプレオープンしました。合気道のすばらしさも実際に見て実感させられるものでした。初めて参加いただいた佐野敏男氏(20)は会合の合間を縫って参加していただきました。近達也氏(23)もこんな楽しい会があることを初めて参加して感じていただいたようでした。二次会、三次会とつながって解散となりました。

末筆ではございますが本部より参加下さしました田中会長、西東京市より参加下さった渡辺氏(25)には深く感謝申し上げます。

(群馬朝陽会世話人 二五回 浅原寛人)



宮城朝陽会支部便り

— 念願の学生会員来たる! —

当会は、宮城県内に在住する府立六中・都立新宿高校出身者の集いであり、実業界をすでに卒業されたOBのほか、現役社会人や学生からも広く参加を募り、活動しています。年代を問わない交流とアットホームな雰囲気が創立以来のDNAとして引き継がれています。

昨年は八月二十七日、一六名が参集し、愉しく賑やかに懇親会を開催しました(於…ホテル法華クラブ仙台)。

本部からは、田中会長が駆けつけて下さ



り、母校での現役後輩諸氏の奮闘振りや新境界限の変遷など、貴重な情報をプレゼント下さいました。

これは東京を離れ生活する我々にとり、毎年恒例の人気コーナーであり、後輩諸氏の元氣

な様子を拝聴し、一同、新たな勇気が湧いて参りました。

また、転勤で宮城県を離れてもなお会員に名を連ねて下さり、会を支えて下さる方が多数いらっしゃるのも当会の特徴の一つです。今回も関東方面より、心の故郷・仙台へと、20清田啓夫さんがご参集下さったほか、同じく東京から42齊藤毅人さんがは、奥様と可愛いお嬢様、そしてナントご誕生間もないご長男（昨年の同窓会ではお腹の中！）まで一緒にご参加下さいました。皆様、毎年本当にありがとうございます。当会にとって大切な応援団、誠に心強い限りです！

会員諸氏から近況やご活躍ぶりの報告がなされた後、シメは恒例の「六中健児の歌」齊藤毅人さんの名指揮のもと、全員で高歌放吟。「また元気に頑張ろう！」とお互いの肩を叩き合い散会いたしました。

さて、今回のトピックスは、何と言っても学生会員の参加です（この日を一同、何年待ったことか！）。東北大学より66太田海さんが出席下さいました。先輩達からはまさに「引」張りだこ。世代を超えたエールの交歓が夜遅くまで続きました。当会はこのように仙台にて青春を謳歌される学生諸君を力の限りバックアップいたします！

（三八回 小田島 肇）

北海道支部便り

二〇一七年は七月一日開催です

二〇一六年の北海道朝陽会は、七月二日（土曜日）に札幌グランドホテルで開催し、二十一名のご参加をいただきました。今回は道外だけでなく、アメリカ（四十四回）からや、親子（二十五回、六十回）でのご参加をいただき、感謝いたします。

また、朝陽同窓会から西出様（十五回）においていただき、新宿高校の現況についてお話をいただきました。毎年、今の高校の話聞く機会があると、北海道にいても身近に感じています。それも有り、新宿に行く機会があると、足が向き、昔の通学路を経て、旧校舎の校門からグランドを覗いてしまいます。

例年とおり午後五時から八時までゆっくりと皆様の近況を伺いながら、時を過ごし、先輩（二十八回）のバーで二次会、という流れで楽しい時間を過ごさせていただきました。

今年の北海道朝陽会は七月一日（土曜日）札幌グランドホテルで行います。道内にお住まいの方だけでなく、出張、旅行などで札幌へお越しの方も、お気軽にご参加ください。幹事一同心よりお待ちしております。

しております。ご連絡は小川一雄さん（三十八回）までお願いいたします。
連絡先は次のとおりです。

kazuo.gawa@sapporo-c.ed.jp

（幹事 三二回 江本 匡）

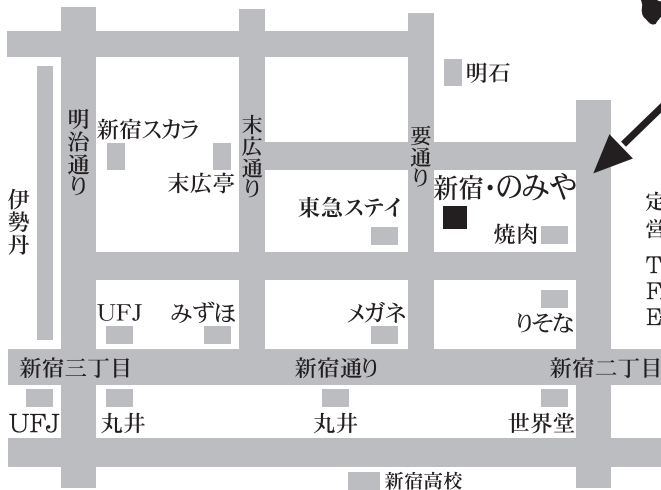


28回生、矢向と申します。
(3年F組、水泳部)

新宿高校から一番近いOBの店を経営しております。
カウンター10席とテーブル26席。
こじんまりとした居心地のいい小店です。
お一人様で軽く一杯、またはクラス会等に
是非ご利用ください。

<http://nomiyanooyaji.cool.ne.jp>

新宿・のみや



定休日 日曜・祝日
営業時間 17時～24時

TEL 03-3353-2101

FAX 03-3353-2102

E-MAIL shin,jyukunomiya@aol.com



くつろぎ、味わい、楽しむ。
ホテルのあたたかさ
感じてください。



京王フラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

TEL. (03) 3344-0111

<http://www.keioplaza.co.jp>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

母 校 便 り

学校長所感 校長 加藤 隆 大学入試改革への対応に着手



着任以来一年が経ちました。本校は昨年度も同窓会の皆様のご支援により「進学指導特別推進校」として順調に教育活動を進め、進学指導重点校にも引けを取らぬ進学実績を上げることができたものと思います。

一、組織的な進学指導の一層の充実

昨年度本校は教育庁の事業「進学指導コンサルティング」の対象校となりました。同事業は外部機関（本校担当は代々木ゼミナール）により教科指導体制や教科指導力（本校では英語科について）における課題を抽出するアセスメントを行い、その改善プランの提示を受けるものです。年間を通して三回の訪問を中心に聞き取りや資料提出、授業参観に対応しながら、

提示された改善プランに基づき定期考査、模擬試験、授業と課題、生徒による授業評価、シラバス改訂、英語外部検定、各指導の連携などの課題解決に來るべき高大接続システム改革も視野に入れながら英語科をはじめ担当分掌等で取り組みました。

これまでも進学指導、学習指導に力を入れてきた本校ですが、この改善への取り組みも高く評価されたところであります。一層強固な教科指導体制の構築が期待できるとともに、大きく変わっていく大学入試への対応にも着手できた一年となりました。

二、同窓会の支援による教育活動の推進

同窓会の皆様には、進路部通信への寄稿、キャリアアガイダンスや特別講演の講師推薦、臨海教室へのOB・OGの協力、毎日新聞の連載記事など多様な取材等へのご協力など例年同様、多方面でご支援を賜りました。特に昨年度は、衛生的で快適な臨海教室を可能にした館山寮の改修や合唱コンクールへの卒業生・池辺晋一郎氏作曲による新たな課題曲の完成、朝陽奨学金給付の開始など、まさに創立百周年記念事業第1期を

飾るにふさわしい充実した活動の成果から在校生への教育活動を着実に前進させられた1年でありました。

多岐にわたるご支援に心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

平成二十八年度も朝陽同窓会の方々からの熱い御支援をいただき、無事終えることができました。ありがとうございました。



母 校 便 り

副校長 中川 徹



今年度は、臨海教室で使用する館山寮の食堂に冷房施設が設置等の改修を手掛けていただき、快適な環境で臨海教室を実施することができました。そして、今年も多くの水泳部OBに参加していただき、安全に全四期が行われました。一年次生も厳しい指導を受けながら充実し

た毎日を過ごすことができました。

さて、新宿高校は今年東京都から英語教育推進校の指定を受け、新たに導入される大学入学希望者学力テスト等の4技能（聞く・話す・読む・書く）重視に対応できる力の育成と、その測定する支援（外部検定試験）を頂き、三年次生は昨年九月にTEAP検定試験を受験しました。この検定結果を用いて行われる大学入試で見事合格を勝ち取った生徒も出ました。今後、音声・リーディングPCソフトも導入され、英語教育の更なる充実が期待されます。

今年の自習室でも、同じ目標を達成するために黙々と勉強に励み、互いに切磋琢磨し合う姿が見られ、国公立前期試験前最後の日には、毎日勉強した自習室にお礼を言って出て行く姿にはほえましさを感じつつ、一人一人の自信に満ちた表情に、良い結果を期待するところです。センター試験の結果も昨年以上の出来で、大学合格実績も大いに期待できます。

部活動においては、全国レベルの大会に多くの部活動が出場しました。陸上競技部は全国高等学校陸上競技対抗選手権（インターハイ）に男子800m準決勝進出、音楽部が全国高等学校総合文化祭「合唱部門」に、ダンス部が夏の日本高校ダンス選手権全国大会、チアリーディング部がJ A

PAN CUP二〇一六日本選手権大会フライデートーナメント出場と輝かしい実績を挙げました。今年も同窓会の皆様の応援よろしくお願いいたします。

昨年度から始まったホームカミングデーには150名程のOBの方の参加があり母校に対する関心の高さを感じております。今年は現役生徒との交流も視野に入れながら充実したものに発展していくことを願っております。

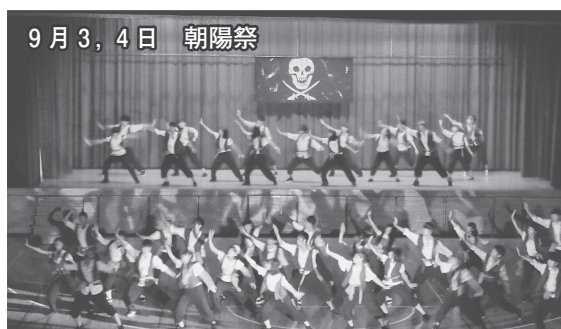
今年度も新たな取り組みを入れ、勉強に部活動に、まさに「文武両道」を実践し、発展し続けてまいります。同窓会の方々は、今まで以上に御支援・御協力を賜りたく、今後もよろしくお願い申し上げます。



平成28年度主な行事

始業式	4月6日
入学式（71回生）	4月7日 男子157名 女子166名
セミナー合宿（1年次生）	4月10日～11日
運動会（駒沢公園）	5月12日
戸山戦	6月2日
臨海教室	7月24日～8月8日
宿泊防災訓練	7月29日、30日
朝陽祭	9月3日、4日
勉強合宿	10月1日～3日
修学旅行	10月11日～14日
合唱コンクール	12月21日
マラソン大会	2月3日
卒業式	3月15日 男子145名 女子173名
修了式	3月24日

平成28年度 母校行事アルバム



平成29年度 異動一覧 (非常勤および経営企画室を除く)

教職員

平成29年4月1日

氏 名	転 出 先 等	転入者氏名	転入前所属	教科等
宮本 雄亮	桜修館中等教育学校	志村 直子	小石川中等教育学校	国語
熊谷 圭二郎	退職	峯 淳	駒場 (全)	国語
加藤 順子	退職	西村 麻純	新規採用	国語
大伴 一成	西 (全)	宮澤 達也	町田 (全)	地歴公民 (地理)
黒崎 健二	退職	富重 文孝	石神井 (全)	数学
小森 誠	目黒 (全)	松永 浩之	小山台 (全)	数学
白石 恵	科学技術 (全)	津川 菜由子	新規採用	保健体育
池上 純夫	練馬工業 (全)	田久保 裕之	小山台 (定)	保健体育
菊池 法俊	大泉 (全)	笠原 眞樹子	国分寺 (全)	英語
山田 努	退職	大野 尚志	板橋有徳 (全)	理科 (化学)

2008年および過去3年間の大学別合格者数(現役+既卒)

国公立大	2008	2015	2016	2017
	60	67	68	69
北海道大	2	5	2	5
帯広畜産大	1		1	
秋田大			1	
岩手大		1		1
東北大		4	3	2
山形大	1		1	1
群馬大		2	1	
茨城大	1	2	1	1
筑波大	1	7	8	7
埼玉大	3	2	4	3
千葉大	5	9	14	14
お茶の水女子大		1	1	3
電気通信大	1	1	4	4
東京大			4	2
東京医科歯科大		2	1	2
東京外国語大	2	6	2	8
東京海洋大	1	4	2	3
東京学芸大	3	9	8	7
東京芸術大	1		1	1
東京工業大	1	6	4	6
東京農工大	1	10	8	8
一橋大			2	9
横浜国立大		8	12	2
信州大		3	1	2
静岡大		1		1
金沢大				
名古屋大			1	2
京都大		1	1	1
大阪大			2	2
神戸大			2	
九州大			1	1
首都大東京	4	11	17	11
横浜市立大	2	4	2	2
他の国公立大学等	6	10	8	8
国公立大学等計	37	109	120	118
現役大学進学率	69.2%	79.4%	78.0%	70.8%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.66	2.17	2.09	1.92

私立大	2008	2015	2016	2017
	60	67	68	69
青山学院大	10	30	39	33
学習院大	18	11	21	12
北里大	10	11	10	8
慶應義塾大	14	25	29	30
工学院大	8	6	6	5
國學院大	13	7	8	4
国際基督教大		3	2	2
駒澤大	16	10	5	11
芝浦工業大	18	67	36	39
上智大	13	20	19	22
成蹊大	27	16	14	11
成城大	10	12	12	6
専修大	5	10	4	13
中央大	27	49	39	55
津田塾大	3	4	8	8
東海大	11	10	1	2
東京女子大	10	18	39	23
東京電機大	9	12	6	8
東京農業大	29	24	23	30
東京薬科大		4	8	3
東京理科大	18	59	50	60
同志社大	3	1	1	
東洋大	24	40	28	34
獨協大	11	9	3	2
日本大	64	48	46	39
日本女子大	16	29	17	19
法政大	42	51	75	61
武蔵大	16		2	6
東京都市(武蔵工)大	6	10	8	3
明治大	56	105	132	122
明治学院大	29	17	15	21
立教大	41	59	71	70
早稲田大	51	61	98	69
以上の私立小計	628	838	875	831
他の私大短大	163	111	92	88
私大・短大計	791	949	967	919
大学・短大総計	836	1058	1087	1037
卒業生の数	315	310	318	318
現役大学進学率	69.2%	79.4%	78.0%	70.8%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.66	2.17	2.09	1.92

部活動紹介

陸上競技部

顧問 池上 純夫

新宿高校の陸上競技部顧問として四年目、指導者としては忘れられない年となりました。男子八〇〇メートルで、関東大会を突破し、岡山で行われたインターハイに出場することができました。出場した選手の努力はもちろんのこと、周りの支えがあったからこそ、素晴らしい結果が出たと考えています。関わっていただいた方々に深く感謝しています。

顧問就任当初、三角のグラウンドに毎日三つの部活動が練習している環境を見て、安全かつ効果的な練習をするためには、どのような練習をすればいいか、副顧問の先生と考えたり、練習場所を確保したりしました。

今現在は、選手自ら、練習内容や方法を考え、実践しています。時には、失敗をしようというもありますが、さすが新宿生次の練習ではその失敗を生かし、顧問が考えている以上の深い練習ができることも多く見られます。

今後も都大会入賞、関東大会出場を目指し、選手をサポートしていきたいと思っています。



部活動紹介

管弦楽部

顧問 山田 茂博

今年度の管弦楽部（通称SPO）は、四名の一年生部員を迎え、新しい活動を開始しました。

主な演奏機会は、入学式・卒業式などの式典（入退場曲、校歌）、文化祭、東京都高等学校文化連盟音楽部門地区大会・中央大会、十一月に校内で行われるアートプロジェクト新宿、そして一年の活動の集大成となる五月の定期公演（メイコンサート）です。

日々の練習は、平日は毎日、七階の音楽室、ガイダンス室を中心に、各階の中講義室でパートごと、セクションごと、合奏を行っていきます。授業のない土曜日や祝日、本番が近くなると日曜日にも登校して演奏の準備を行っています。

次回の定期演奏会では、シュベルト、チャイコフスキー、シベリウスの諸作品を演奏します。

昨年十一月には、管弦楽部の創設者である、池辺晋一郎先生が来校され、講演会の後、指導をして下さいました。

北欧の作曲家シベリウスの交響曲第二番のもつ音楽的特徴や背景を丁寧に説明して



管弦楽部の指揮をする池辺晋一郎さん

いただきながら、指揮をされると、生徒たちの演奏が見る見るシベリウスの音楽に変わっていききました。とても貴重な経験をすることができました。

今後は各生徒の演奏技術、音楽性を高めるのももちろん、多くの演奏機会を作り(いただき)、聴きに來てくださった方々に楽しんでいただけるよう進んでいきたいです。

離任恩師ご挨拶

お世話になりました

菊池 法俊(英語科・在職八年)

新宿高校在職中六年間、つまり二回担任を経験し、卒業生を出しました。六六回生と六九回生です。多くの新宿高校の生徒たちに、「三年経つと違う学校の生徒のようだ」と言わしめるほど年々新入生の偏差値が上がり質の異なる生徒が入学してきます。それに伴い進学実績も伸び、急成長を遂げる優良企業にいるかの如き感慨もありましたが、学校はやはり、人間を相手にする世界。生徒と教員集団の真剣勝負の場であり、共に成長するビニールハウスでした。促成栽培では社会に出てからの耐性は期待できないし、刺激が強すぎればしおれてしまうときどき外気を入れながら成長を見守る毎日でした。すべての携わった皆様に感謝申し上げます。

最後にこれから、大学に進学し、あるいは、大学を卒業する諸君に一言。朝陽同窓会の存在を再度認識し、活用していただきたい。これまでも新宿高校の教育活動に多くの支援を頂戴しているが、様々な機会に

接点を持ち大切にしていたきたい。お世話になりました。



ありがとうございました

熊谷 圭二郎(国語・在職五年)

新宿高校に勤務して五年の歳月を過ごさせていただきました。

津波によって家族や教え子を失った東日本大震災の翌年、仙台から再び東京の高校に戻ってきたときは、教師として何ができるんだろうと自分自身に自信を失っていたような気がします。この震災での出来事は私に大きな悲しみと失望を与えた一方、被災者と関わる中で、人と人とのつながりこそが大きな力になるということを改めて感じました。

そこで新宿高校に勤務しながら、勤務時間外や休日にも大学院に通い、人と人とのつながりに関する勉強や研究をさせてもらいました。(結果的にみなさんに多大な迷惑をおかけしてしまい大変申し訳ありませんでした。)そのおかげで全国の先生方と交流す

ることができたのですが、その際、自己紹介で新宿高校のことを言うとそれをきっかけに話が広がることが多々ありました。その度にこの学校の知名度の高さや各地で卒業生が活躍していることがわかり、この学校に関われることを誇らしく感じました。

また、震災後の勤務校として新宿高校の教壇に立つことができてもうれしく感じています。特に臨海合宿での生徒の成長は、海に対する恐怖と憎悪を抱いていた私の心を柔らかにしてくれたような気がします。その後の行事などにおいても自分たちで仲間と協力しながら成功させていく生徒たちのたくましい姿をみて、教師という仕事の素晴らしさを実感することができました。新宿高校のみなさんとの出会いによって私自身、大きく成長できたのではないかと感じております。

四月からは大学の教員として働きますが、この新宿高校での五年間は私にとっては忘れられない思い出になるに違いありません。今後は先生方の支援や教員養成、教育における危機管理などについて携わっていくつもりですが、この決断も新宿高校での貴重な経験があったからだと思います。五年間という短い期間でしたが、これからは何らかの形で新宿高校の皆さんに貢献できたらと思っています。本当にありがとうございます。

ございました。
最後に在校生のみなさんや同窓生のみなさんがますますご活躍されることを心から願っております。



教室と廊下にならぶロッカー



左から右へ
柔道場
図書室
理科室



入澤法律事務所

辯護士 入澤武久(新36回生)

新36回生代表幹事を拝命しております入澤武久です。親子三代弁護士を生業としており(父親は都立戸山高校出身です。),事務所は,日本橋1丁目(日本橋交差点直近)にあります。

一般的な民事(相続,離婚を含む)・商事事件の他,各種の契約書,社内規程,就業規則等の作成やリーガルチェック,株主総会の運営・指導等も取り扱っております。その他,証券事件,労働事件,建築瑕疵事件などの分野の扱いも御座います。

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-2-10 東洋ビルディング9階

入澤法律事務所

辯護士 入澤武久(東京弁護士会所属)

TEL: 03-3273-5759

FAX: 03-3273-5758

e-mail: nihonbashi@irisawa-law.com

●栄研化学株式会社(東証1部)

社外取締役,指名委員会委員長

●明星電気株式会社(東証2部)

社外監査役

●シンフォニアテクノロジー株式会社(東証1部)

コンプライアンス委員会委員

●東京弁護士会労働法制特別委員会委員(副委員長)

●日本大学法科大学院非常勤講師(労働法)

(以上は,平成29年2月末日現在)

追悼文・計報

中野 博之 先生（享年九四歳）

平成二八年五月二一日ご逝去

教科…国語科

在籍…昭和二五年四月

～同六二年三月

（二四年間）



追悼 中野博之先生

七回 タゴール（松元） 暎子

先生は二〇一六年、五月で九十四才のご長寿を完うされた。

私が初めて先生の国語の授業を受けていた当時、先生は確か三十を少々過ぎておられたかと思う。眼鏡の奥の眼光は鋭く、額に落ちる黒髪をかき上げながら、低音のバスでゆっくり、はつきり、文学を解説される先生の姿を思い出す。いかにも東大出のインテリゲンチヤが独自の主義主張を旗標に進学高校に名乗りを上げて来られた姿勢を感じた。

正直、私には近寄りがたい存在だった。先生を近しく感じるようになったのは、後年、拙著をお送りして以来である。

私は縁あってインドのタゴール家の者と結婚し、その頃の経験を異生活文化の視点で執筆した。本書は「嫁してインドに生きる」（筑摩書房、一九八四年）として出版された。先生はご丁寧な感想を寄せて下さり、「これで暎子像がはつきりました」と述べられた。教え子の作品に対する大きな励まし、と勇気づけられた次第だった。

先生とは長年にわたって「年賀状」のやり取りをさせていただいた。数え切れないほどの教え子達からの挨拶があった筈なのに、忘れず返礼を下さり恐縮した。それだけではなく、親の喪中の年賀欠礼状にまで、心やさしいお悔やみ状を頂戴して感動したものである。

東京在住の同窓生達は、時折、先生宅を訪問させて頂いたと言う。遠方の私にその機会はなかったが、文通には恵まれた。

ご子息のインド旅行中における父親らしい憂慮、国語教科書著作にかける努力と期待、責任感など、家庭人、社会人としての細やかなやさしいお人柄を垣間見る事ができた。

中野先生、ありがとうございました。

合掌

吉江新二先生（享年九六歳）

平成二八年八月九日ご逝去

教科…美術科

在籍…昭和二二年九月

～六十年四月

（三七年六か月間）



吉江先生ありがとうございました

十四回 藤井 忠生

「吉江新二先生」いや「吉江さん」と私は親しみを込めてそう呼んだ。卒業後もこれほど深く親しく付き合わせていただいた先生はいない。先生のおかげで私達の人生はどれほど魅力的で豊かなものになったか計り知れない。

高校時代に言われた言葉「絵で喰おうと思うなら美大へ行け。絵描きになるのなら美大へ行くな。技術が身について邪魔になるぞ」は忘れない。と言いながら美大に生徒が入学すると本当に嬉しそうにしていた。卒業後も良く会った。あの中二階の美術教官室。電気コンロでおカン付けて軽一杯。その後新宿のゴールデン街へ。新宿一丁目の卒業生の店「圓」は本当に良く行き、先生や先輩方とよく飲みよく語った。九百才まで生きてくれると信じていた。九

十才を過ぎても丁度二廻り歳下の未（ヒツジ）歳の私達と一緒に飲み、一次会で終わろうとすると「オイ！次に行くぞ」とまた居酒屋へ。帰りに気の利いた仲間がタクシー券を渡そうとすると「行くところがあ

るからいらない」と中央線に消えていく。先生を囲んで美術部OB有志の展覧会「ゼロの会」が平成七年に始まったのも自然の成り行き。最下級生は昭和三四年生れの三十回生。最上級生は昭和六年生まれ。大正八年生まれの先生とは一廻りしか違わない未歳。まるで兄弟のような存在。

その先輩達からよく話を聞いた。軍隊が終わって赴任された芸大卒のバリバリ。多くの教師がまだ軍服や国民服の時代に白や錆赤色のジャケツトで登校。ダンディーでかつこ良かった。何人もの生徒が影響を受け美大を目指した。授業は自由だったが、美大の受験指導は細やかだった。その上、貧乏な生徒には授業料まで面倒を見る程生徒思いであった。先生と、先生の奥様となる麗子さんとのデートに、一緒に付いて行った先輩もいたとのこと。先生・生徒の関係を越えた濃密な関係であった。

定年後、故郷の信州辰野に建てたアトリエには、私達は何度か泊まりがけでお邪魔し、夜中まで飲み明かした。私などは小さな息子まで連れて行った。

戦後早々と自由美術協会展に出品し、その後主体美術展の創立会員として画壇で活躍。作風は日本人にしか描けない独自の抽象絵画であった。日本画壇は惜しい人を失った。心からご冥福をお祈り申し上げます。

武井正教先生

平成二八年四月二六日ご逝去

教科…世界史

在籍…昭和三二年八月

（平成元年四月

二九年八か月間）



武井正教先生を偲んで

十一回 稲田 稔

昭和三四年卒の十一回生である私が初めて武井先生の世界史の授業に出席したのは、二年生になった昭和三二年の四月でした。眼鏡をかけダブルの背広を着て颯爽と笑顔で授業を始めました。まず驚いたのは、黒板に小さな字で年表式に項目を書きながら説明されたのです。しかも名調子の話し方です。たちまち、世界史が好きになりました。三年生になって武井先生の日本史もとりました。また、先生が私の三年C組の担任になられ、先生との付き合いが始まっ

たのです。当時の先生は三十代半ばでした。卒業後は年賀状を出したり、たまに国立の先生のご自宅を訪問したりしてお話をうかがいました。特に二〇〇〇年からは、国立のNHK学園でスペイン語を教えるようになり、三、四カ月毎に先生宅を訪問しました。奥様は昔亡くなられ、娘さんと二人で住んでおられ、先生宅を訪ねると、先生はとても喜びました。

二〇〇六年には、先生は最後の世界史の参考書、「武井の体系世界史」を出版することになり、その校正をお手伝いしました。また、私の専門のスペインと南米の記述については、かなり詳しく校正しました。この本は定価三千円でしたが、現在絶版となりネットでは中古で、四万円で販売されています。

新宿高校のあと代々木ゼミナールの世界史専任講師となられ名講義をされ教室は熱気に包まれ講義毎に拍手が沸いたとのこと。著書も三十余冊になり、先生のファンは日本全国にいます。

最後に先生にお会いしたのは二〇一二年の秋でした。その後、先生は重い病にかかれお会いできませんでした。

武井先生、今までいろいろご指導いただきどうもありがとうございました。

今は先生のご冥福を祈るのみです。合掌。

佐藤喜一先生（享年八六歳）

平成二八年十二月六日ご逝去

教科…国語科

在籍…昭和三八年四月

～六二年三月

（二四年間）

昭和三四～三七年

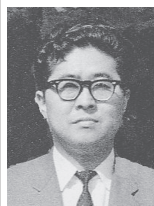
朝陽同窓会副会長

昭和四十年～平成八年

朝陽同窓会編集長

平成十六年～二十四年

朝陽同窓会顧問



弔辞

一回 直井 正（終始会）

佐藤喜一君、君とは実に長い付き合いでした。昭和十八年府立六中入学以来七十二年、戦争の惨禍を逞しく潜り抜け、数え米寿の祝いを目前に突如銀河鉄道で旅立たれました。昨年十一月、今年の終始会総会について電話で話し合ったのが最後でした。「次々と仲間が去って寂しい限りだ。来年は米寿。これを区切りに従来総会はお開きにしよう」というのが病床からの最後の言葉でした。終始会の結成から幕引きまですべてに関われ、最後の結末だけに立ち

会えなかったのはさぞ無念であつたろうと心が痛みます。

佐藤君は人格円満、調整能力抜群、国語教師に相応しい文章力を備え、エッセイストとして世に知られ、昨年まで「漱石没後百年に寄せて」シリーズを交通新聞に連載中でした。文章のレパートリーも広く、特に鉄道と文学の融合はユニークで、「汽笛のけむり今いずこ」では交通図書館を受賞されました。また教え子から芥川賞作家絲山秋子氏が生まれたことを大変喜ばれた姿が目に見えます。

資料の整理も緻密で昭和二十二年、私が朝陽時報復刊第一号を立ち上げた後、編集方針の対立から別の新聞「六中文化」を学校側に無届発行し福家新聞部長から発禁処分を受けた際、佐藤君がその新聞をこっそり保存してくれていたこと、大変嬉しかったこと思い出します。

また、平成十四年私が朝陽バラ会に入会して彼も又熱心な会員だったことを知りました。今でもバラ会名簿には佐藤君の名が刻まれて居ります。

この様に佐藤君は至る所で新宿高校のため、後輩のため献身的に貢献されました。われわれ同期生一同も教育者としてのご活躍を誇りに思い永年の労をねぎらい、哀悼の誠を捧げる所存です。

一方われわれ終始会員も先輩の旧四回生石川徹先生、旧十回生木村勇三先生の薫陶を受けました。六中精神、六中文化の継承でした。諸先生の暖かいご指導に感謝し、今はただ霊安らかれと祈るばかりです。

春浅し米寿の友へ挽歌かな

合掌

平成二九年二月二五日



ご冥福をお祈りします

十九回 本多 清孝

四年前の一月アルジェリアでプラント襲撃事件が起きた際に心配して真つ先にお電話を下さったのが佐藤先生でした。海外での仕事が多かった私に「日本に居たのか、声を聞けて無事で良かった」と一言。卒業して四十一年以上経っても生徒であった我々を常に気に掛けて頂いている御様子が短い言葉に温かく込められて居りました。

佐藤先生が母校の新宿高校に赴任され初めて担任となられたのが昭和三十九年の東京オリンピックの年に入学した我々のクラスで、当時三十代半ばの佐藤先生は他のクラス担任の先生方に比べ格段に若く、マシユマロのニッケネームと共に生徒にとつて一番親しみのある存在でした。年配の厳

格な先生方が多い中で、賑やかでやんちゃでもあった我々との間を佐藤先生が取り持って下さり、お蔭で我々は受験勉強ばかりではない高校生活を謳歌し、六中健児の精神を学び取る事が出来ました。

退職後の先生は趣味であつた鉄道を題材にエッセイストとして多くの寄稿や本の執筆をされ、同じ趣味を持つ私にも度々寄稿文や本をお送り頂きました。当初は鉄道技師を目指して工学部に入学されたものの、文学に魅せられ「脱線して」文学部に転部したと話されていた先生ならではの著作が新潮社の「汽笛のけむり今いずこ」で漱石、太宰、芥川などの作品の中の旅と鉄道について興味深く描かれたエッセイ集です。

昨年九月には幹事の歌川君の呼びかけで先生の御自宅近くの聖蹟桜ヶ丘に二十人程が集つての賑やかなクラス会となり、佐藤先生は「来年四月の諸君の卒業五十周年の同期会に是非出席したい」とお元気に話して居られただけに、先生の御出席が叶わず誠に残念です。

先生の御冥福を心よりお祈り致します。



新宿高校旧教職員懇親会便り

二〇一七新宿高校旧教職員懇親会
教育（今日行く） 教養（今日用）を
生きる力にして

「キョウイク、キョウヨウは生きる力。多くの方の出席を心待ちにしています。」とご案内差し上げ、三月十二日、「はなの舞」新宿東南口店で旧新宿高校教職員懇親会を開催。七十名の方から返信を頂き、最終的には三六名の出席で、一時半から五時まで、尽きることなく、飽きることなく、飲み食い語りあいました。

平均年齢七五歳越え？怖いので計算したことは無いが、着任した時二六歳だった私が今年七十歳。古希を迎えて、下から数えて十二番目という集まりでした。

授業や東北ボランティア、演奏会や句会など重なり欠席という方も多く、退職後もなお多方面で活躍されていることに励まされました。

みなさんにお会いするたびに思うのは、誰かに命令されてということではなく、個々人が自由に、活発に、対等な立場（経験の差はあっても）で、日々の教育活動に

ついて論じ、実践することができたことが今も会って語りたいという思いの土台になっているのではないかと思います。

いただいた近況よりいくつかご紹介。「出席したい！昨年から体調悪く一応欠席。新宿高校の教員であつたこと、今でも誇らしく思っています。」「今年も多くの懐かしい先生方にお会いして日々元気に生活する智慧を伺ったり、楽しく有意義に過ごす方法を教わりたいと思います」「四月からは中一と高三を担当します。通勤時のウォーキングと学校での階段の上がり降りが体力維持に役立っています」「現在は、新宿高校時代に養った教養（テニス・麻雀・囲碁・スキー・ゴルフ・釣り・パチンコ等）のおかげで毎日元気に過ごしています。（最近料理教室にも）」

「よく遊びよく学び共に生きる」この気風、いかにも新宿。七十年代以降しばらくの生徒もまた同じ気風だったように思うが、近年はさて。

来年三月、お会いできることを楽しみにしています。連絡届かない方も多いと思います。ご都合つく方はご連絡ください。

（七三年～八九年在職社会科 菅 豊）

百周年記念事業特集

育てよう後輩！

育てよう寄付文化！

同窓会会費納入と

百周年記念事業募金のお願い

創立百周年記念事業実行委員会

委員長 田中俊郎（一七回）

創立百周年記念事業を実現するために、募金活動を行ってきました。募金額は約二九〇〇万円で、延べ一三八八名の方々から温かいご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

しかし、募金目標額の約三割、参加率は会員数の一割を割ります。そこで、体制を立て直すために三月末でいったん締め、新年度から「第Ⅱ期」として、募金目標達成に向けて、より多くの会員、とく若い世代の会員のご協力を得たいと存じます。すでにご参加いただいた会員には、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お金の話ばかりで恐縮ですが、朝陽同窓会会費納入も芳しくありません。『朝陽』の發送者の内、会費が免除されている卒業五年目までの会員と寿会員（八〇歳、今年度から八回生以上）を除いて、会費対象者の納入率は約二四％です。会費をご納入の上、記念募金も是非お願いいたします。

二つの事業を実施しました

「朝陽奨学金」新設と

「館山寮」改修

西出紀久（一五回）

◆朝陽奨学金がスタート

国や地方自治体等による奨学金制度の拡充が徐々に進んでいます。百周年募金を基金とする朝陽同窓会による奨学金制度「朝陽奨学金」が平成二八年度にスタートしました。

「朝陽奨学金」には、経済的に恵まれない各学年三名（一名十万円）に給付する「学年奨学金」、大学進学時に補助が必要な三年生三名（一名十万円）に卒業時に給付する「進学援助金」、火事や交通事故など不慮の災害やその他やむを得ない事情で経済的な危機にある生徒に給付する「就学援助金」の三種を設け、それぞれ定められた選定基準に基づき学校から推薦された生徒に給付するものとなりました。なお、本奨学金は貸与ではなく給付、すなわち返済義務はないものとなりました。

そして平成二九年三月、第一回給付として、計九名に学年奨学金、計二名に就学援助金

助金が前述の基準にて生徒に支給されました。今後とも本制度の内容を充実し勉学に打込める環境を支援したいと思います。

◆「館山寮」改修資金の一部を寄付

館山寮（旧塩見寮）の維持管理と臨海教室の運営に当たっている（財）朝陽会（同窓会とは別組織）では、熱中症の危険性への対処と衛生管理基準の厳格化への対応のため、昨年夏の臨海教室実施に合わせて、食堂と厨房の大改修を実施しました。主な改善点は食堂及び厨房へのエアコン設置と電解水生成装置など最新厨房機器設置と厨房排気対策で、これにより七月二四日から八月八日までの合計一六日に及ぶ臨海教室は快適な環境の中で今年も無事故のうちに終わりました。

改修に要した費用は二五〇〇万円で、（財）朝陽会が手持ち資金のすべて一七五〇万円を支出し、不足分七五〇万円を朝陽同窓会が代表幹事会の承認を得て、百周年募金から寄付しました。

現在の館山寮は昭和四二年に新装されて今年で五〇年。厳しい自然環境にさらされて老化が容赦なく進んでいます。募金による朝陽会への後押しはまだ必要とされています。

百周年記念事業特別寄稿 懐かしの校舎、その時代に輝いた新宿生

初代校舎時代に思いを寄せて

北地節夫（五八年～七七年社会科）



私が旧校舎で生徒と共に過ごしたのは昭和三十三年（一九五八）の九月から約十一年間であつた。

着任当初、授業が

終わって廊下に出ると一人の生徒に呼び止められた。「今の授業で岩波新書と中央公論では若干異なる記述となっている」と言うのだ。これには参入った。私は中央公論に目を通していなかった。早速、帰路紀伊国屋書店に走った記憶がある。数学の田地先生が「参入った参入った。俺のより優れた解答をした生徒がいる」と言いながら職員会議の部屋に入ってかられた。何れにせよ生徒と共に学ぶ姿勢が新宿高校であると自戒した。

また、十六回生の森昌文君が私の授業の後その内容を地誌的に整理していた。素晴らしい。私は後輩たちの参考にと考えて、彼に「君が不要になったら譲ってくれないか」と声をかけた。彼は「すみません、

これは僕の宝ですから」と。私は「申し訳ないことを言つてごめんね」と謝った。彼の言をヒントに、高校時代の体験と思い出将来的にはその時々との比較対象になればと始めたのが「地誌」とその後の「新聞の切り抜き」の宿題であつた。生徒達は大使館めぐりで貰った資料を和訳して来る等のほか、数社の新聞を比較するなど私の予想以上に対応してくれた。現在、徒勞ではなかつたかとも反省している。

旧校舎が落成したのが関東大震災の年である。この風格ある校舎も晩年は周囲の環境の変化、特に甲州街道を走る車の騒音に悩まされていた。十八回三年G組の生徒達は教室の前半部に机を寄せ合つて授業を受けていた。事務長に頼むとすぐに業者を入れて大型黒板に取り替えてくれた。この黒板も病魔と闘いながら、一時間の授業内容を整然と纏めた日本史の平井貞夫先生の板書で埋められ、彼等の教室での絆を一層深めていた。

旧講堂での最後の卒業式は二一回生であつた。昭和四四年（一九六九）三月十六日、春の穏やかな陽光が南窓から入っていた。その日当たりの良い席に数十人の報道

関係者がカメラやライト続き東京大や東京教育大は入学試験を中止していた。この紛争の波は高校にも波及し、新宿高校でもハプニングが予想されたのだろう。ただ、この式の日時を誰が報道関係に伝えたのか、誰が彼らの席を設定したのか、私の知る由もなかつた。卒業式は厳粛裡に進行し卒業生の答辞となつた。卒業生代表の後藤昭君が答辞を読み始めた途端一斉にライトが光カメラが回り始めた。後藤君は物静かな口調でこれを制し、肅々と答辞を読み終えた。彼の毅然たる態度に、自分達の卒業式を邪魔されたくないという卒業生の誇りと怒りを感じたものである。式場を出た報道関係者は、生徒達の「カエレ、カエレ」のシュプレヒコールに急いで校門を後にした。しっかりとした是々非々の分別を持つ優秀な生徒と、互いを認めあう教師集団に恵まれ、二十年に及ぶ新宿高校での勤務は私の誇りであり、その後の教職生活で「経験こそ発想の原点である」ことを痛感していた。卒業生諸君ありがとう。卒業生が誇りとする都立新宿高校の益々の発展を期待し祈念している。



思い出、そして未来へ
今泉 浩子（八七年～〇三年国語科）



高島屋の方から正門
を入れる。左に同窓会館。
名物豊澤先生や茶室で
の茶会等頭を過る。女
性の幽霊の話を思い出
しながら進むと校庭へ。

右手に体育館、桜吹雪を浴び、入学式へ。
館内は冷蔵庫だ。左手にクラブハウス。甲
州街道の方へ向かうと運動場。野球部の
ネットを越えたボールが有名音楽事務所の
外車の屋根に当たった事件を思い出す。

御苑には塀を乗り越えたり穴があいてい
たりで出入り自由？ ところが天皇崩御、
斎場のため塀に電線。電流が流されるよう
にも。玄関前の何本かの樺、烏が作った巣
をはずした用務員さん、しばらく烏に襲わ
れた事件も。玄関左側に会議室。地下鉄サ
リン事件で臨時職会があったことも。そし
て、阪神淡路大震災の朝、SHKで被害に
遭った親族がいらっしゃらないか聞いたこ
とも。

私の前任校は、新設二年目。生徒たちは
歴史の基盤を築き上げようと、文化祭・生
徒会等自らの知恵を絞り、他校をも参考に
しながらの活動に、生き生きしていた。そ

こから伝統校へ。「男子校なので女性が担
任を持つのは難しいよ」とも言われ、赴任
して驚いた。女性の美術の先生が改革して
おられたのだ。

P T A新聞の担当になった。すぐに、
『先輩訪問特集』で、当時日産自動車社長
久米豊氏を取材。続いて池辺晋一郎氏、寺
内大吉氏：と。これが伝統校の底力かと、
保護者の方々の熱心な取組みと共に感動し
たものだ。

また、卒業生が現役生にいかにも惜しみな
く力を注いでいたか。水泳部の館山での活
躍は勿論、顧問になったバドミントン部で
も。当時、合宿地の選定から、社会人でも
休暇を当てての参加、指導等頭が下がる程
だった。茶道部でも、講師を探したり、決
定する迄、出張もこなしながら面倒を見て
くれている。華道部では、全職員中最も長
く新宿校に来ておられる岡講師。創部した
杉浦・北村先生も朝陽祭でお会いした。前
述のバドミントン部でも、経験豊かな先生
が来られ、選手を育て、定年後も今尚、指
導に当たっておられる。素晴らしい新宿高
校愛ではないか。こういう先生・講師・保
護者・先輩に守られ支えられた皆さんが、
応えないわけがない。

厳しいクラブに手をぬかず、自分の学習
法を研究し道を拓き、受験戦争を勝ち抜き、

今や法曹界・研究者・医療関係・芸術家・
写真家・教育者・スポーツ界……。どの分野
でも力を発揮している姿を見ると、先
輩から引き継がれている伝統の上に作られ
た精神の具現化と嬉しい限りだ。

私は定年後、再任用で尚一年新宿に在籍
あと四年有名進学校で嘱託として勤務。そ
こでも自分の意見を持ち、他人とは違う自
分でありたいという意識が見えていた。し
かし、塾に育てられた弊害も見えてきてい
た。

現在の新宿生はどうだろうか。クラブに
力を入れているから成績が下がる。一流大
学に入れないぞ！ と脅かされ、自分の方
針・信念を忘れていないでしようね。レ
ポート作成に文明の利器インターネット検
索、内容をそのまま写しての提出：ないで
しょうね。素早い決着も必要。しかし、試
行錯誤や自分で分析、まとめ、作り上げる
力はずっと必要。ますます多くなる老人パ
ワーも上手に使い、新宿高の誇りを土台に
新しい時代を作る担い手として頑張ってく
ださい。期待大なのです。



池辺晋一郎さん（作曲家15回）が母校合唱コンクール課題曲を作曲

一七回生の発案で一九六三年に始まった母校合唱コンクールは、以来途切れることなく全校行事として定着し、近年は新宿文化センターを会場に一、二年生がクラス対抗で自由曲、課題曲を歌い、成果を競います。今年度は我が国を代表する音楽家、池辺晋一郎さん（15）の課題曲作曲という新しい歴史が加わりました。

これは、昨年十一月の池辺さんの母校講演の打合せ過程で、小峰先生（音楽）から「絶好の機会なので、先輩の池辺さんに作曲を」と発案があり、同窓会から池辺さんに御願ひ、快諾を得て実現しました。

作詞に関しては、池辺さんは多忙故無理ということで、学校から全校生徒に詞を公募したところ十編近くの応募があり、その中から三年D組朝倉環さんの詞「ひとしお物語」が選ばれました。

昨年十二月の母校合唱コンクール当日には池辺さんも多忙の合間を縫って新宿文化センターを訪れ、各クラスの合唱に耳を傾けられ、「一か月半と言う短い期間によくここまで仕上げてくれたものだと感じた。母校のためと思って精魂込めて作曲した甲斐があった」と喜ばれていました。

同窓会としても百周年記念事業の一環と位置付けて学校に全面的に協力した結果、合唱コンクールの歴史に記念すべき一ページを残すことができました。池辺さんの全面的なご協力に心から感謝申し上げます。

（事務局 一五回 西出紀久）

*** **

昨年暮、十二月二日に新宿文化センターで、クラス対抗の合唱コンクールの一部を聴きました。同窓会からの課題曲作曲の依頼で今回、生徒からの応募詩から選び、新しい曲をひとつ書いたので行ってみたという訳です。引き受けたものの、合唱の水



準を確かめる時間もないままの作曲。大丈夫なのだろうか…と懸念していましたが、各クラスが整然と歌いきるので、感心しきりでした。都のコンクールなどで示す合唱部の力もとても高い由。僕が高校生だったのは一九六〇、六三年。それから半世紀以上経って、何もかもが変化したこと

あらためて驚愕を抱きます。

（二七回 池辺晋一郎 PTA会報より）

自分の書いた詩が有名な先輩作曲家の方によって歌になって、後輩のみんなに歌われて、これからも歌い継がれて…。

まず、このような機会を持てたという幸運さに感謝です。そして、私の拙い詩を素晴らしい曲に仕上げてくださった池辺先生には感謝してもきれません。卒業を前にして学校に名前を残せたことを本当に嬉しく思います。

（三年D組 朝倉環）

ひとしお 物語

（合唱曲）

詩 朝倉環
曲 池辺晋一郎

♩ = 68, 108

とさん 朝倉 作詞者
のさん 池辺 作曲者
真 記念写真

臼井総合法律事務所 弁護士 臼井 義真 (19回) 〒100-0013 千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル 4 階 TEL : 03-5157-8989 FAX : 03-3500-0099 e-mail : y_usui@usui-law.jp http://www.usui-law.jp/	笹木和義法律事務所 弁護士 笹木 和義 (25回) 〒737-0811 広島県呉市西中央5-8-29-201号 電話 : 0823-32-7288 Fax : 0823-32-7289
坪井昌造法律事務所 弁護士 坪井 昌造 (26回) 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目10番4号 南青山NKビル 4 階 電話 : 03-5771-8041 Fax : 03-5771-8042 E-mail : tsuboi-lawoffice@muh.biglobe.ne.jp	やまぶき法律事務所 弁護士 佐藤 貴則 (27回) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-1 シンコー・ミュージック・プラザ 5 階イースト・ウイング 電話 : 03-5577-6901 FAX : 03-5577-6902 E-mail : sato@yamabuki-law.jp
(医) 社団 赤坂まつの矯正歯科 院長 松野 功 (27回) 〒107-6102 港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル 2 F TEL : 03-5573-8893 FAX : 03-5573-8892 http://www.ak-matsuno.com/	税理士法人 アドヴァンス会計 副代表社員税理士 松野 (平田) 淳子 (27回) 〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-39-7 F 電話 : 03-5787-3255 Fax : 03-3413-6255 E-mail : j-matsuno@advance-tax.com
山本会計事務所 税理士 山本 展也 (27回) 〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ508 電話 : 03-5459-3411 Fax : 03-5459-3413 E-mail : LDZ00547@nifty.com	いわさき眼科 医学博士・眼科専門医 岩崎 寿子 (35回) 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-32-5 日原ビル 3 階 電話 : 03-5367-5455
島崎会計事務所 公認会計士・税理士 島崎 主税 (28回) 〒160-0023 新宿区西新宿7-1-7 A310 電話 : 03-3361-4793 e-mail:cpashima@ace.ocn.ne.jp	登坂法律事務所 弁護士 登坂 真人 (29回) 〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町6番地 キャナルサイド呉竹101 TEL : 03-3513-7981 FAX : 03-5261-9855

矢島税務会計事務所 税理士 矢島 守 (34回) 〒190-0002 東京都立川市幸町1-14-12 SHOEIビル401 TEL : 042-537-9660, FAX : 042-537-9661 e-mail : yajimal15417@jcom.zaq.ne.jp	鈴木綜合法律事務所 弁護士 中村 悦朗 (35回) 〒160-0022 新宿区新宿3-17-7 紀伊國屋ビル9階 TEL : 03-3352-8539, FAX : 03-3354-3764 e-mail: e-nakal449s.w.k-law@mbr.nifty.com
医療法人社団恵比寿会 淳クリニック ・内科（呼吸器内科・消化器内科・気管食道内科） ・小児科・放射線科 理事長 院長 内藤 淳 (28回) 〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-14-2 ツムラビル2F TEL・FAX : 03-5489-0463 http://www.ebisukai.server-shared.com/	小泉整形外科医院 医学博士 小泉 隆司 (34回) 〒157-0068 世田谷区宇奈根3-13-21 TEL : 03-3417-4781 FAX : 03-3417-4781
包装資材販売会社 株式会社 エムエイティ 代表取締役 富田 裕夫 (15回) 〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-11-4 TEL : 03-3707-4768 FAX : 03-3707-3589 http://www.m-a-t.co.jp	ジユク！ファースト！！ 弁護士 木村 眞一 (16回) 〒100-0004 東京都千代田区丸の内3-4-2 新日石ビルディング9階 高橋法律税務事務所 電話 : 03-3213-5771 FAX : 03-3213-5774 E-mail : s-kimura@abox3.so-net.ne.jp
(一社) 生活サポート基金 ～市民が市民を救う社会へ～ ・生活再生相談・融資・個人再生ファンド ・福祉施設管理・運営事業 代表理事 藤田 愛子 (16回) URL http://www.ss-k.jp	有限会社 ナカ薬局 中 千 鶴 (15回) 中 眞知子 (18回) 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9 TEL 03-3351-3011 FAX 03-3359-9991
石東 (いしづか) クリニック 精神科・心療内科 (もの忘れ外来・睡眠外来) 院長 石東 嘉和 (24回) 〒157-0067 世田谷区喜多見8-18-12 コーポ真木4階 小田急線喜多見駅徒歩30秒 TEL : 03-6411-8739 e-mail : ishizukaclinic@yahoo.co.jp http://ishizuka-cli.byoinnavi.jp/	篠原法律会計事務所 弁護士 篠原 由宏 (15回) 〒105-0001 港区虎ノ門1丁目16番2号岩尾ビル3階 TEL : 03-3502-2086, FAX : 03-3502-2069

朝陽同窓会事務局便り

平成二八年度総会報告

平成二八年度朝陽同窓会総会議事は以下の通りでした。

一、平成二七年度活動報告と決算
・百周年記念募金四月スタート。五月発行の「朝陽」64号にチラシ織り込み。
平成二八年三月末募金実績

一、七三四万円 八四七名

・全国五支部で総会開催（群馬、東海、U
S A支部は非開催年）、戸山交流戦、東京
校歌祭、朝陽クラブなど同窓会活動を展開。
・百周年記念事業開始記念 平成二七年版
同窓会員名簿十一月発行。

・母校キャリア教育支援・進路部通信への
寄稿、キャリアガイダンス講師派遣、特別
授業へのゲストティーチャー派遣。

・新入生七十回生より予納会員制度発足。

二、平成二八年度活動計画と予算

・役員人事 同窓会長…垂水尚志さん（15）
退任 田中俊郎さん（17）新任、副会長…
小野瑞城さん（34）新任 規約改正…副会
長六名から九名に変更。

・百周年記念募金目標三千万円 奨学金制
度発足、館山寮改修、集いの場確保、ホー
ムカミングデー開催などの記念事業展開。

・新卒業生の入会率の更なる向上のため、
新卒業生および保護者への呼びかけを強化。
仕組み改善の定着化を図る。

・母校キャリア教育を引き続き支援・進路
部通信への寄稿、キャリアガイダンス講師
派遣、特別講義。

・毎日新聞連載企画「母校をたずねる」新
宿高校」企画・取材に学校と連携対応。

・全国八支部で総会開催、戸山交流戦、校
歌祭、朝陽クラブなど活動を展開。

上記活動には概算二七、二〇七千円の出費
を想定。

各議案とも吉村幹事長より報告・提案が
あり、異議なく承認。

（事務局 西出紀久）



総会記念講演

親の在宅介護経験を通してみた

地域医療の現状

十八回 竹内 志津佳



私は平成八年に祖
母、二四年に父、平成
二八年に母を看取りま
した。医師として、病
院勤務の傍ら一人、祖
母や両親に長年の生活サ
ポートや、自宅介
護の経験を、高齢者診療
に活かしてきました。

高齢化社会は、平成二七
年には、現役世代1人で
高齢者2.1人を支え、三
五年後には1.2人を支
える事になると推定され
ています。私が経験した
僻地と離島の高齢化率
は、50%前後で、当時
の全国平均よりも常に
二十年程先取りしており
、未来の日本の高齢化
モデルと感ぜながら、老
々介護老人や、独居老
人と向き合って診療して
きました。そして全国
的にも現状を愁う時期
が近々必ず来ると確信
していました。

昨今、国は医療費増加
抑制を目的に、在宅医
療の推進と、施設数削
減の政策を掲げていま
す。急性期病院に入院
後三か月以内に、次の
入院施設移動が決めら
れ、施設には様々な制
約があり、状況によっ
ては近隣

の病院や高齢者施設を探せず、遠方に仕
なく転院、入所せざるを得ない例も多くあ
ります。また、地域ごとに介護保険料、サー
ビスの量や質に差があり、私の勤務してい
た離島の魚島では、介護士不足で、唯一の
デーサービスも週3日しか開けず、小松市
では夜間の吸痰などのサービスは皆無のた
め、すべて私一人に負担が掛り、最期の半
年間は夜間二、三時間毎に起きて、体力の
限界を超えていました。私の場合、在宅で
は、サービスの合間を埋める、民間のスタッ
フが必要で、求人には大変苦労しましたし、
月々三十万円以上掛かかり大きな負担でし
た。現在、在宅呼吸器装着患者さんは、月
十万円程度の年金暮らしのため、予め一カ
月の出費を計算しながら、訪問診療の計画
を立てます。今後、介護不足に対処するに
は、日本が人口減少から、人口増加に転じ、
労働人口を増やし、賃金も上げて、介護の
担い手を増やすことが必要です。

昨今、保険外を同時に提供できる混合介
護が豊島区で初めての試みが行われること
になりました。患者さん負担が、どの程度
になるかが、気がかりです。高齢者が安心
して暮らせる未来になることを期待してや
みません。

(医師)

母 校 支 援

平成28年度母校キャリア教育支援

平成27年度から新たに強化された母校のキャリア教育充実に協力し、各界で活躍する同窓生の賛同を得て、講師の派遣、体験談の寄稿など行ってきました。

(1) キャリアガイダンスへの講師派遣

キャリアガイダンスとは、1年生が文理選択を行う際の参考として、母校が開催する先輩による体験談講演会です。平成28年度キャリアガイダンスは9月7日(水)の午後、1年次教室等10教室を使って実施され、下記の10名の方々が講師を務めて下さいました。



キャリアガイダンス講師の皆さん

氏名	卒回	職業・肩書等
馬場 悠男	15	国立科学博物館名誉研究員
橋本 健一	19	千葉県立保健医療大学非常勤講師
佐藤 重和	20	外務省、オーストラリア、タイ大使
国沢 真弓	33	フリーアナウンサー
濱口 建	34	(株)博報堂勤務
入澤 武久	36	辯護士
中西 智美	38	市川市立東国分中学校看護教諭
畑中 千晶	40	敬愛大学国際学部教授
原田 将史	48	建築事務所経営 武蔵野美大・日本工業大学講師
田久保裕之	52	都立小山台高校定時制過程保健体育科教諭

(2) 月刊紙『進路部通信—新宿進化』への寄稿

平成27年度から母校進路指導室が全校生徒向けに創刊した月刊紙『進路部通信—新宿進化』(A4サイズ4ページ)に毎号、学校からの依頼に基づき各界第一線で活躍する同窓生が、将来の進路選択の参考となり、励みとなる原稿を寄稿しています。

平成28年度発行の12～22号（8月は休み）で下記の方々が執筆者されました。

発行号	氏 名	卒回	寄稿タイトル
12 (H28. 4)	濱口 建	34	人生をデザインしよう
13 (H28. 5)	篠原厚子	25	自分で食べていける人
14 (H28. 6)	細矢 剛	34	多様性は宝
15 (H28. 7)	小中もも子	41	新宿高校には“好き！”がいっぱい
16 (H28. 9)	吉田愛子	38	看護師という職業を通して社会の役に立ちたい
17 (H28.10)	宇治弘晃	32	補欠の主将、世界へ
18 (H28.11)	池辺晋一郎	15	雑駁さに感謝
19 (H28.12)	西村雄一	43	夢と感動を支えるものとして後送
20 (H29. 1)	山下信一郎	37	歴史・遺跡と向き合う人生
21 (H29. 2)	本間 謙	34	国際協力と異文化との闘いアフリカ勤務 14 年の経験
22 (H29. 3)	青柳正規	15	40 数年前のボンベイ

講演内容は同窓会ホームページ表紙＞母校支援活動＞進路部通信 でご覧下さい。

(3) 同窓会員による講演会

平成28年度も、各分野第一人者である下記3名の方が母校で講演されました。

6月29日(水) 遠藤誉さん(13回)東京福祉大学国際交流センター長 中国研究家

7月7日(木) 竹内徹さん(30回)東京工業大学建築学系 主任教授

11月16日(水) 池辺晋一郎さん(15回)作曲家

(4) 毎日新聞連載企画「母校をたずねる—新宿高校編」取材対応

毎日新聞地方部から企画が母校に持ち込まれたのは本年4月。同窓会は母校と緊密な連携の下、数か月にわたる取材に万全の態勢で対応しました。記事は6月3日から8月26日までの毎週金曜日全12回連載され校内外に大きな反響を呼びました。

*同窓会では全12回記事を収録した合冊を作成しました。同期会、クラス会などでご活用ください。

(5) その他の母校支援

この他にも、①各部活 OBOG 会による現役支援、②奨学金支給(別項)、③定期健康診断への医師応援、④財団法人朝陽会による臨海教室支援ほか、様々な場面で母校への熱い思いを持った様々な組織、同窓会員が母校支援を繰り広げています。

(事務局 西出紀久)

平成 29 年「第 23 回 0 の会展」のご案内

新宿高校絵画部 OB を中心に結成された 0 の会は、今年で 23 年目を迎えます。
 昨年は恩師 吉江新二先生をはじめ、会員の旅立ちが続き、寂しい思いをいたしました。しかし、一同、伝統を引き継ぎ、さらなる発展・充実を目指すべく制作に励み、新たな仲間を加えて、今年もまた展覧会を開催いたします。
 皆様のご来場をお待ちいたしております。開催要領は下記の通りです：

会期：平成 29 年 11 月 20 日（月）～ 11 月 26 日（日）

時間：午前 11：00～午後 6：30（最終日は午後 3：00 まで）

場所：ギャラリーくぼた（4F）中央区京橋 2-7-11 TEL：03-3563-0005

(14 回 澤登丈夫)

昨年度は100周年記念事業が本格化した記念すべき年であります。1億円を目標とした募金活動は、昨年度末で約3千万円のご協力を頂きました。また様々な事業が実施され、その結果については、母校から多大の謝意を受けております。

- ・朝陽奨学金支給開始
- ・館山寮厨房食堂改修工事完了
- ・ホームカミングディ開催
- ・合唱コンクール課題曲贈呈

100周年記念事業以外のものでも、例年以上の催しがあり、大勢の同窓生が参加しました。

- ・総会と18回生の記念講演開催
- ・母校の「進路部通信」への寄稿
- ・戸山新宿交流戦の開催
- ・7朝陽支部総会の開催
- ・キャリアガイダンス卒業生講演10名
- ・朝陽祭出展
- ・第24回校歌祭参加
- ・朝陽クラブ開催3回
- ・同窓生母校講演開催3回
- ・佐藤喜一先生お別れの会開催

今年度は軌道に乗り始めた100周年記念事業を更に展開する年です。まず為すべきは募金活動の加速化です。今年度と来年度を募金第Ⅱ期と称し、2年間で7千万円を集めたいと計画しております。

集めた募金はまず先に朝陽奨学金の増額に使用します。経済格差の波は母校の生徒へも押し寄せております。何とか支給額を増やし、他都立高校同窓会並みとしたいと考えております。

また老朽化した館山寮の維持保全に支援が必要です。今年度は以下の改修工事に対し頂いた募金から900万円を支出する必要があると考えます。

- ・門扉改修
- ・船倉改築
- ・竹藪伐採
- ・天井断熱

特に門扉改修と竹藪伐採は地元の方々からも毎年改善の要望を受けております。地元との融和は臨海教室開催の必須の条件でもありますので、今年度はぜひとも実行したいと思います。

集いの場に関し、レストランとの利用契約は継続しており、それなりの利用実績は上がっております。しかし夜間や土日の自由な利用には依然として大きな制限があります。地価が日本一と言ってもよい新宿で気ままに使用できる施設を安価に賃貸することは至難の業であります。しかし創意工夫を重ね、なんとか同窓会員が自由に利用できる場を確保したいと考えております。

また100周年に際し記念音楽会を祝賀会とは別に開催したいとの話も持ち上がっております。記念音楽会の出演者には、新宿高校を卒業したすべての音楽人を網羅したいと考えており、今年から関係者が組織をつくり、計画を練り上げ、どこにも負けない記念音楽会を開催したいと思います。

更に母校と協力し、100年史の編纂を今年度から開始する予定です。どこの都立高校も100年史の編纂には力を入れております。我々も他に負けない100年史を作成したいと意気込んでおります。

その他今年もホームカミングディ開催や総会、朝陽クラブや戸山新宿交流戦、東京校歌祭など盛りだくさんなイベントを開催します。皆様方の大勢のご参加をお持ち申し上げます。

平成28年度決算(案)
平成28年4月1日より平成29年3月31日まで

△印は予算に対して実績が少なかったことを示す

勘定科目	予算	実績	差異	差異理由(予算→実績)
<収益の部>				
入会金	3,600,000	4,065,000	465,000	240名→271名
年会費	1,180,000	926,000	△ 254,000	590名→463名
長期会費	4,831,400	4,562,856	△ 268,544	
寄付金	0	3,000	3,000	
名簿売上	200,000	362,000	162,000	50部→70部売上
朝陽広告料収入	750,000	584,000	△ 166,000	大口広告主一部辞退あり
100周年記念募金	30,000,000	11,853,673	△ 18,146,327	予算過大計上
預金受取利息	8,000	9,632	1,632	
朝陽クラブ収入	240,000	270,000	30,000	
経常収益合計	40,809,400	22,636,161	△ 18,173,239	
<費用の部>				
事務局手当	5,376,000	5,375,000	△ 1,000	
通勤交通費	477,000	410,830	△ 66,170	
会議費	775,000	349,928	△ 425,072	代表幹事との懇親会取り止め
通信費	390,000	355,406	△ 34,594	
光熱費	216,000	143,793	△ 72,207	
備品費	1,917,000	1,883,108	△ 33,892	
消耗品費	911,000	913,913	2,913	
記念品・慶弔費	166,000	249,543	83,543	
銀行郵貯手数料	235,000	170,656	△ 64,344	
出張旅費	237,000	237,448	448	
寄付金	100,000	100,000	0	
名簿印刷発送費	100,000	76,626	△ 23,374	
朝陽発行費	3,458,500	3,296,043	△ 162,457	発行部数 19,500→19,000部 単価 71.8→69円 などによる節減
総会費	709,000	727,582	18,582	
支部助成金	260,000	170,000	△ 90,000	
校歌祭費用	90,000	71,200	△ 18,800	
朝陽クラブ運営費用	360,000	410,400	50,400	
朝陽祭参加費用	50,000	121,295	71,295	
活動助成金	130,000	157,500	27,500	
キャリアガイダンス費用	100,000	70,532	△ 29,468	
100周年記念-募金対象	8,400,000	8,600,000	200,000	進学援助金を新たに給付
100周年記念-その他	2,150,000	645,424	△ 1,504,576	ホームカミング日を校内で実施したこと による節減
予備費	600,000	0	△ 600,000	
経常費用合計	27,207,500	24,536,227	△ 2,671,273	
当期経常増減額	13,601,900	△ 1,900,066	△ 15,501,966	

* 当期経常増減額

- + 募金が予想より下回ったため、当期経常収益はその分減少した
- + 経常費用は、ホームカミング日を校内で実施したことなど各項目できめ細かい管理を行い、260万円余節減した

財産目録 平成29年3月31日現在

科目	金額	摘要	科目	金額
<資産の部>			<負債の部>	
(募金引当預金)			源泉徴収所得税預かり	34,705
定期預金	10,000,000	三井住友信託	予納会費-70回生、71回生	2,630,000
定期預金	10,049,437	ゆうちょ銀行	長期会費未経過分当金	13,299,678
普通預金	545,436	三菱東京UFJ	預かり金等(註1)	3,527,907
(その他預金)			計	19,492,290
定期預金	20,000,000	三菱東京UFJ、三井住友	<繰越金>	
郵便貯金	13,801,526	東京貯蓄センター他	100周年記念募金繰越金(註2)	20,594,873
普通預金	4,169,731	三菱東京UFJ、リそな他	一般繰越金	18,617,695
未収入金	2,800		計	39,212,568
現金	135,928		合計	58,704,858
合計	58,704,858			

註1) うち2,702,907円はあい基金

註2) 100周年記念募金繰越金

剰余金処分案

1.前年度繰越金	41,112,634
当期経常増減額による取り崩し	△ 1,900,066
計	39,212,568
2.これを次の通り処分します	
次期繰越金	39,212,568

27年度募金	17,341,200
28年度募金	11,853,673
募金計	29,194,873
奨学資金給付	△ 1,100,000
館山寮改修工事	△ 7,500,000
主要3事業支出計	△ 8,600,000
次年度繰越金	20,594,873

会計監査報告

平成28年度朝陽同窓会の会計監査を行いましたところ、会計帳簿、および証憑書類との照合結果についてはいずれも一致していることを確認いたしました。

平成29年 4月12日

監事 山本展也・島崎主税

平成29年度予算(案)
平成29年4月1日より平成30年3月31日まで

△印は前年実績に対して予算が少なくなったことを示す

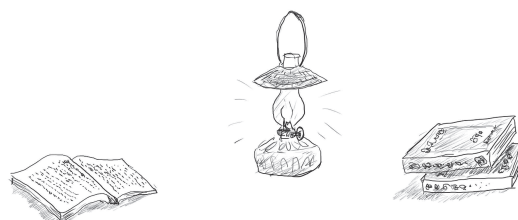
勘定科目	予算	前年実績	差異	差異理由(予算←実績)
<収益の部>				
入会金	3,975,000	4,065,000	△ 90,000	
年会費	1,014,000	926,000	88,000	
長期会費	5,018,000	4,562,856	455,144	前年実績の10%アップ
寄付金	0	3,000	△ 3,000	
名簿売上	0	362,000	△ 362,000	今年は売上見込まず
朝陽広告料収入	727,000	584,000	143,000	新広告主を積極的に勧誘
100周年記念募金	35,000,000	11,853,673	23,146,327	{ 秋季広報誌を新たに発行して 広報活動を積極的に進める
預金受取利息	8,000	9,632	△ 1,632	
朝陽クラブ収入	450,000	270,000	180,000	90名から150名参加を期待
経常収益合計	46,192,000	22,636,161	23,555,839	
<費用の部>				
事務局手当	6,312,000	5,375,000	937,000	代替要員1名分
通勤交通費	469,000	410,830	58,170	
会議費	420,000	349,928	70,072	
通信費	390,000	355,406	34,594	
光熱費	170,000	143,793	26,207	
備品費	50,000	1,883,108	△ 1,833,108	昨年度はパソコン等を更新
消耗品費	839,000	913,913	△ 74,913	
記念品・慶弔費	116,000	249,543	△ 133,543	昨年度会長・校長交代等慶弔あり
銀行郵貯手数料	198,000	170,656	27,344	
出張旅費	187,000	237,448	△ 50,448	
寄付金	100,000	100,000	0	
名簿発行費	104,000	76,626	27,374	{ 発行部数 19,000→20,000部 単価 69→72円 などによる増加
朝陽発行費	3,784,000	3,296,043	487,957	
総会費	781,000	727,582	53,418	
支部助成金	200,000	170,000	30,000	
校歌祭費用	75,000	71,200	3,800	
朝陽クラブ運営費	675,000	410,400	264,600	参加者90名から150名に
朝陽祭参加費	50,000	121,295	△ 71,295	
活動助成金	168,000	157,500	10,500	
キャリアガイダンス	113,000	70,532	42,468	{ 館山寮改修費用増150万円 母校奨学金増40万円 秋季広報誌発行予定160万円など
100周年記念-募金対象	10,500,000	8,600,000	1,900,000	
100周年記念-その他	2,900,000	645,424	2,254,576	
予備費	600,000	0	600,000	
経常費用合計	29,201,000	24,536,227	4,664,773	
当期経常増減額	16,991,000	△ 1,900,066	18,891,066	

- * 当期経常増減額
 - + 100周年記念第Ⅱ期募金開始により、経常額は1,891万円の黒字となる予想
 - + 募金の使途は募金対象3事業に限定する
- * 経常費用
 - + 100周年記念事業として本年度も館山寮の改修工事900万円を支出する
また母校奨学金制度を充実させるため、40万円の支出増大を行う
 - + 100周年募金を継続するために、秋季にも広報誌を新たに発行し
周知活動を年間行事とすることを計画する

朝陽同窓会会員諸氏の寄贈著書紹介

平成28年度に下表のように多くの会員の方々から著作の寄贈をいただきました。
いただいた図書は事務局にて保管後、適宜母校の図書館に寄贈しております。

著 者	卒回	書 名	出 版 社	本体価格
加藤 廣	中2	水軍 遙かなり	文藝春秋	¥1,850
久米 豊	中13	二階の居候	同人	私家版
		随想 春夏秋冬	同人	私家版
		随想 春夏秋冬(続)	同人	私家版
		隠居の雑記帳	同人	私家版
		隠居の雑記帳(続)	同人	私家版
		心に残るうた	同人	私家版
中井 晶夫	中18	ドイツ人とスイス人の戦争と平和	南窓社	¥4,500
		西欧化されない日本	えにし書房	¥2,500
		ヒトラー時代の抵抗運動	毎日新聞社	¥1,100
大塚 牧人	中21	聞き上手	文藝春秋企画出版部	¥2,000
Anacott Artiste (笠原 知子)	元母校 美術教 師	カンボジア 輝く瞳の子ども達の絵画集	Punloeu Sovann Printing House	¥1,200 KDDI財 団経由送 料込
日暮 眞	5	にこにこ家族の育児全書 育児編・病気編	社会保険出版社	¥3,500
		私の育児日記 前期・後期	森永乳業(株)	-
高橋 進	20	生物多様性と保護地域の国際関係 対立から共生へ	明石書店	¥3,000
絲山 秋子	37	不愉快な本の続編	新潮社	¥1,200
		離陸	文藝春秋	¥1,750
阿部 浩一	38	東北近世の胎動	吉川弘文館	¥2,400
		東北史を開く 史学会125周年リレーシン ポジウム2014	山川出版	¥2,000



戸 山 交 流 戦

	第 8 回ゴルフ交流戦	第 8 回囲碁交流戦	第 6 回ブリッジ交流戦
日時	平成28年11月18日	平成28年 6 月13日	平成28年 6 月25日
場所	鳩山カントリークラブ	高田馬場囲碁クラブ	四谷ブリッジセンター
参加者・新宿	23名	10名	14名
参加者・戸山	24名	10名ほど	12名
ルール	新ベリア方式の両校上位10名のネットスコア合計団体戦	2 回対戦（各 2 名組） 持ち時間45分 オール互先コミ 6 目半	8 ボード 3 ラウンドの チーム戦
勝敗	負け、通算 1 勝 7 敗	総合は 8 勝 8 敗で 引き分け 通算新宿の 3 勝 2 敗 3 分け	108.71 対 71.29 で 新宿が勝ち、 通算新宿の 4 勝 2 敗



上：ゴルフ 優勝杯は今年も戸山へ
左：囲碁交流戦参加者記念撮影
下：ブリッジ交流戦参加者記念撮影



第二四回東京校歌祭

今年で二四回目となった東京校歌祭は、昨年に引き続き杉並公会堂を会場に十月二三日（日）十二時三十分から行われました。



今年は現役音楽部員が試験直前とあつて参加できなかったものの、百周年記念事業の一環として今年発足した朝陽合唱団メンバー多数が参加し、六声会を中心としたOB・OG新旧メンバーと声を合わせて、



旧制六中校歌、現新宿高校校歌、健児の歌の三曲を力いっぱい歌いました。小峰先生の指導のもとめきめき力をつけている朝陽合唱団と、東京都を代表する男声合唱団・六声会の皆さんによるハーモニーと声量は、今年も圧倒的な迫力で他校を圧倒しました。

（事務局
西出紀久）



編集後記

今号では世界でご活躍の恩師や社外からの随筆寄稿をいただきました。お忙しい中のご寄稿に感謝いたします。また、毎号広告出稿により同窓会活動を財政的にご支援下さっている皆様に感謝の意をこめて広告目次を新たに設けました。

周年記念記事をとりまとめてくださいました代表幹事の皆様にも厚く御礼申し上げます。おかげさまで、新宿高校の素晴らしさを再認識させられる記事が充実したことがありがたく存じます。

（朝陽編集委員長 一八回 林 慶治郎）

東京都立新宿高等学校朝陽同窓会 同窓会会報 朝陽 66 号

発行 日：平成29年5月1日

発行 人：東京都新宿区内藤町11番4
東京都立新宿高校内
朝陽同窓会長 田中 俊郎

表紙デザイン：草川 衛（18回）

非 売 品

本文（写真、文章）の無断転用転載はお断りいたします

ベトナムに「日越大学」開校 両国関係強化へ人材育成支援

平成 28 年 9 月 8 日、日越大学の開学式がベトナムの首都ハノイで行われ、日越両政府の要人、公的機関・大学の関係者をはじめ、参加者 400 人を超える盛会となりました。

日越大学は、国際水準を満たす質の高い人材を育成し、先端技術・総合科学分野における応用研究成果を遂げ、日本とベトナム両国の交流・協力関係を促進することを使命としています。

アジア最高水準の研究・教育機関をつくるとともに、ベトナムの政府や日系企業をはじめとする実業界で中核を担う人材の育成を目指しています。

ゼンショーホールディングスが 2011 年から支援を行っている「ゼンショー 東京大学・ベトナム国家大学ハノイ校 日本研究拠点プログラム」からは、日本研究を専門とする修士課程の大学院生 5 名が、日越大学地域研究専攻に入学しました。

「ゼンショー 東京大学・ベトナム国家大学ハノイ校 日本研究拠点プログラム」は、ベトナムにおける若手日本研究者を養成するため、日本をより肌で感じ、日本語による直接的な日本理解をふまえた新しい日本研究の潮流を生み出すことを目標に、ゼンショーホールディングスからの寄付に基づき、東京大学大学院総合文化研究科、ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学との間で設けられた支援プログラムです。

このプログラムでは、学生の問題関心に即した科目を取り上げて講義を開設するとともに、両国間において活発な学生交流を実施してきました。

このプログラムにおけるゼンショーホールディングスの支援については、ベトナムの大学との学術交流を、将来を担う若手の人材育成の側面から大きく促進するものであり、長期にわたる継続的な支援が評価され、平成 26 年度 東京大学稷門（しよくもん）賞を受賞しました。



ゼンショーホールディングスは、ベトナムにおける人材育成と日越両国間の関係強化のため、日越大学と「ゼンショー 東京大学・ベトナム国家大学ハノイ校 日本研究拠点プログラム」を、これからも応援してまいります。

東京大学稷門賞授賞式で賞状を受け取る

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長兼社長 小川 賢太郎
(写真右側)

株式会社 ゼンショーホールディングス

代表取締役会長兼社長 小川 賢太郎 (19回卒)

〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル

ZÉNSHO

平成28年度同窓会総会・懇親会ご案内

今年の朝陽同窓会総会は以下のとおり実施します。

皆様のご出席をお待ちしています。

懇親会は4時から、参加無料です。お気軽にご参加ください。

日時： 5月27日（土）午後2時～6時

場所： 総会 新宿高校3階視聴覚室 2時～

懇親会 クルーズ・クルーズ新宿店 4時～

総会議事：

- 28年度活動報告・決算
- 29年度活動計画・予算
- 100周年記念事業、その他

記念講演：

「わが愛憎の画家たち・・・美術記者40年」

芥川喜好氏（読売新聞編集委員・19回）



募金のお願い

皆様のご協力により、この2年間で100周年記念募金に約3000万円のご寄付が集まりました。この一部を資金に、昨年度「朝陽奨学金」の設立と「館山寮」改修を行いました。この給付型の奨学金については、母校にも生徒たちにも大変喜んでいただいています。寮の改修は利用者の皆さんにとっても好評です。後輩たちのために何かをしたいという私たちの想いが、着実に形になりつつあります。

しかしながら、各事業の拡充に向けて、さらなる資金が必要です。そこで引続き（第Ⅱ期）の寄付を新たに募りたいと思います。この期の目標は7000万円です。皆様方の温かいご支援をお願いします。詳しくは同封の主意書（第Ⅱ期）をご覧ください。

第二回ホームカミングデーの開催

初めての試みとして行われた昨年のホームカミングデーには、お世話になった恩師の方々や、150名もの卒業生が参加され、楽しいひと時を過ごしていただきました。

今年も、校内ツアーその他、皆様に喜んでいただける企画を準備してお待ちします。どうぞお誘い合わせの上奮ってご参加ください。

第二回ホームカミングデーの開催日は、11月18日（土）。

さあ母校に集合です。



会費納入のお願い

朝陽同窓会のさまざまな事業は、すべて皆様からの会費によってまかなわれています。同窓会活動をさらに充実させるためにも、一層のご支援ご協力をお願いいたします。

- 年会費2,000円、長期会費10,000円（6年間有効）のいずれか。
- 会費免除の制度もあります。詳しくは2ページをご覧ください。